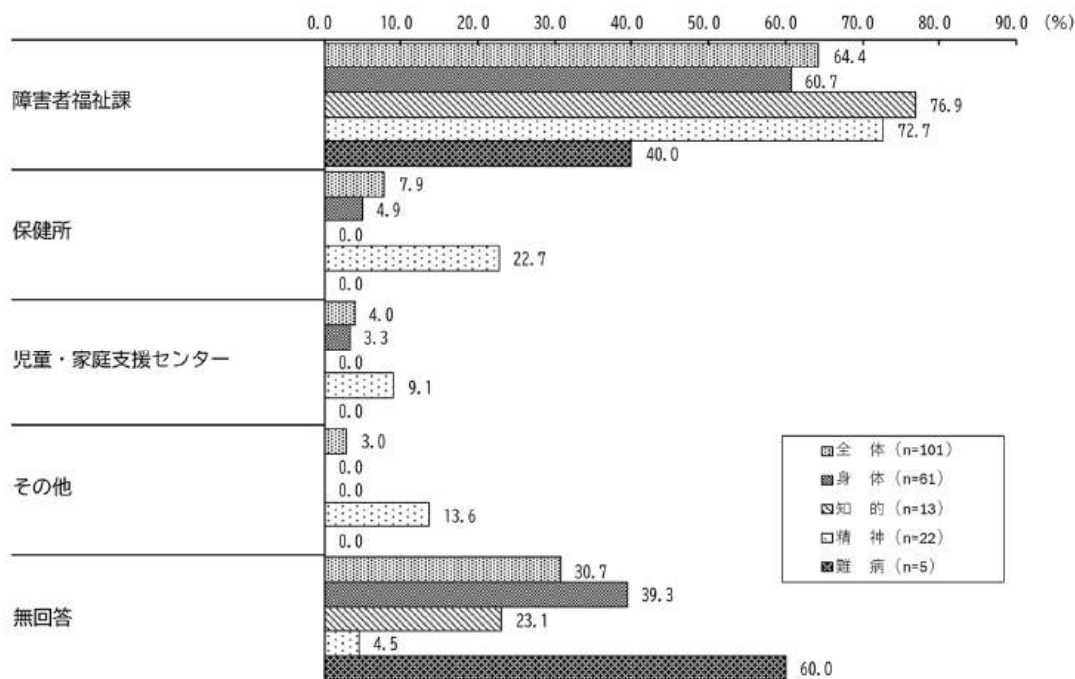


「行政機関の相談窓口」と答えた方の具体的な機関について、全体でみると、「障害者福祉課」が64.4%で最も高く、次いで「保健所」が7.9%、「児童・家庭支援センター」が4.0%、となっている。

調査票種別でみると、すべての種別で「障害者福祉課」の割合が最も高くなっている。

障害や障害福祉サービスの情報の入手先 <全体（身体、知的、精神、難病）>

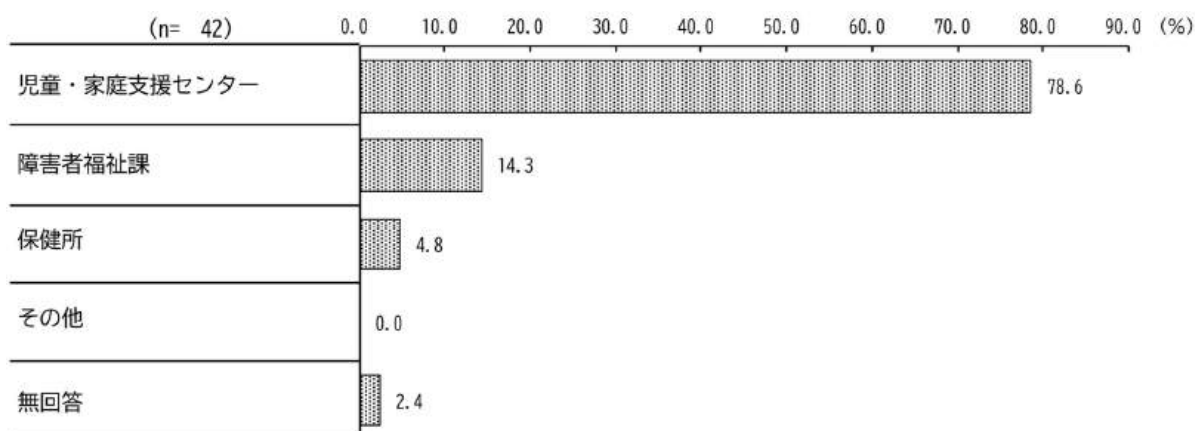
【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



障害児の「行政機関の相談窓口」と答えた方の具体的な機関をみると、「児童・家庭支援センター」が78.6%で最も高く、次いで「障害者福祉課」が14.3%となっている。

障害や障害福祉サービスの情報の入手先 <障害児>

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「障害者福祉課」が18.5ポイント増加し、「児童・家庭支援センター」が8.6ポイント減少している。

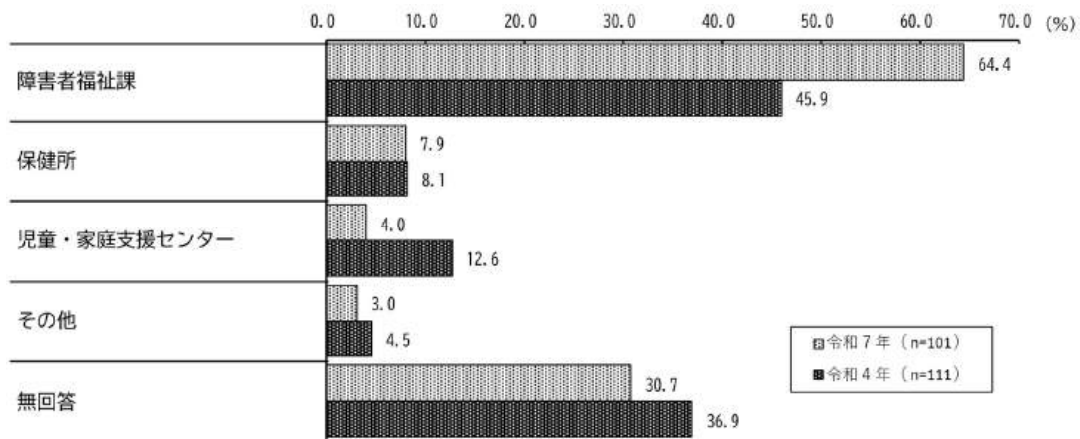
調査票種別で見ると、「障害者福祉課」が知的で40.1ポイント、精神で24.1ポイント、身体で12.8ポイントそれぞれ増加し、「児童・家庭支援センター」が知的で31.6ポイント減少している。また、

障害児では、「障害者福祉課」が10.3ポイント増加し、「児童・家庭支援センター」が5.4ポイント減少している。

「障害者福祉課」が、全体では令和4年から引き続き最も高い傾向にあり、障害児も令和4年から増加傾向にあることから、相談先として定着していることがわかる。

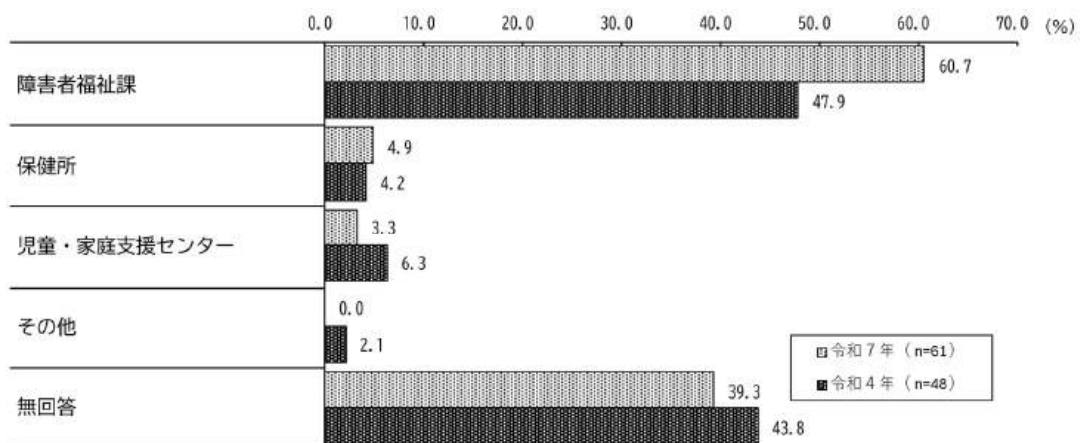
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



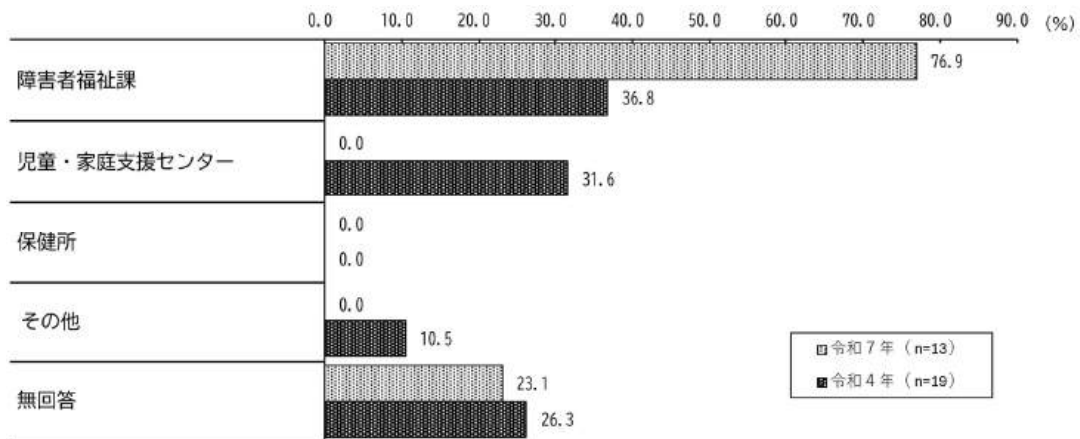
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜身体＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



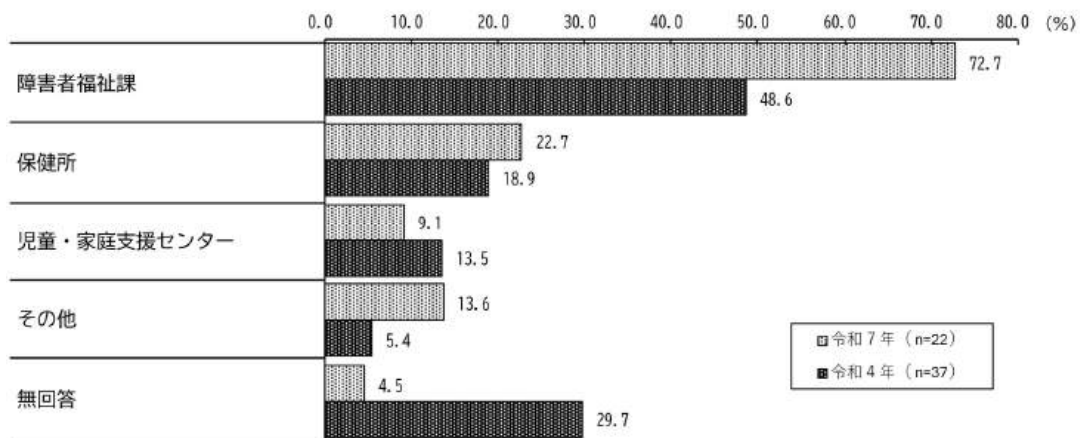
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜知的＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



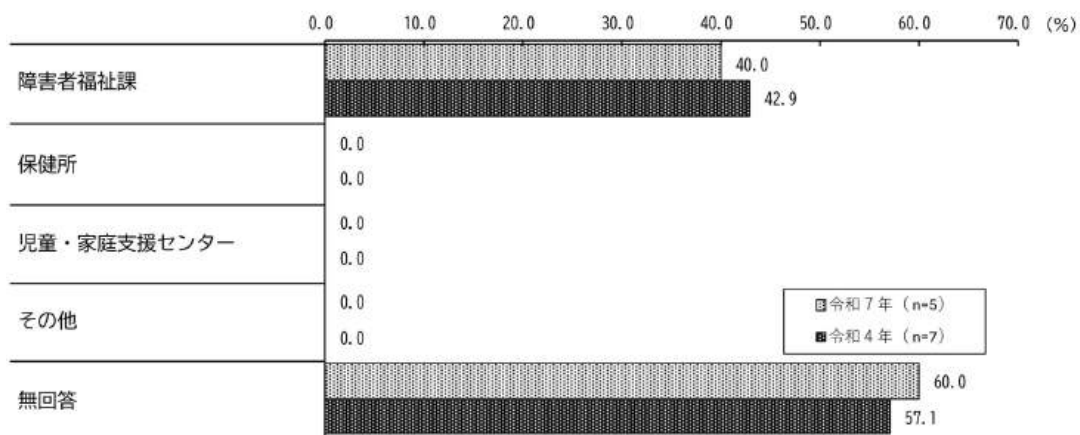
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜精神＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



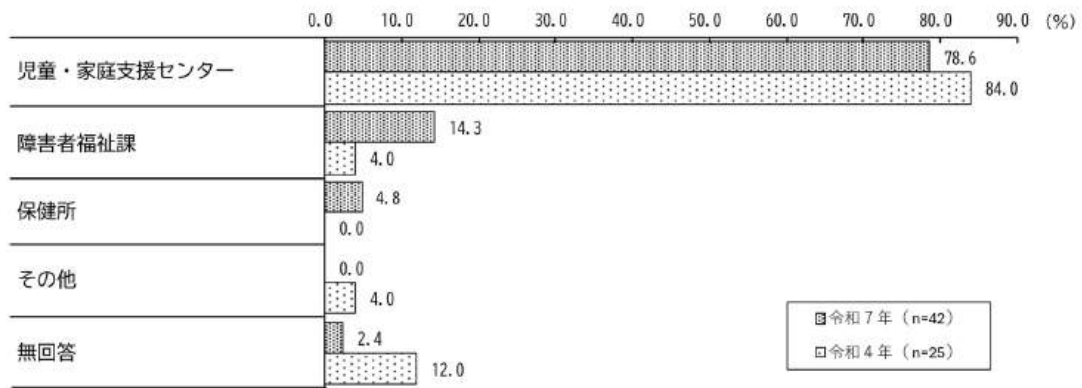
障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜難病＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



障害や障害福祉サービスの情報の入手先（経年比較）＜障害児＞

【行政機関の相談窓口の具体的な機関】



9 災害時の避難について

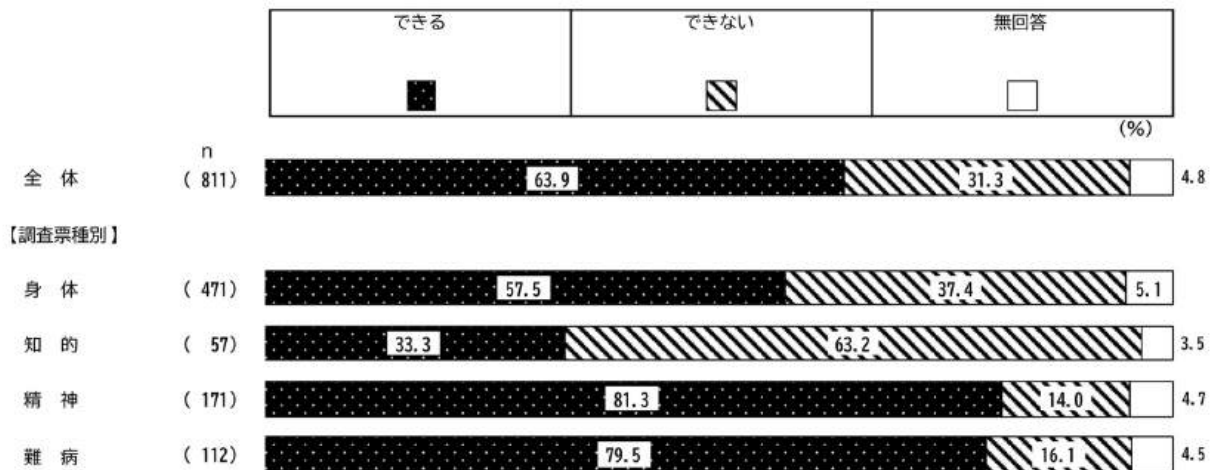
(1) 災害時の一人での避難の可否

問 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(1つだけに○)

災害時の一人での避難の可否について、全体で見ると、「できる」が63.9%、「できない」は31.3%となっている。

調査票種別で見ると、知的では「できない」が63.2%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

災害時の一人での避難の可否 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の災害時の一人での避難の可否をみると、「できる」が27.5%、「できない」は71.6%となっている。

災害時の一人での避難の可否 <障害児>



【経年比較】

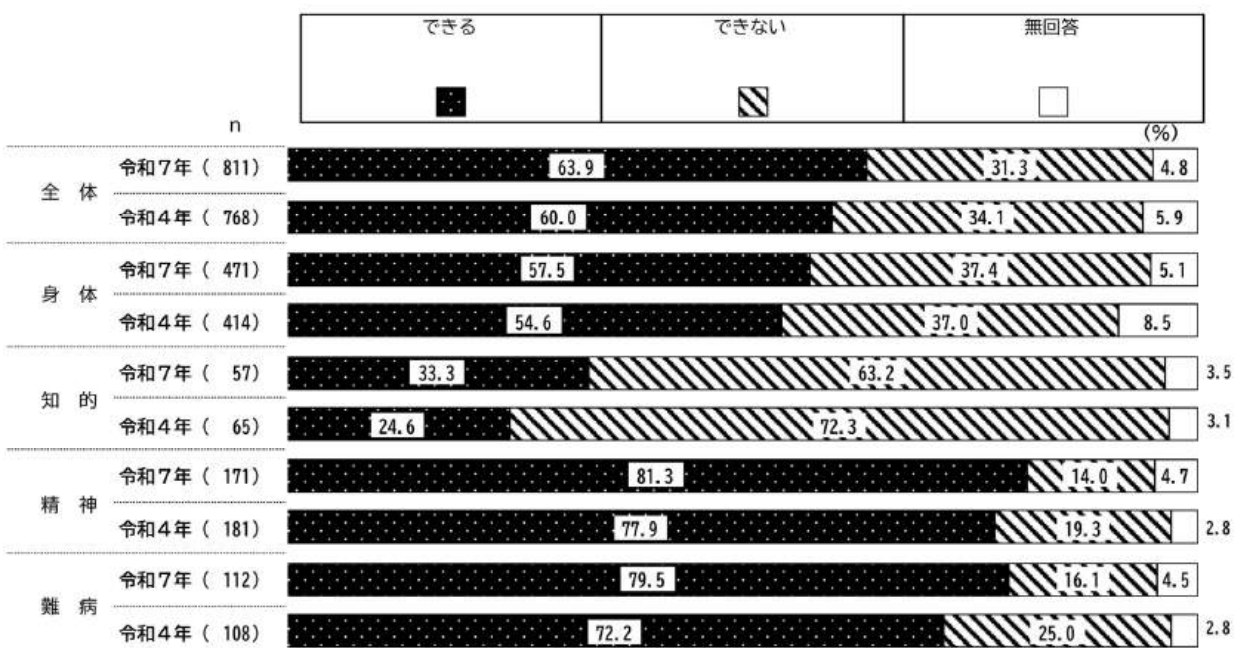
令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられないが、「できる」が3.9ポイント増加している。

調査票種別でみると、「できる」が知的で8.7ポイント増加している。

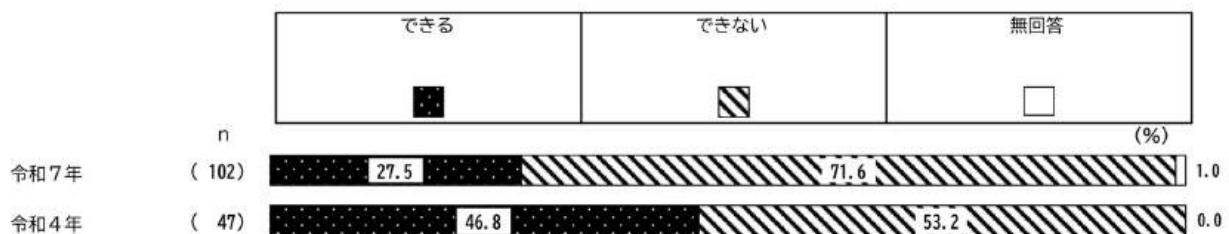
障害児では、「できる」が19.3ポイント減少している。

全体では6割強が一人で避難できる一方、一人で避難出来ない障害児は7割強にのぼる。兄弟がいる家庭の場合、家族の負担がさらに増えることが予想されるため、行政等家族以外からのサポート体制の確立や、より一層の防災対策が求められる。

災害時の一人での避難の可否（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



災害時の一人での避難の可否（経年比較）＜障害児＞



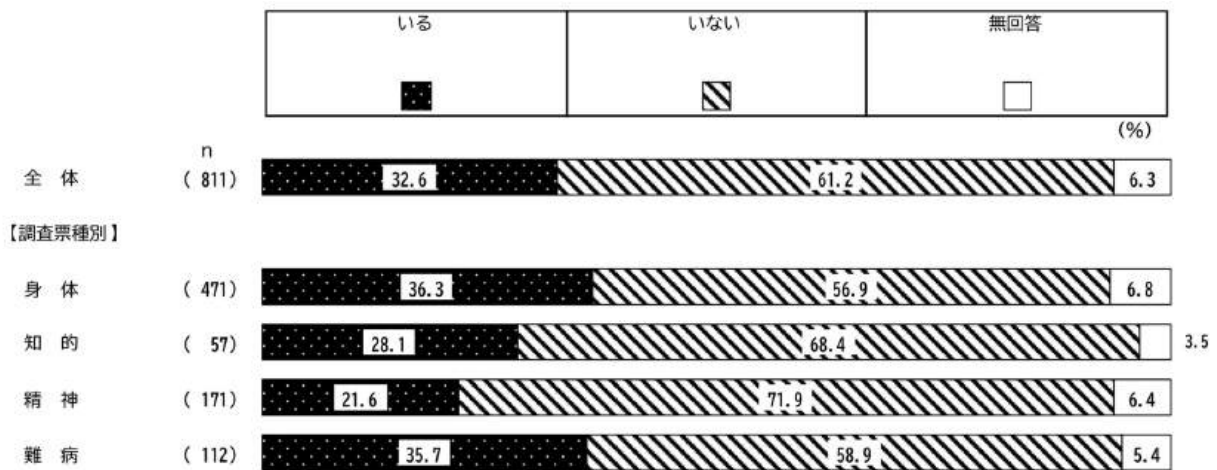
(2) 近隣の援助者の有無

問 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(1つだけに○)

近隣の援助者の有無について、全体でみると、「いる」が32.6%、「いない」は61.2%となっている。

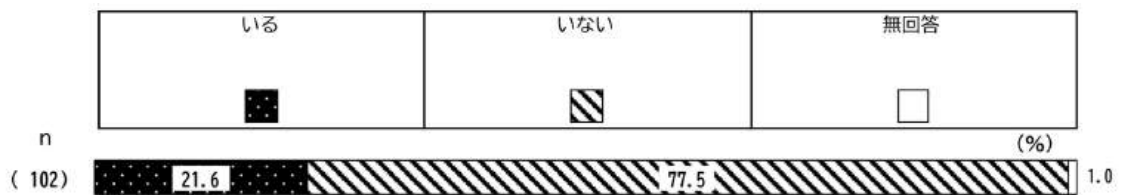
調査票種別でみると、精神では「いない」が71.9%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

近隣の援助者の有無 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の近隣の援助者の有無をみると、「いる」が21.6%、「いない」は77.5%となっている。

近隣の援助者の有無 <障害児>



【経年比較】

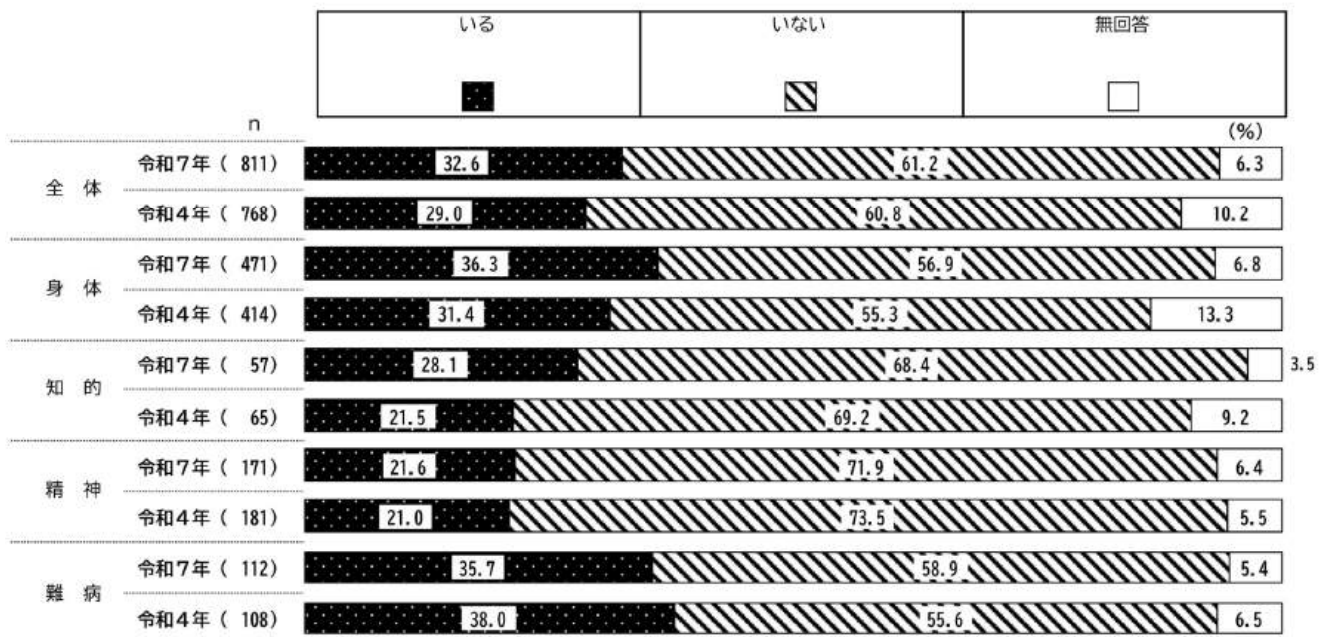
令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられないが、「いる」が3.6ポイント増加している。

調査票種別でみると、「いる」が知的で6.6ポイント、身体で4.9ポイントそれぞれ増加し、難病で2.3ポイント減少している。

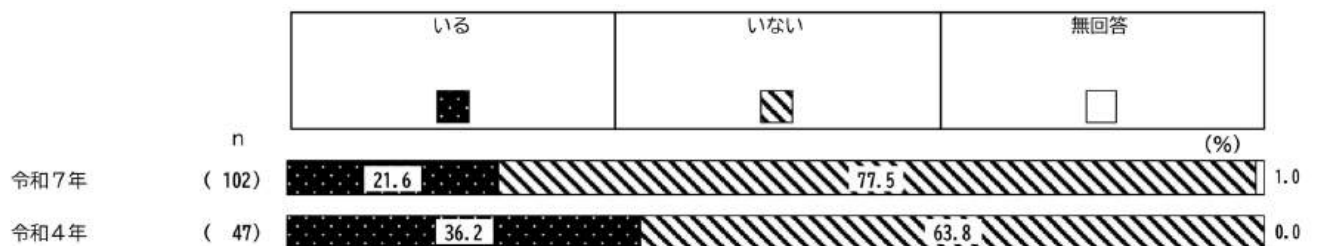
障害児では「いる」が14.6ポイント減少している。

令和4年と比較して、全体では近隣における援助者がいると答えた方が増えている一方、障害児においては7割以上が近隣の援助者がいない状況となっている。これは、障害児の保護者が全体と比べて若年の傾向があり、近隣住民との定常的なコミュニケーションの場が不足していることも原因の一つと考えられる。近隣住民との交流の場や、障害児を育てる親のコミュニティを創出し、相互に支援しながら共存できる援助者を増やす為のサポートが必要である。

近隣の援助者の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



近隣の援助者の有無（経年比較）＜障害児＞



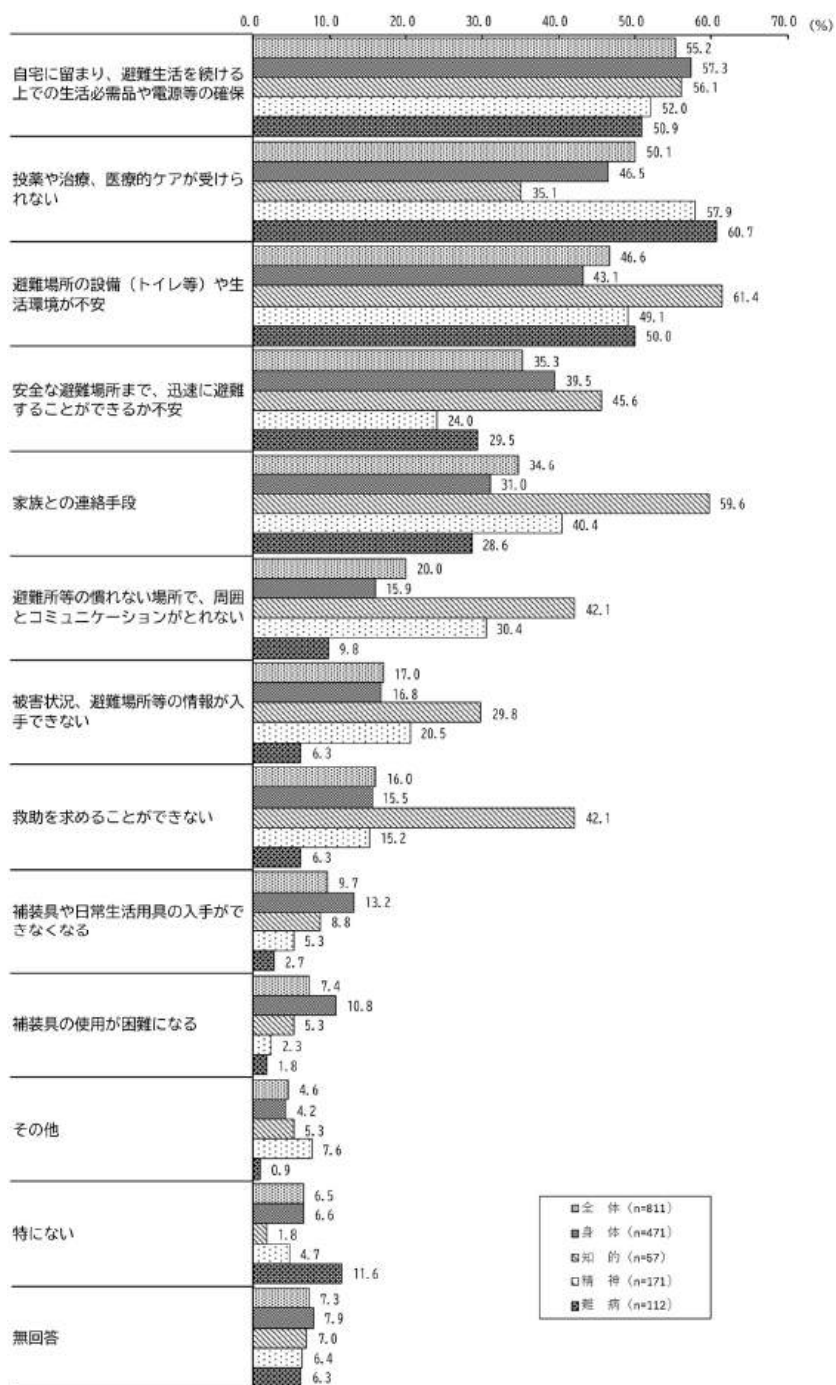
(3) 災害時に困ること

問 火事や地震等の災害時に困ることや不安に思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

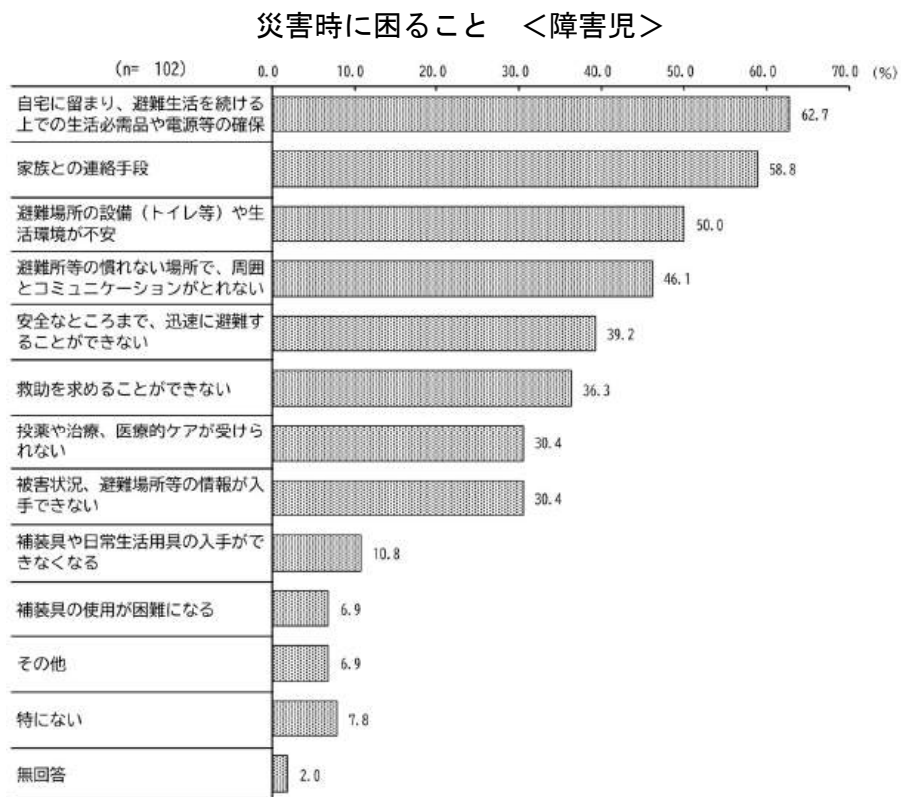
災害時に困ることについて、全体でみると、「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」が55.2%で最も高く、次いで「投薬や治療、医療的ケアが受けられない」が50.1%、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が46.6%などとなっている。

調査票種別でみると、身体では「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」、知的では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」、精神と難病では「投薬や治療、医療的ケアが受けられない」の割合が最も高くなっている。

災害時に困ること <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の災害時に困ることをみると、「自宅に留まり、避難生活をする上での生活必需品や電源等の確保」が62.7%で最も高く、次いで「家族との連絡手段」が58.8%、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が50.0%などとなっている。



【経年比較】

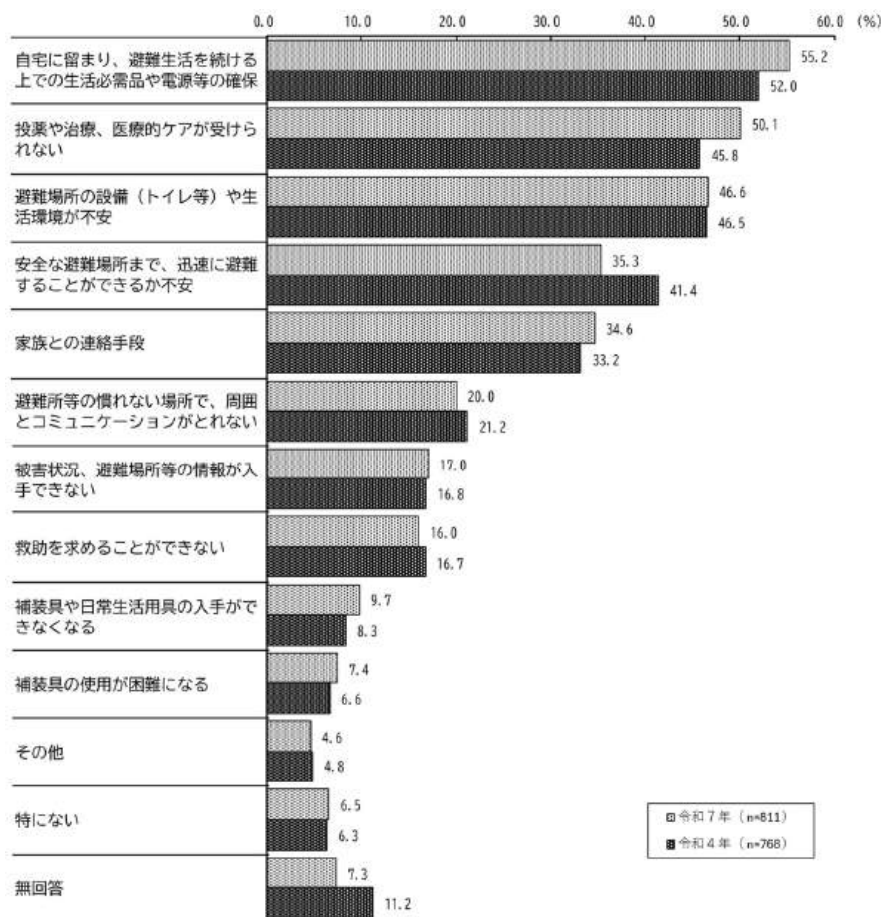
令和4年調査と比較すると、全体では、「投薬や治療、医療的ケアが受けられない」が4.3ポイント増加し、「安全な避難場所まで、迅速に避難することができるか不安」が6.1ポイント減少しているが、継続して「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」が最も困ることとして挙げられている。

調査票種別でみると、知的では「投薬や治療、医療的ケアが受けられない」が8.9ポイント増加し、「避難所等の慣れない場所で、周囲とコミュニケーションがとれない」が19.4ポイント、「安全な避難場所まで、迅速に避難することができるか不安」が14.4ポイント減少している。

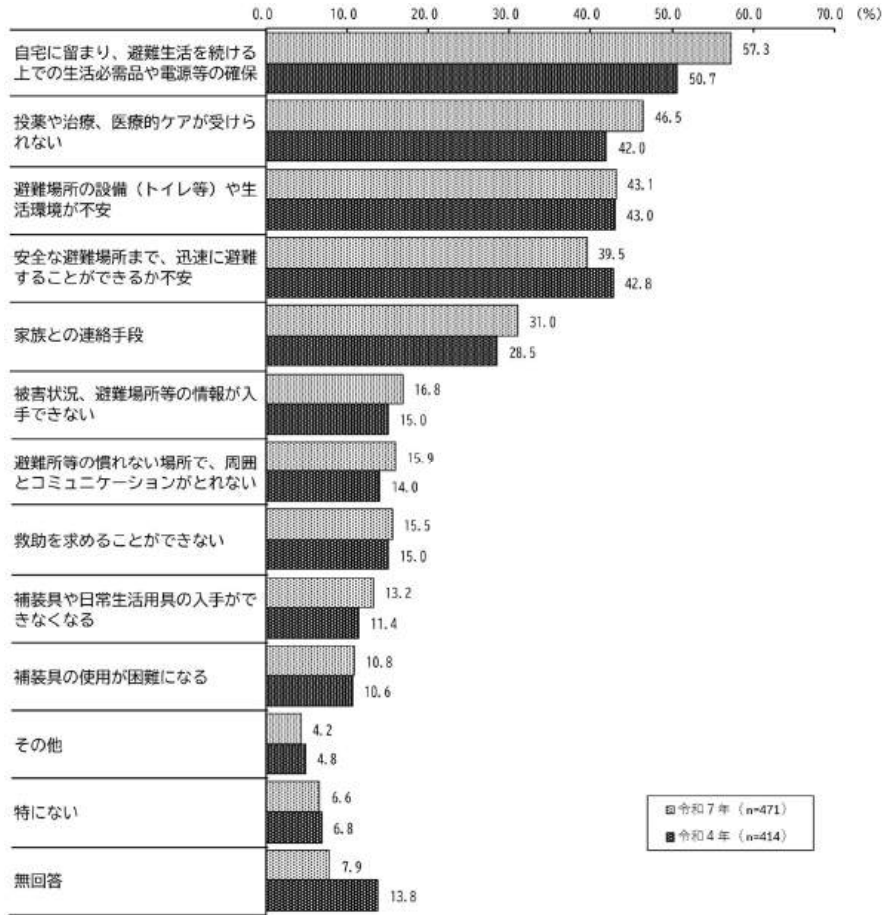
障害児では、「家族との連絡手段」以外のすべての項目で増加傾向にあり、特に「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」が18.0ポイント、「投薬や治療、医療的ケアが受けられない」が17.6ポイントそれぞれ増加している。

全体・障害児ともに「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」に最も不安を感じていることから、災害時を想定したフォロー体制の確立が求められる。

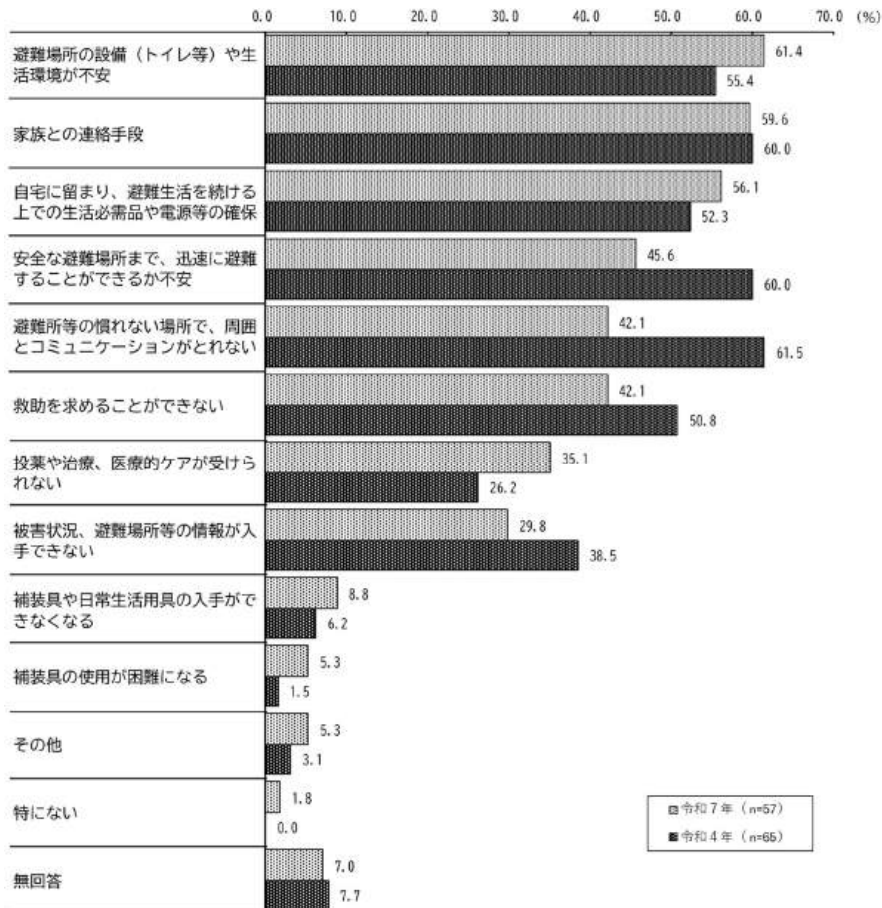
災害時に困ること（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



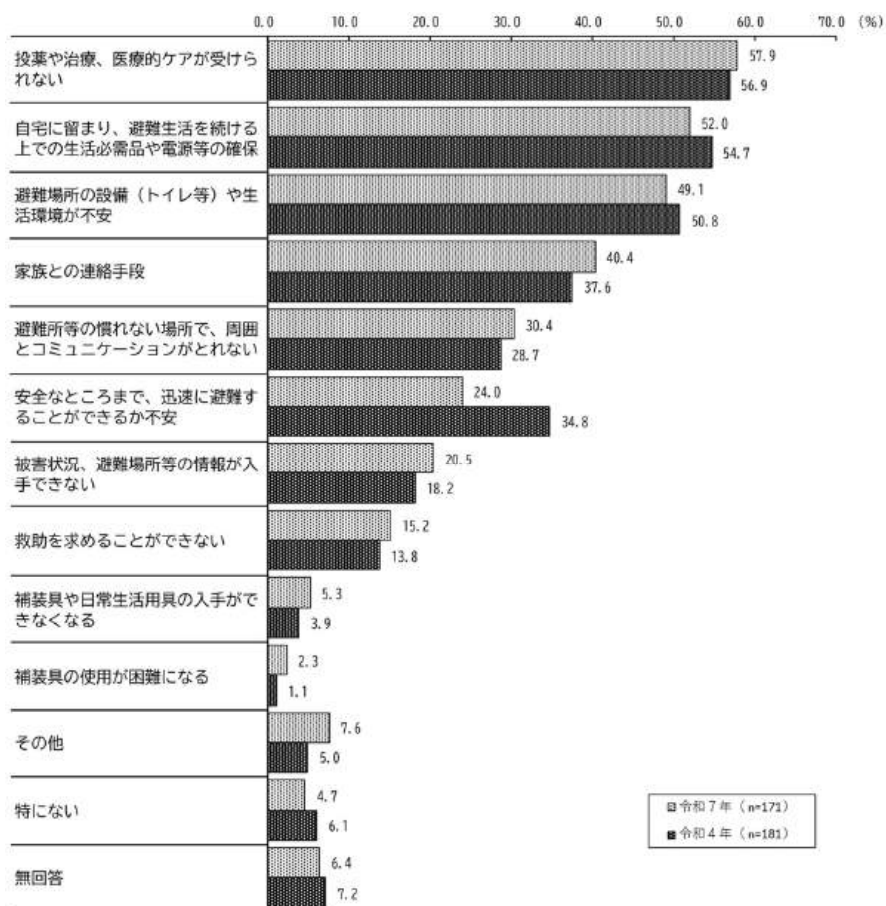
災害時に困ること（経年比較）＜身体＞



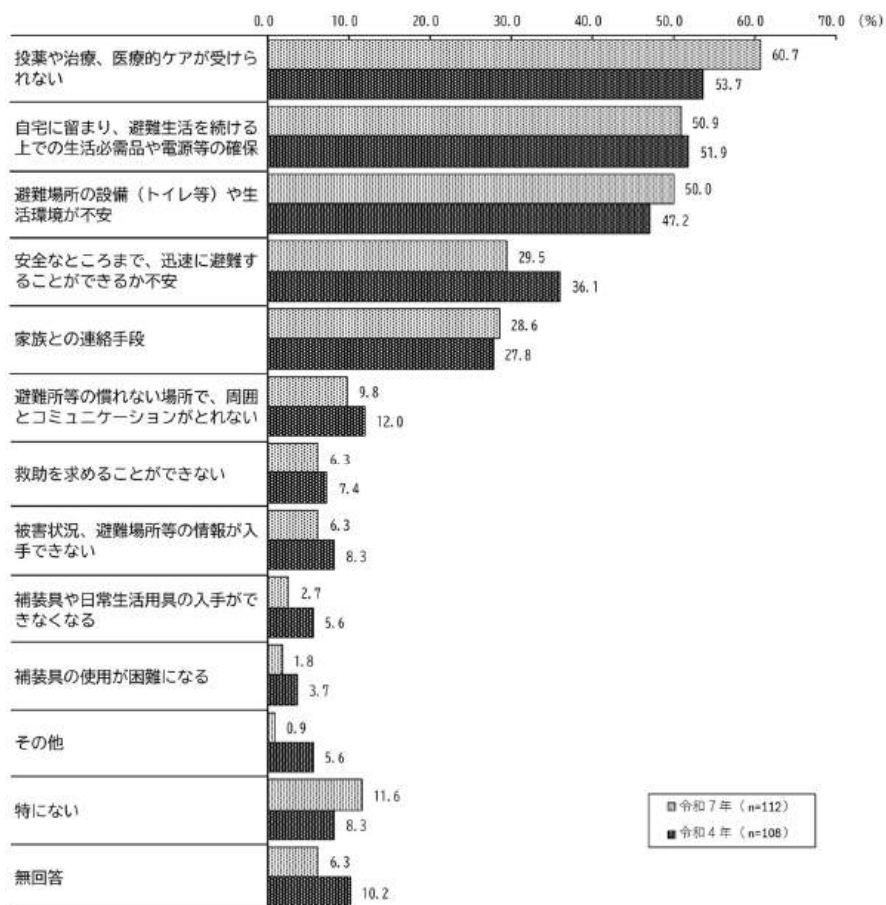
災害時に困ること（経年比較）＜知的＞



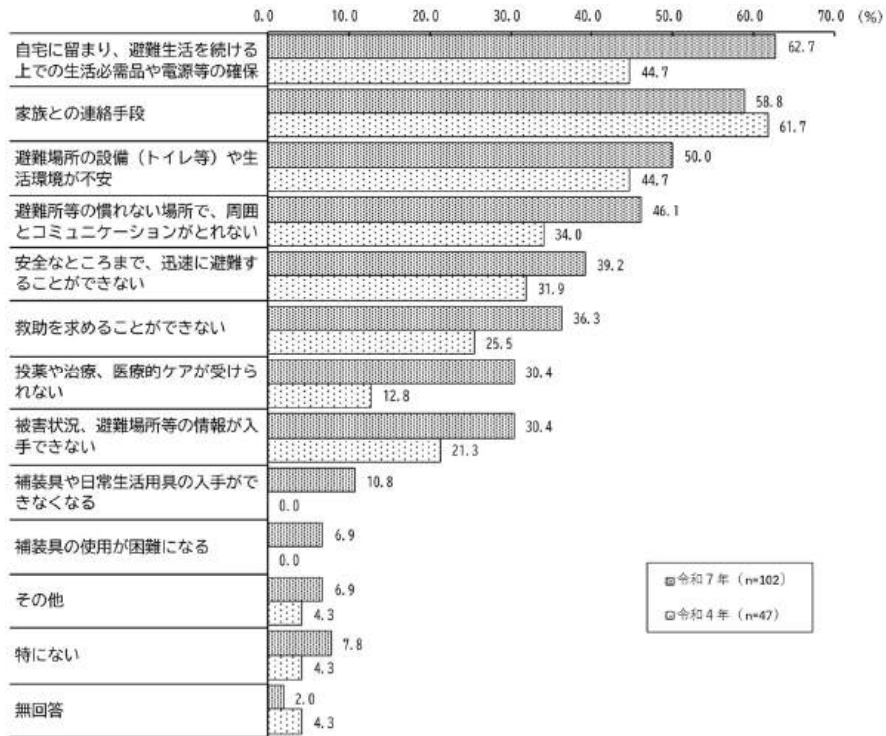
災害時に困ること（経年比較）＜精神＞



災害時に困ること（経年比較）＜難病＞



災害時に困ること（経年比較）＜障害児＞



10 障害者差別解消法について

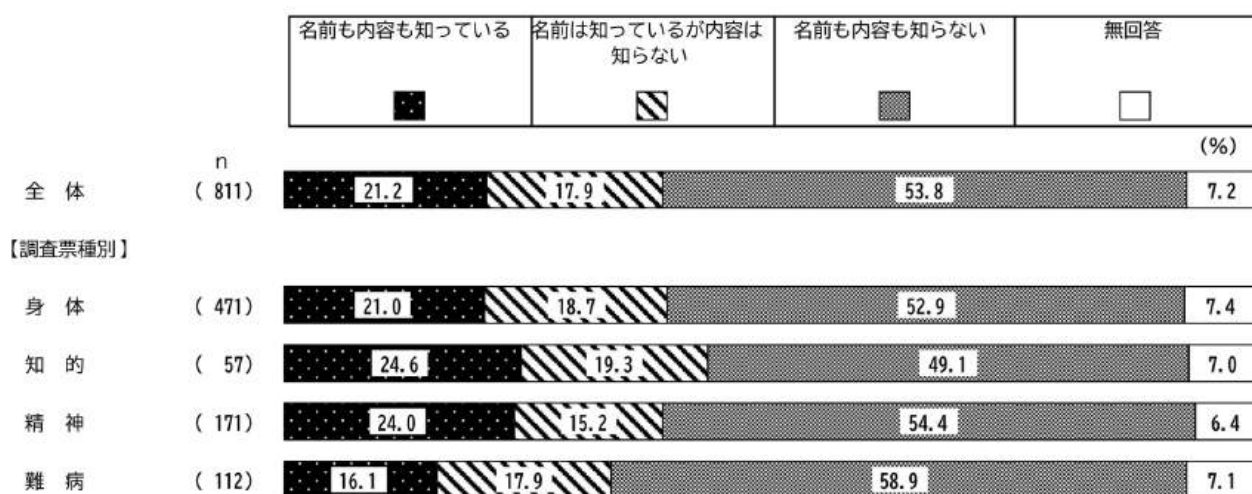
(1) 障害者差別解消法の認知度

問 あなたは、「障害者差別解消法」により、事業者による障害のある人への「合理的配慮の提供」が義務付けられていることを知っていますか。(1つだけに○)

障害者差別解消法の認知度について、全体で見ると、「名前も内容も知っている」が21.2%、「名前は知っているが内容は知らない」が17.9%、「名前も内容も知らない」は53.8%となっている。

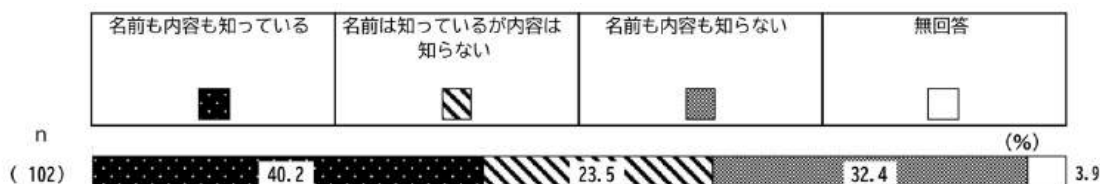
調査票種別で見ると、難病では「名前も内容も知らない」が58.9%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

障害者差別解消法の認知度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の障害者差別解消法の認知度をみると、「名前も内容も知っている」が40.2%、「名前は知っているが内容は知らない」が23.5%、「名前も内容も知らない」は32.4%となっている。

障害者差別解消法の認知度 <障害児>



【経年比較】

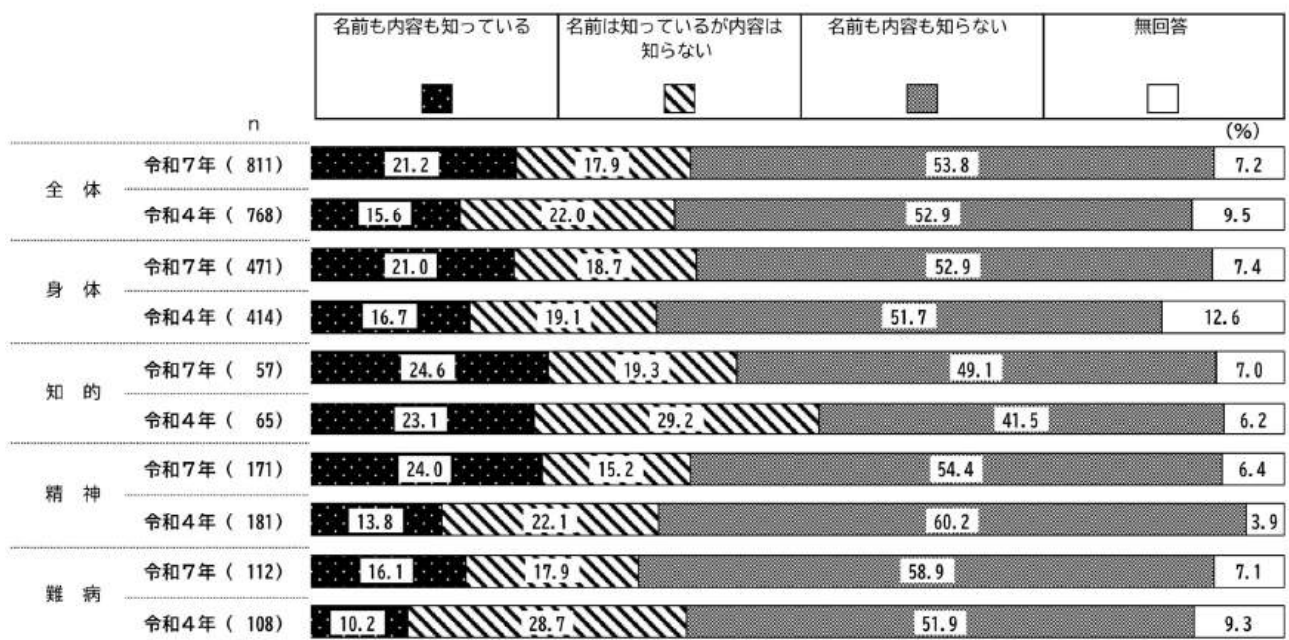
令和4年調査と比較すると、全体では、「名前も内容も知っている」が5.6ポイント増加し、「名前は知っているが内容は知らない」が4.1ポイント減少していることから、制度内容を理解した上での認知度が向上していることがうかがえる。

調査票種別で見ると、精神では「名前も内容も知っている」が10.2ポイント増加している一方、「名前も内容も知らない」が知的で7.6ポイント、難病で7.0ポイントそれぞれ増加しており、難病では未だ6割強から認知されていない。

障害児では、「名前も内容も知っている」が16.8ポイント、「名前は知っているが内容は知らない」が4.4ポイントそれぞれ増加し、「名前も内容も知らない」が25.0ポイント減少している。

障害児では名前と内容の認知が大きく向上しているが、全体では依然として2割強にとどまっている。情報発信の手法および実施時期を最適化し、より多様な層の目に留まる広報活動の実施が求められる。

障害者差別解消法の認知度（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



障害者差別解消法の認知度（経年比較）＜障害児＞



(2) 障害特性にあった特別な配慮が得られているか

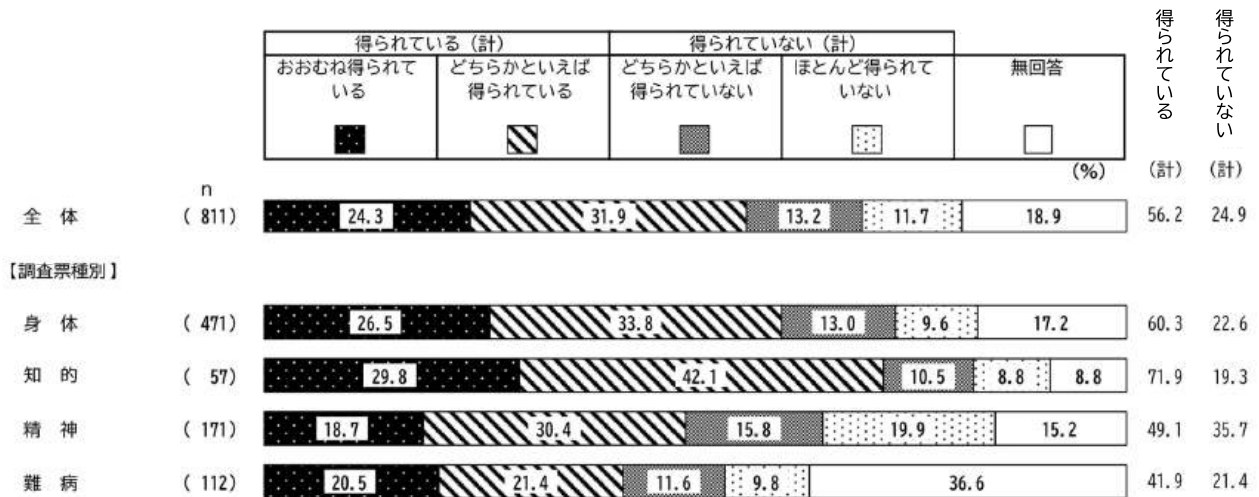
問 障害特性にあった配慮についてお聞きします。

(1) あなたが社会生活を送るうえで、障害特性にあった特別な配慮が得られていますか。(1つだけに○)

障害特性にあった特別な配慮が得られているかについて、全体でみると、「おおむね得られている」と「どちらかといえば得られている」を合わせた『得られている(計)』は、56.2%となっている。一方、「どちらかといえば得られていない」と「ほとんど得られていない」を合わせた『得られていない(計)』は24.9%となっている。

調査票種別でみると、知的では『得られている(計)』が71.9%、精神では『得られていない(計)』が35.7%となっており、いずれも全体と比べて割合が高くなっている。

障害特性にあった特別な配慮が得られているか <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の障害特性にあった特別な配慮が得られているかについてみると、『得られている(計)』が82.4%、『得られていない(計)』は13.7%となっている。

障害特性にあった特別な配慮が得られているか <障害児>



【経年比較】

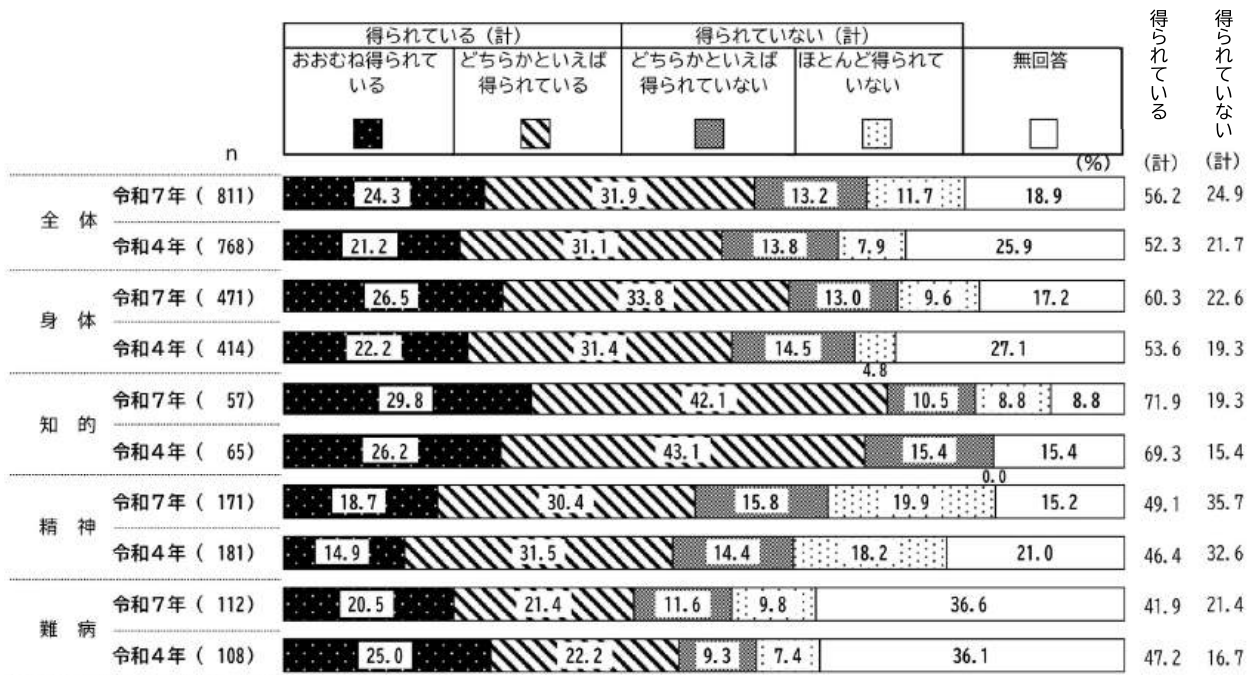
令和4年調査と比較すると、『得られている（計）』が3.9ポイント、『得られていない（計）』が3.2ポイントそれぞれ増加している。

調査票種別でみると、『得られている（計）』が身体で6.7ポイント増加し、難病で5.3ポイント減少している一方、知的では『得られている（計）』が7割を超えており、他種別よりも特別な配慮が得られていることがうかがえる。

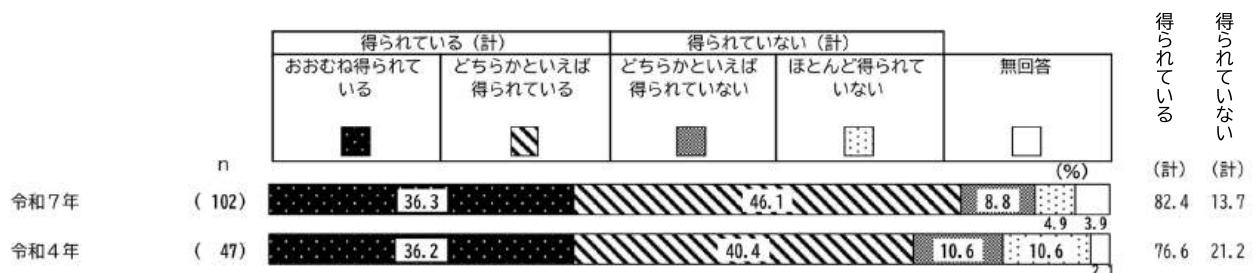
障害児では、『得られている（計）』が5.8ポイント増加し、『得られていない（計）』が7.5ポイント減少している。

特別な配慮が得られていると感じる人は、全体・障害児ともに増加傾向であるものの、未だ全体の約4分の1の方が特別な配慮が得られていないと感じている。誰もが障害特性にあった特別な配慮が得られていると感じることができる社会を創生すべく、それぞれの障害に必要なとされる支援を最適化していくことが望まれる。

障害特性にあった特別な配慮が得られているか（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



障害特性にあった特別な配慮が得られているか（経年比較）＜障害児＞



(3) 特別な配慮が得られた場所

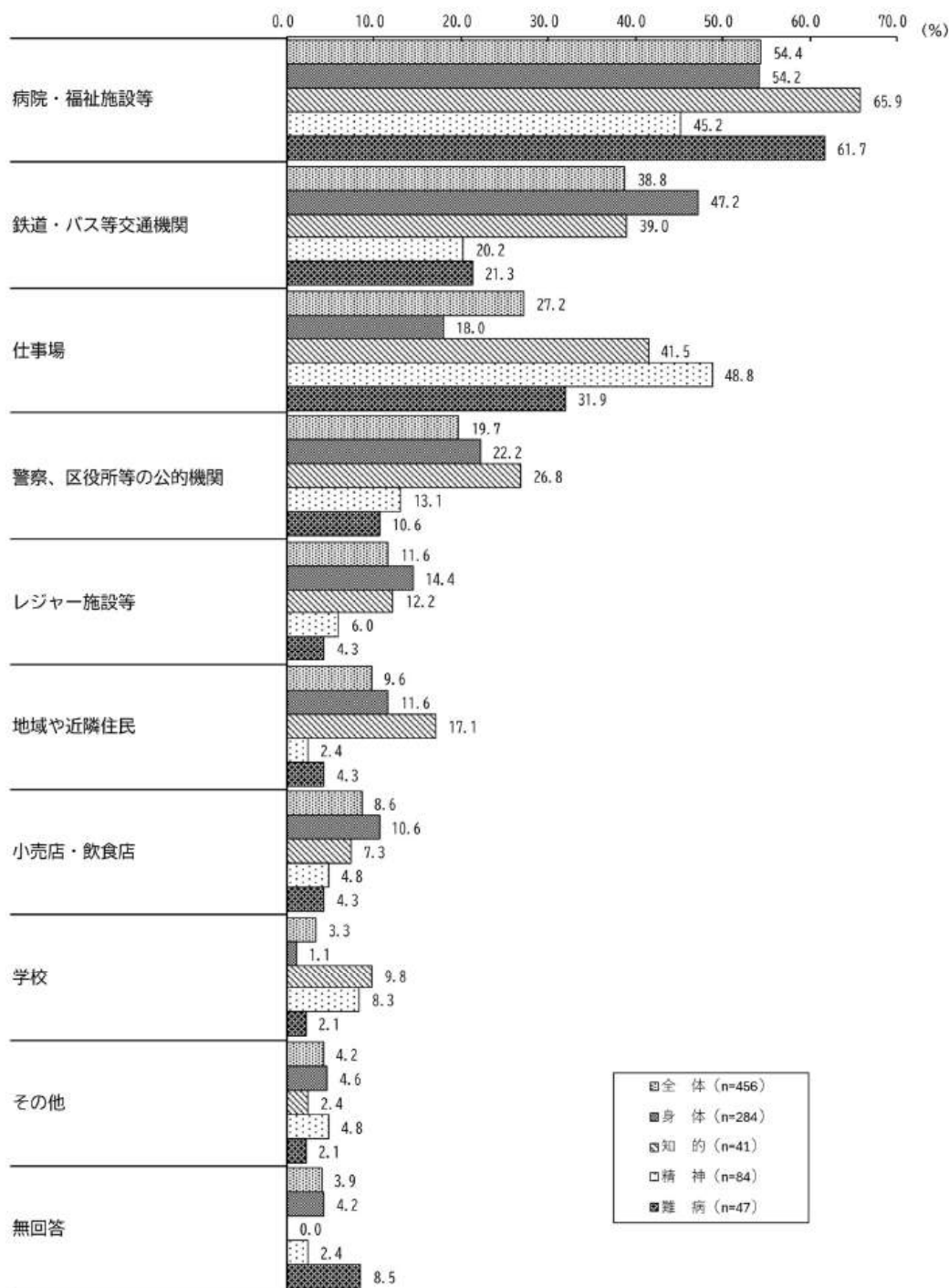
(障害特性にあった特別な配慮について、「おおむね得られている」「どちらかといえば得られている」と答えた方にお聞きします。)

(2) どのような場所で配慮が得られていますか。(〇はいくつでも)

特別な配慮が得られた場所について、全体でみると、「病院・福祉施設等」が54.4%で最も高く、次いで「鉄道・バス等交通機関」が38.8%、「仕事場」が27.2%などとなっている。

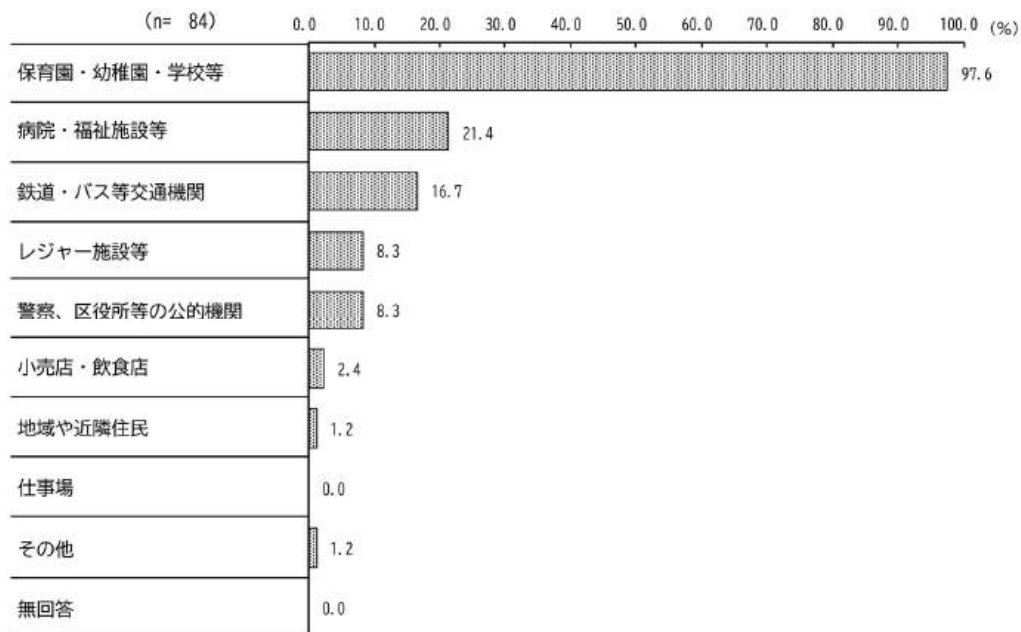
調査票種別でみると、身体、知的、難病では「病院・福祉施設等」の割合が、精神では「仕事場」の割合が最も高くなっている。

特別な配慮が得られた場所 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の特別な配慮が得られた場所をみると、「保育園・幼稚園・学校等」が97.6%で最も高く、次いで「病院・福祉施設等」が21.4%、「鉄道・バス等交通機関」が16.7%などとなっている。

特別な配慮が得られた場所 <障害児>



【経年比較】

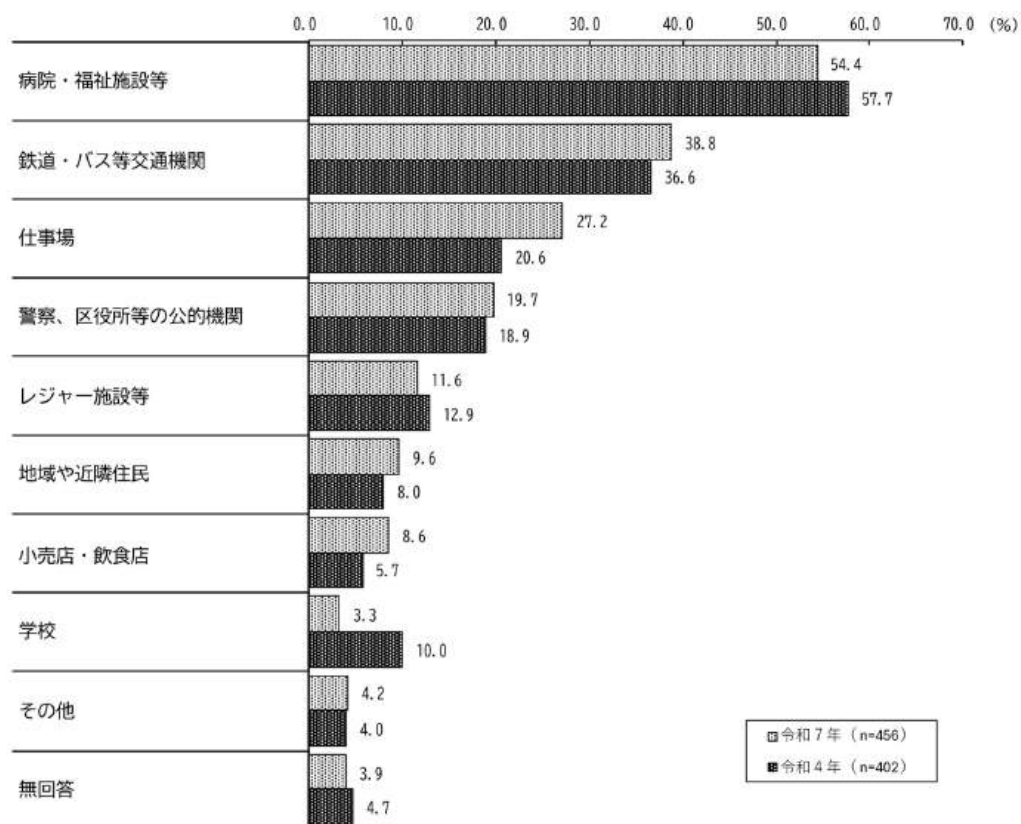
令和4年調査と比較すると、全体では、「仕事場」が6.6ポイント増加し、「学校」が6.7ポイント減少している。

調査票種別で見ると、全種別で「仕事場」が増加傾向となっており、特に精神では22.6ポイント、知的で10.4ポイント増加している。一方、知的で「学校」が36.9ポイント減少している。

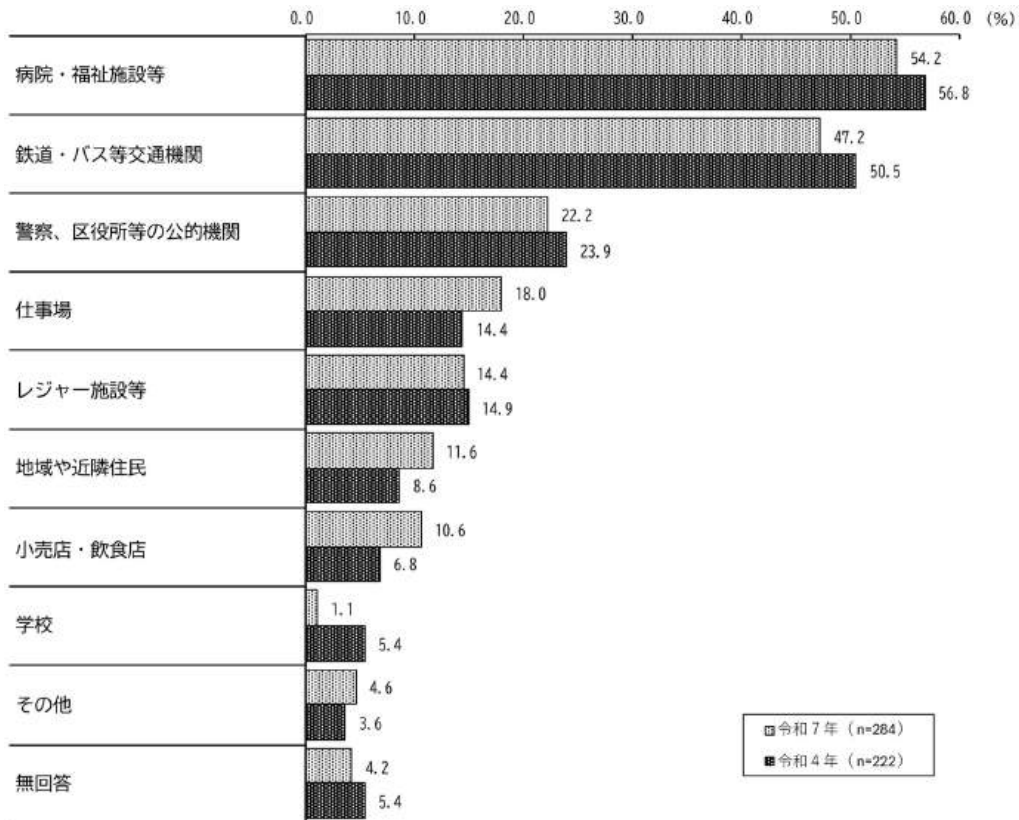
障害児では、「保育園・幼稚園・学校等」が14.3ポイント増加し、「レジャー施設等」で5.6ポイント減少している。

令和4年調査に引き続き、全体では「病院・福祉施設等」、障害児では「保育園・幼稚園・学校等」が最も特別な配慮が得られた場所となっている。

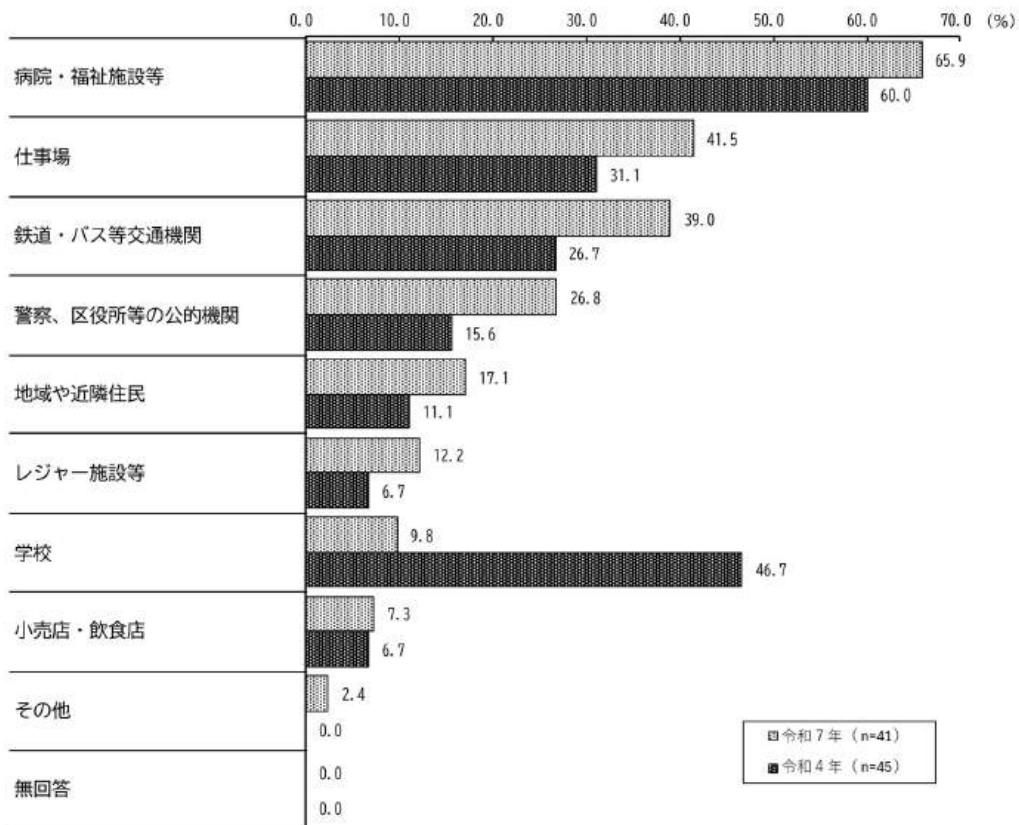
特別な配慮が得られた場所（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



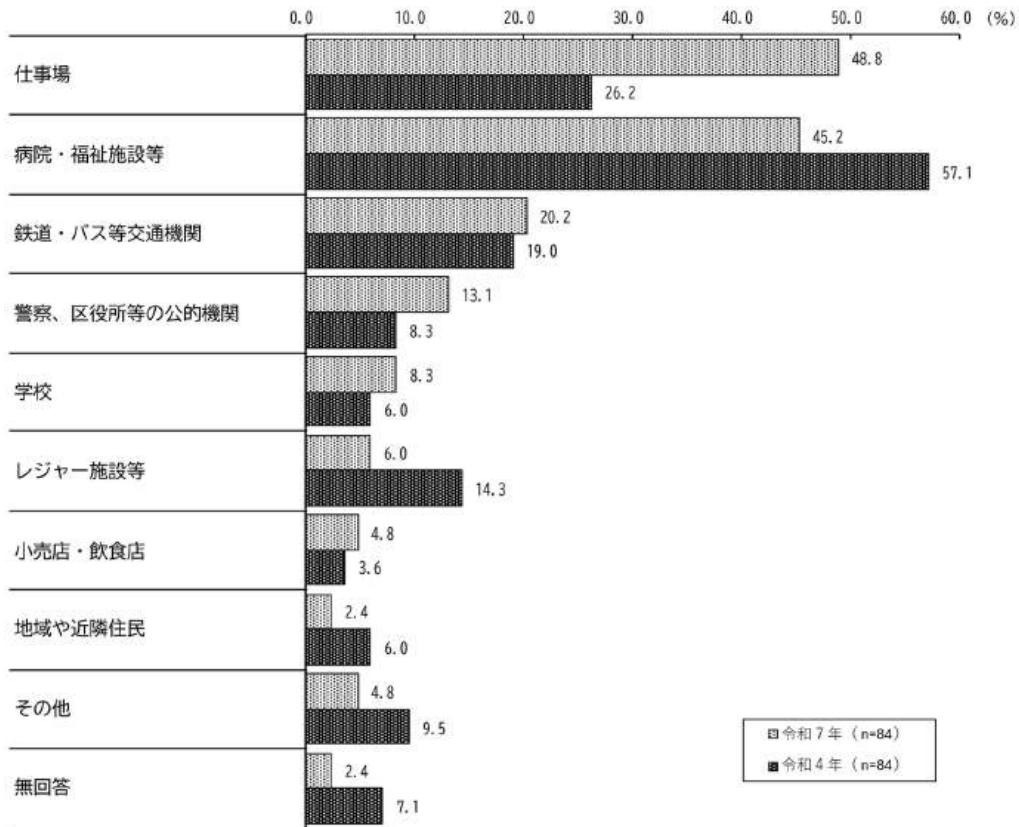
特別な配慮が得られた場所（経年比較）＜身体＞



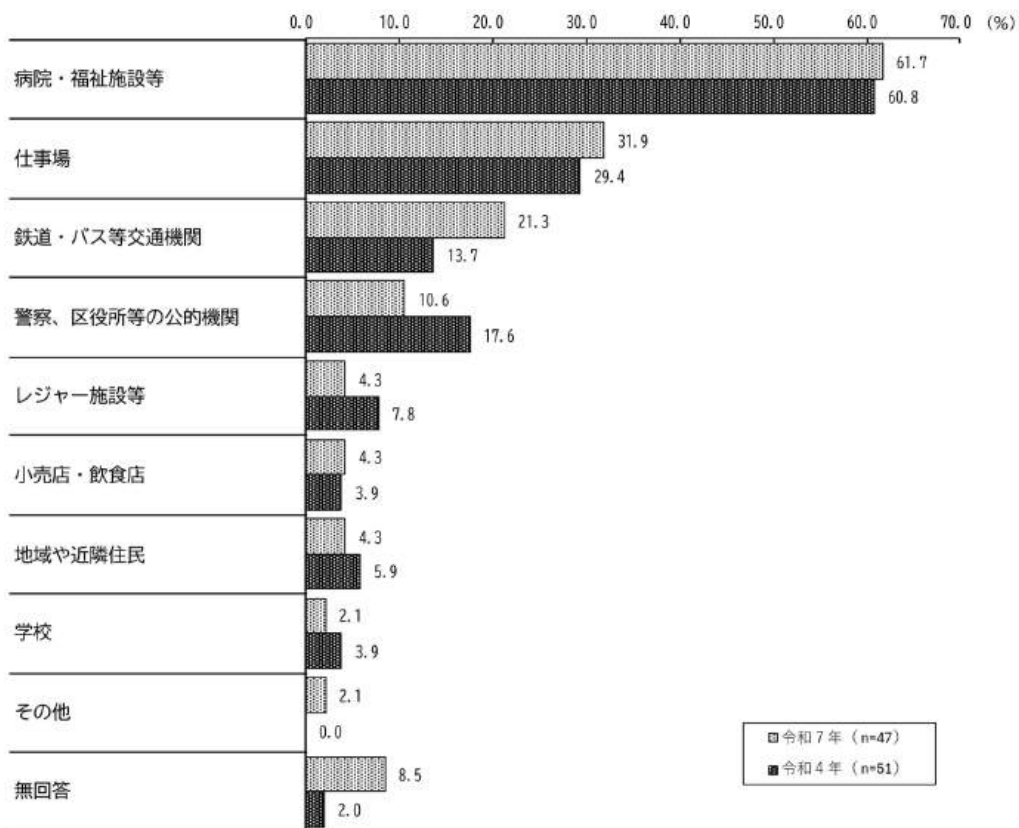
特別な配慮が得られた場所（経年比較）＜知的＞



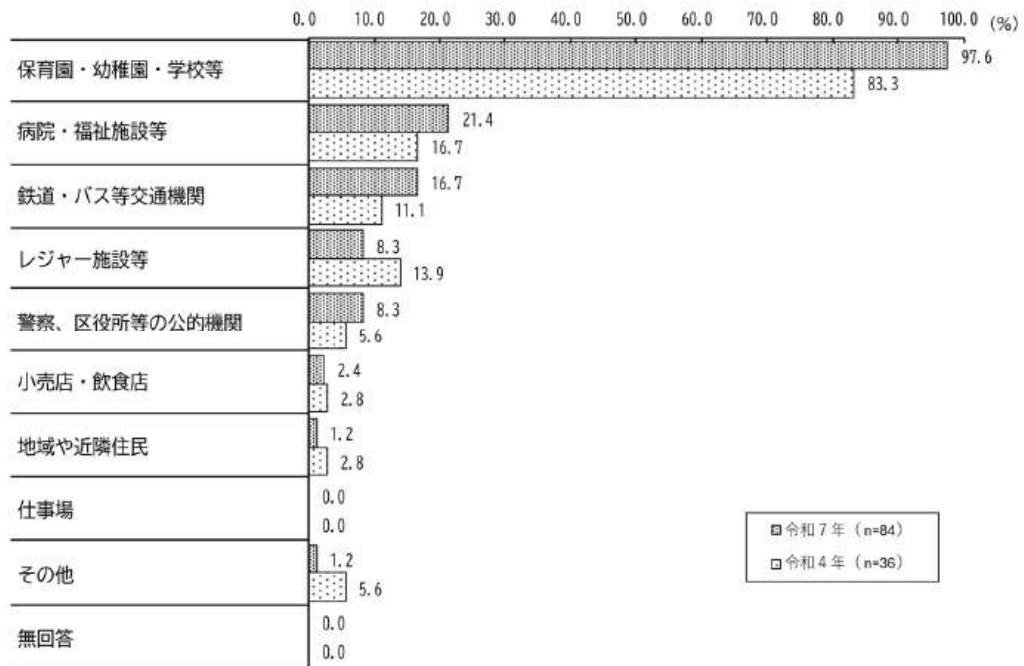
特別な配慮が得られた場所（経年比較）＜精神＞



特別な配慮が得られた場所（経年比較）＜難病＞



特別な配慮が得られた場所（経年比較）＜障害児＞



(4) 特別な配慮が得られていない場所

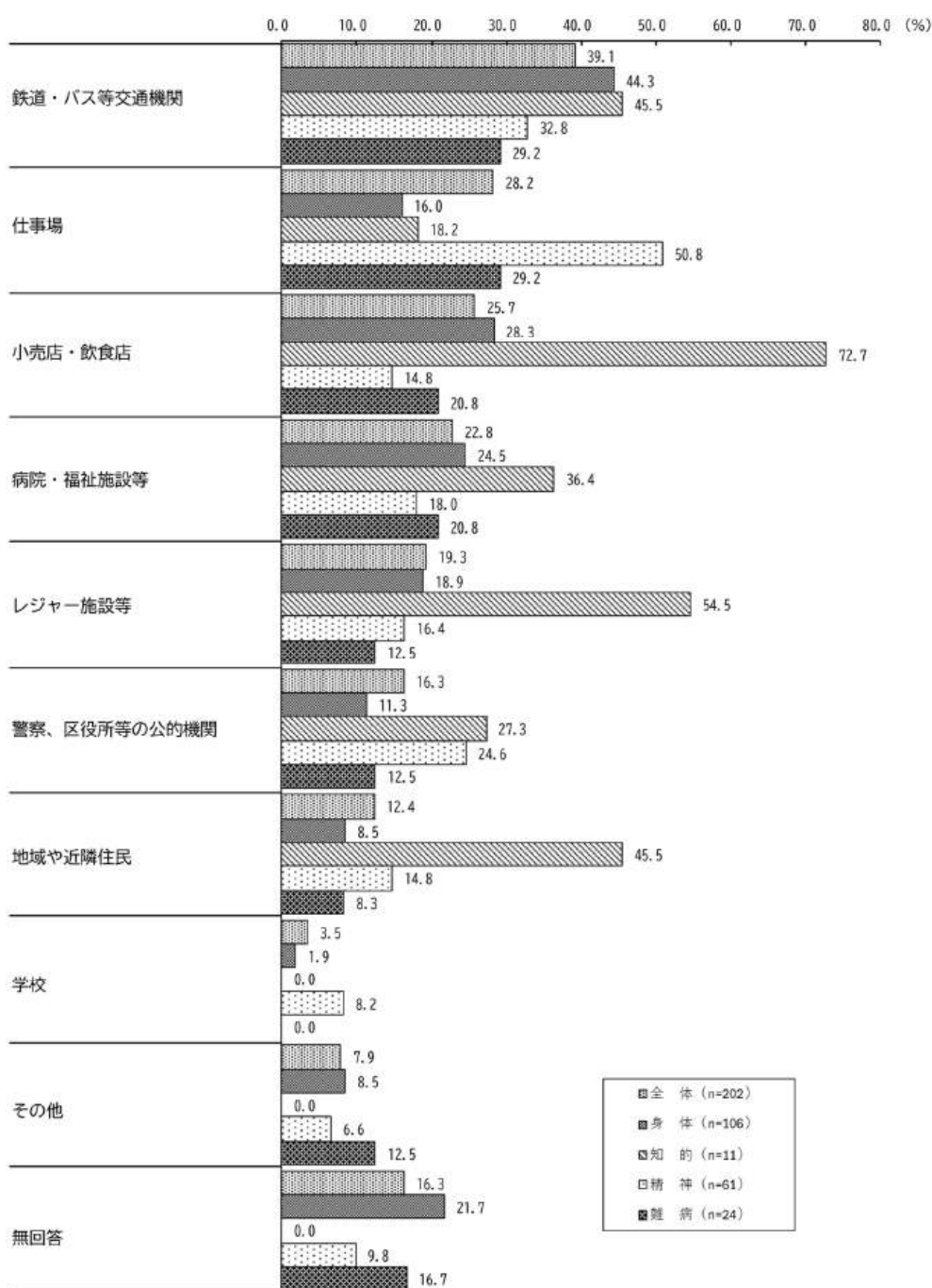
(障害特性にあった特別な配慮について、「どちらかといえば得られていない」「ほとんど得られていない」と答えた方にお聞きします。)

(3) どのような場所で配慮が得られていないと感じますか。(〇はいくつでも)

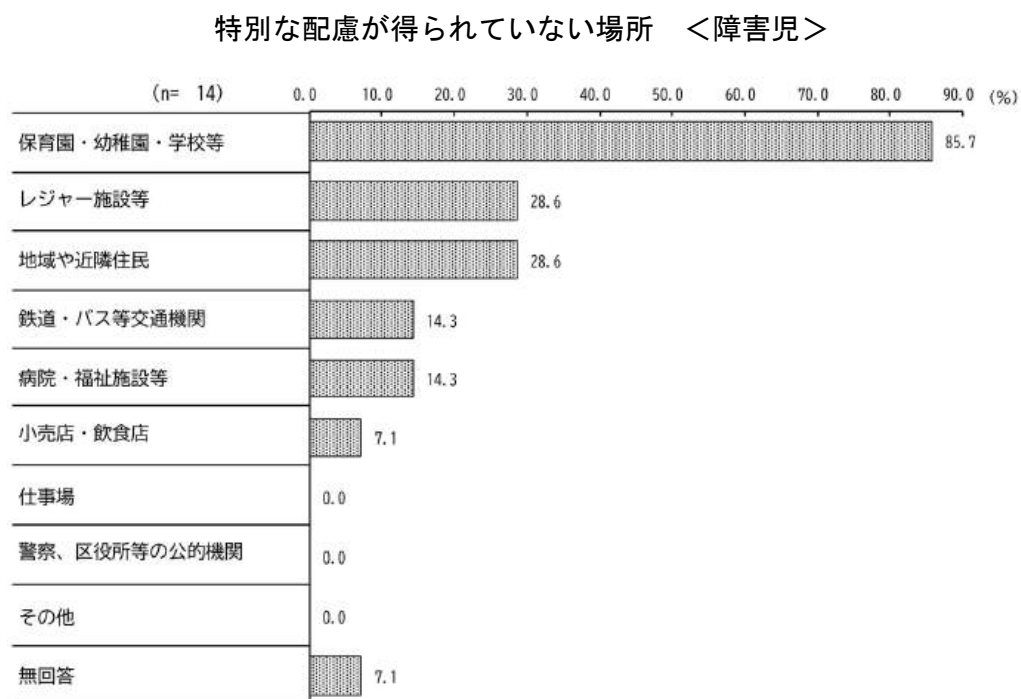
特別な配慮が得られていない場所について、全体でみると、「鉄道・バス等交通機関」が39.1%で最も高く、次いで「仕事場」が28.2%、「小売店・飲食店」が25.7%などとなっている。

調査票種別でみると、身体では「鉄道・バス等交通機関」、知的では「小売店・飲食店」、精神では「仕事場」、難病では「鉄道・バス等交通機関」と「仕事場」の割合が最も高くなっている。

特別な配慮が得られていない場所 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の特別な配慮が得られていない場所をみると、「保育園・幼稚園・学校等」が85.7%で最も高く、次いで「レジャー施設等」と「地域や近隣住民」が28.6%などとなっている。



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「鉄道・バス等交通機関」が6.2ポイント増加し、「地域や近隣住民」は7.4ポイント減少している。

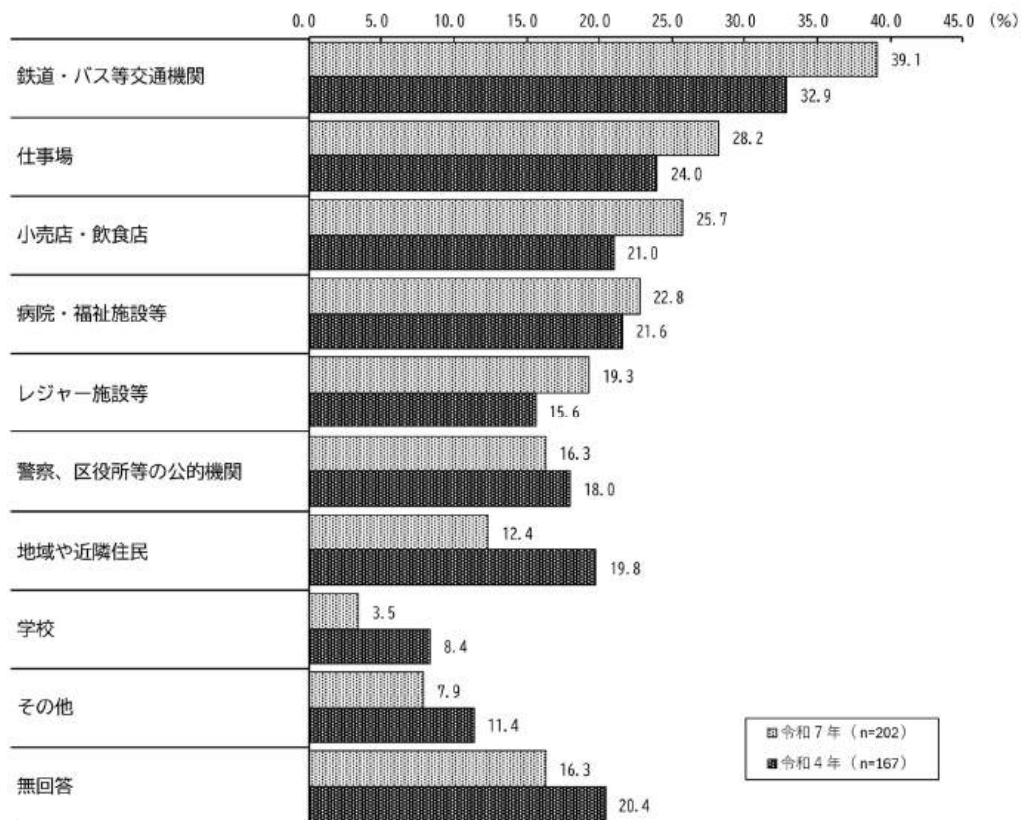
調査票種別で見ると、知的では「小売店・飲食店」で52.7ポイント、「レジャー施設等」で24.5ポイントそれぞれ増加している一方、身体で「地域や近隣住民」が14.0ポイント、知的で「仕事場」が11.8ポイントそれぞれ減少している。難病では「警察、区役所等の公的機関」以外の項目で増加傾向にある。

障害児では、「レジャー施設等」、「近隣や地域住民」でそれぞれ18.6ポイント増加している。

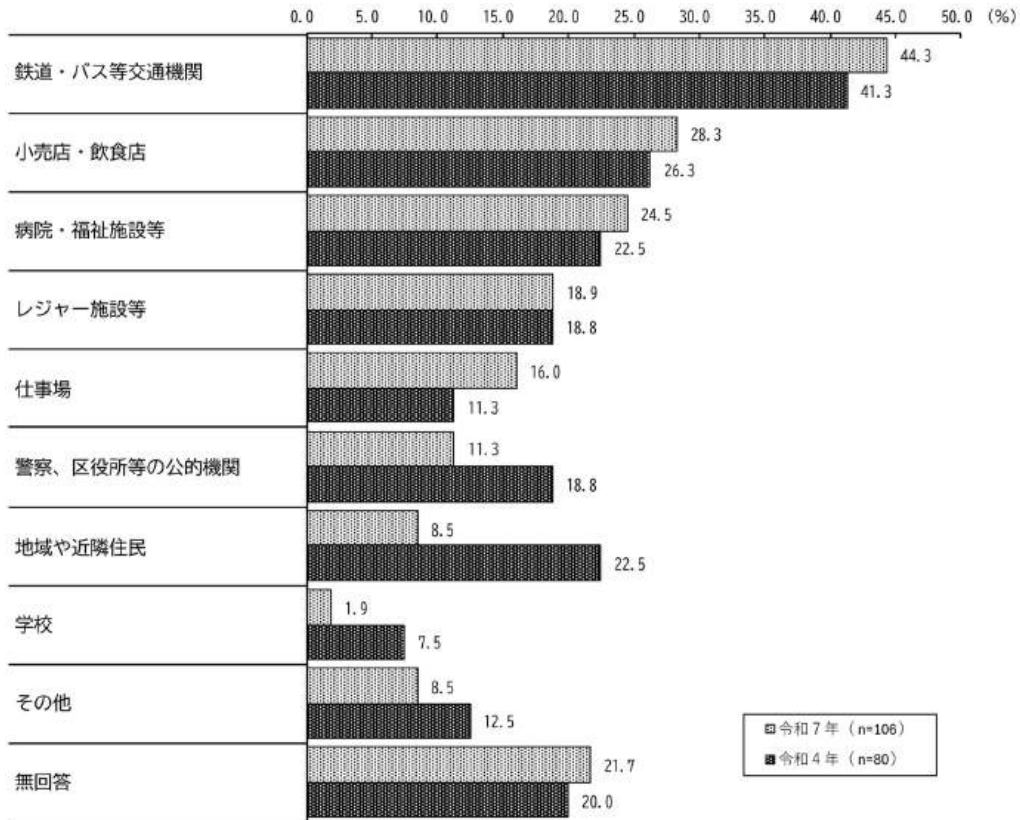
令和4年調査に引き続き、全体では「鉄道・バス等交通機関」や「仕事場」で特別な配慮が得られていないと感じる人が多いため、障害に対する情報発信と理解醸成の取り組みが、公共交通機関及び職場等で今後ますます重要視される。

また障害児において、全体では減少傾向であった「地域や近隣住民」で特別な配慮が得られていないと感じている割合が増加しており、地域との連携強化に加え障害特性への理解を深める場の整備が必要とされる。

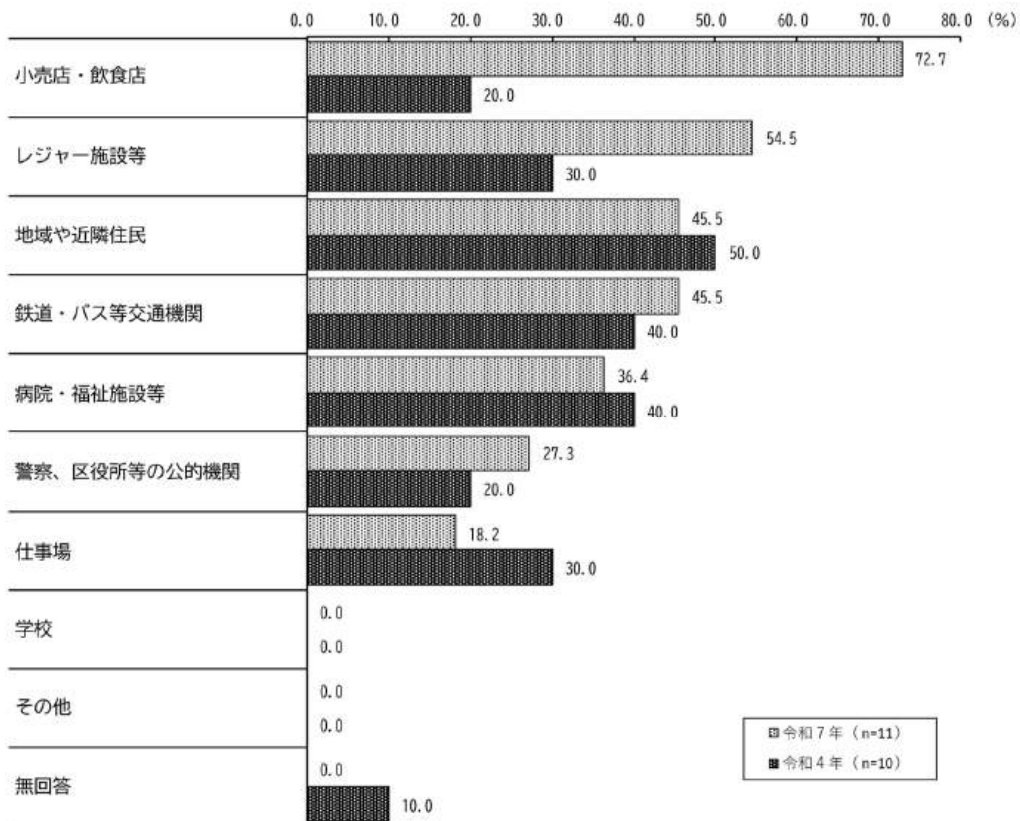
特別な配慮が得られていない場所（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



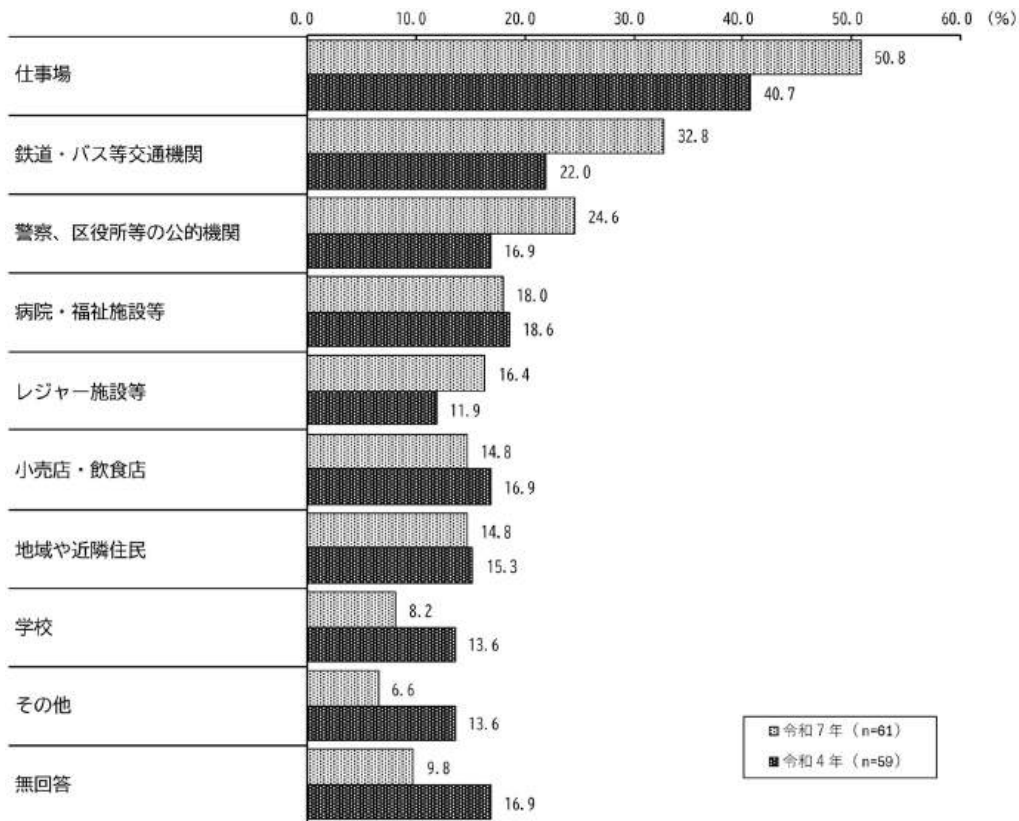
特別な配慮が得られていない場所（経年比較）＜身体＞



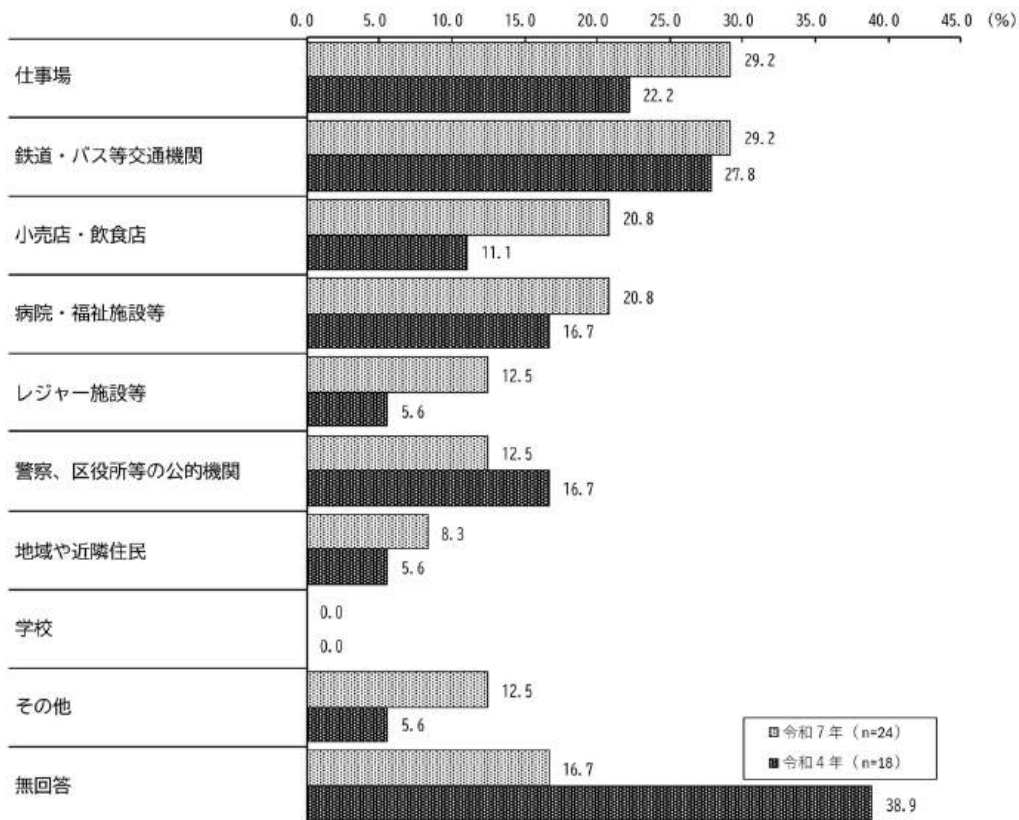
特別な配慮が得られていない場所（経年比較）＜知的＞



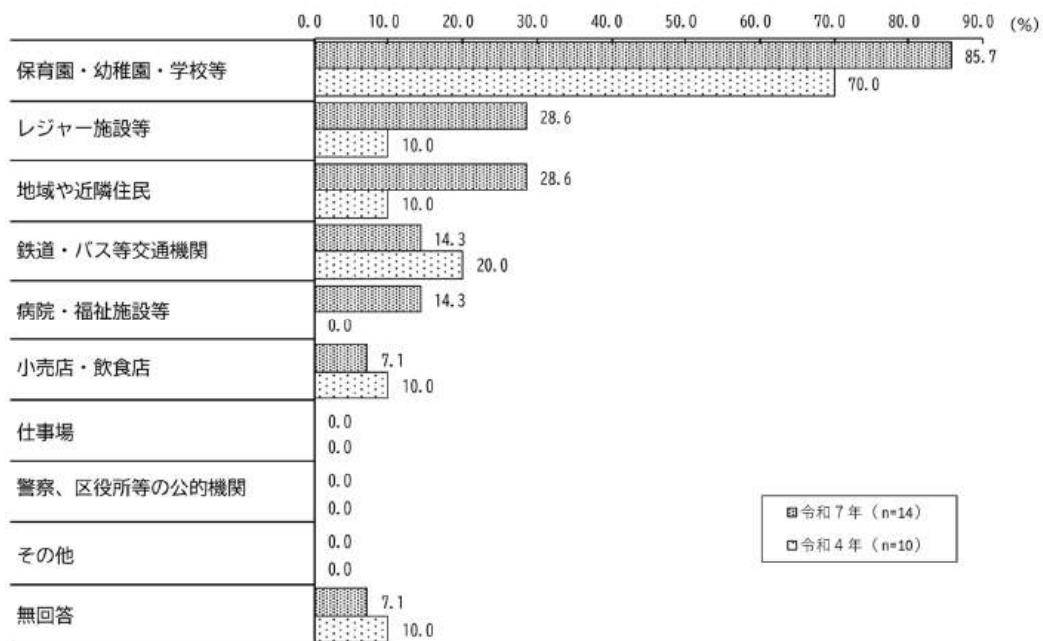
特別な配慮が得られていない場所（経年比較）＜精神＞



特別な配慮が得られていない場所（経年比較）＜難病＞



特別な配慮が得られていない場所（経年比較）＜障害児＞



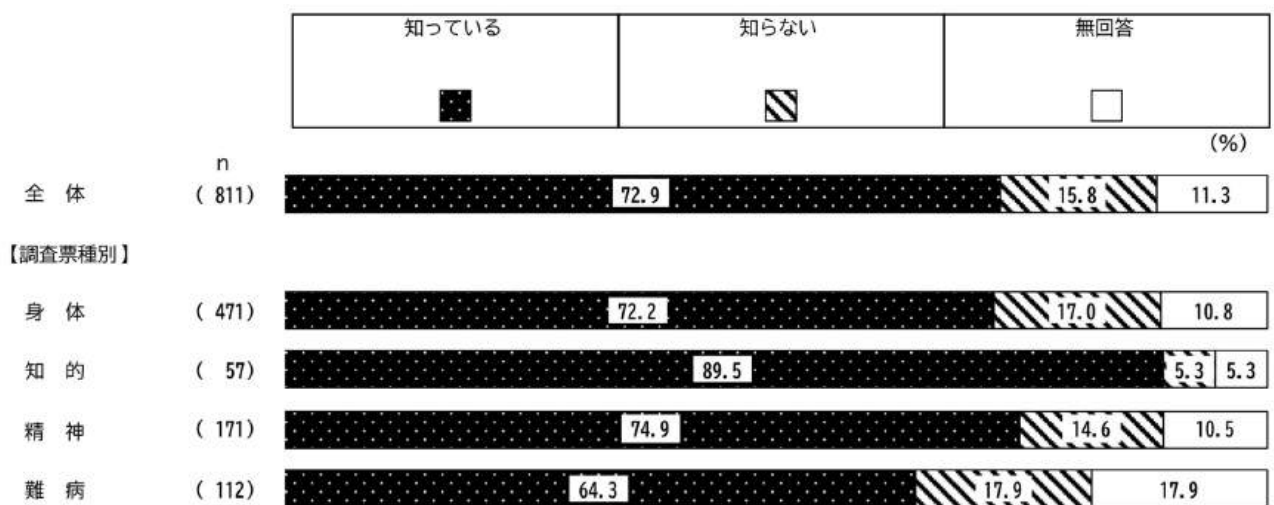
(5) ヘルプマークやヘルプカードの認知度

問 ヘルプマーク・ヘルプカードは困ったときに周りの人に手助けを求めたり、自分のことを知ってもらったりするためのものです。ヘルプマークやヘルプカードについてご存じですか。(1つだけに○)

ヘルプマークやヘルプカードの認知度について、全体でみると、「知っている」が72.9%、「知らない」は15.8%となっている。

調査票種別でみると、知的では「知っている」が89.5%、難病では「知らない」が17.9%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

ヘルプマークやヘルプカードの認知度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児のヘルプマークやヘルプカードの認知度をみると、「知っている」が87.3%、「知らない」は6.9%となっている。

ヘルプマークやヘルプカードの認知度 <障害児>



【経年比較】

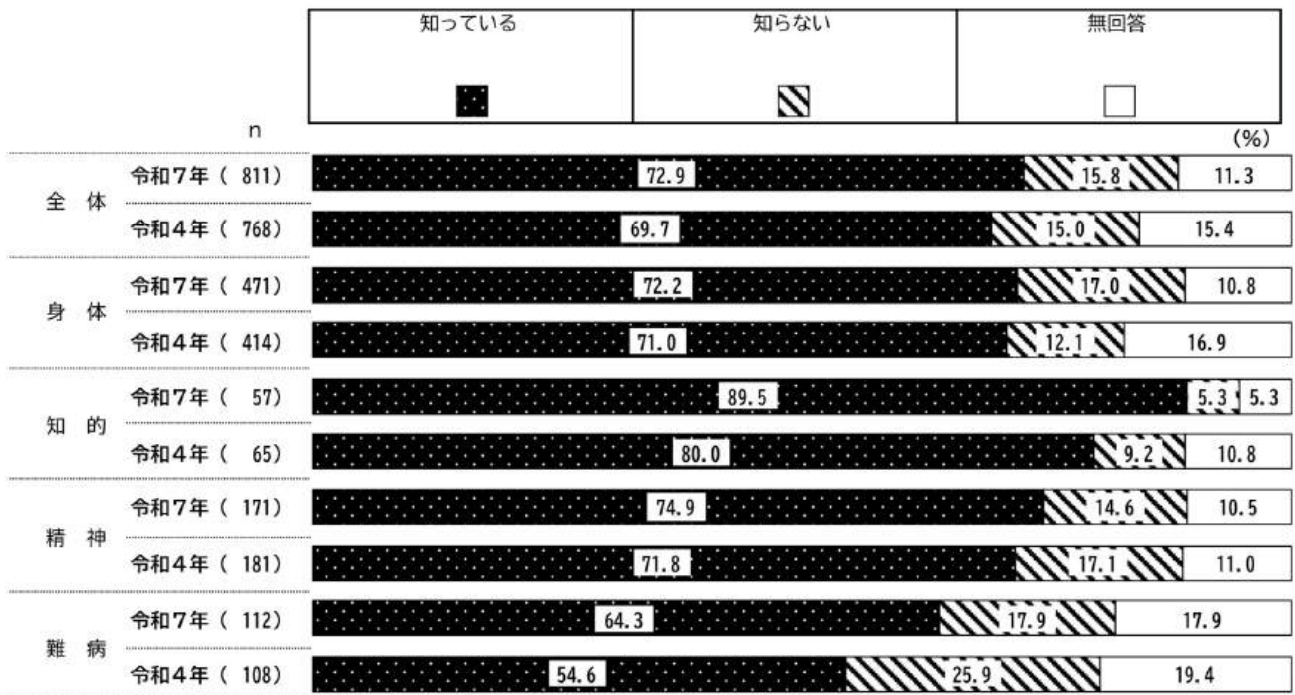
令和4年調査と比較すると、全体では、「知っている」が3.2ポイント増加したものの、「知らない」も同様に0.8ポイント増加している。

調査票種別で見ると、「知っている」が全ての種別で増加傾向となっており、難病で9.7ポイント、知的で9.5ポイントそれぞれ増加している。

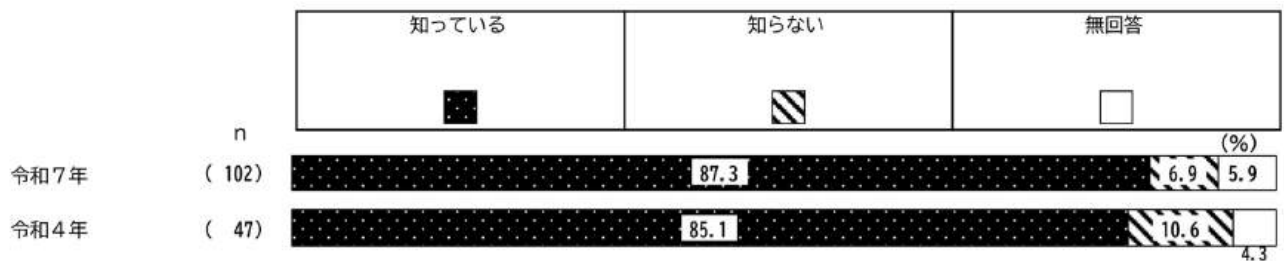
障害児では、「知っている」が2.2ポイント増加し、「知らない」が3.7ポイント減少している。

ヘルプマークやヘルプカードの認知度は、全体・障害児ともに令和4年調査から増加傾向にあり、障害児では9割弱が「知っている」と回答した。しかし、全体では「知らない」の割合も微増していることから、認知度強化に向けた多角的な情報発信が今後も必要とされる。

ヘルプマークやヘルプカードの認知度（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



ヘルプマークやヘルプカードの認知度（経年比較）＜障害児＞



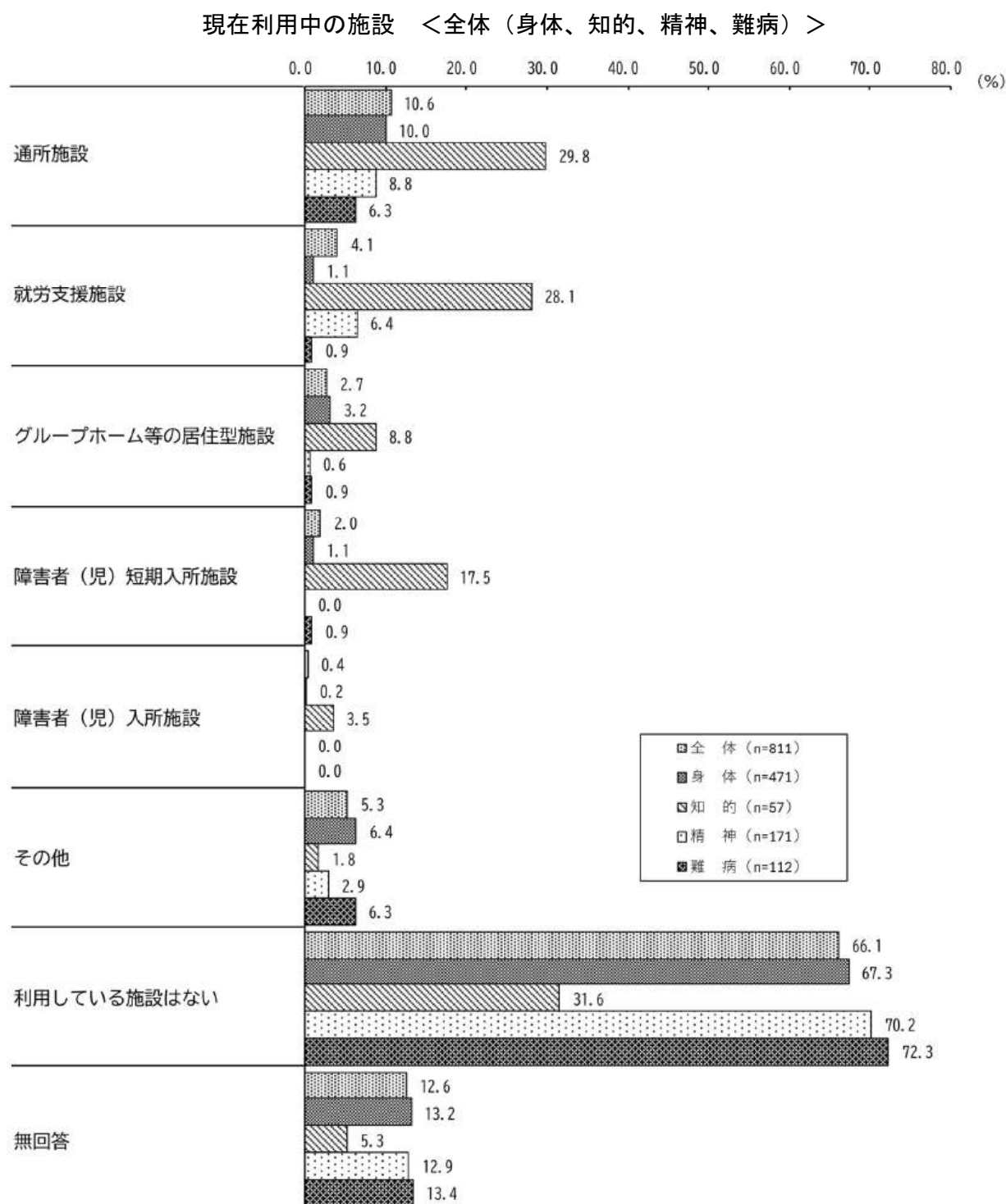
11 福祉施策等について

(1) 現在利用中の施設

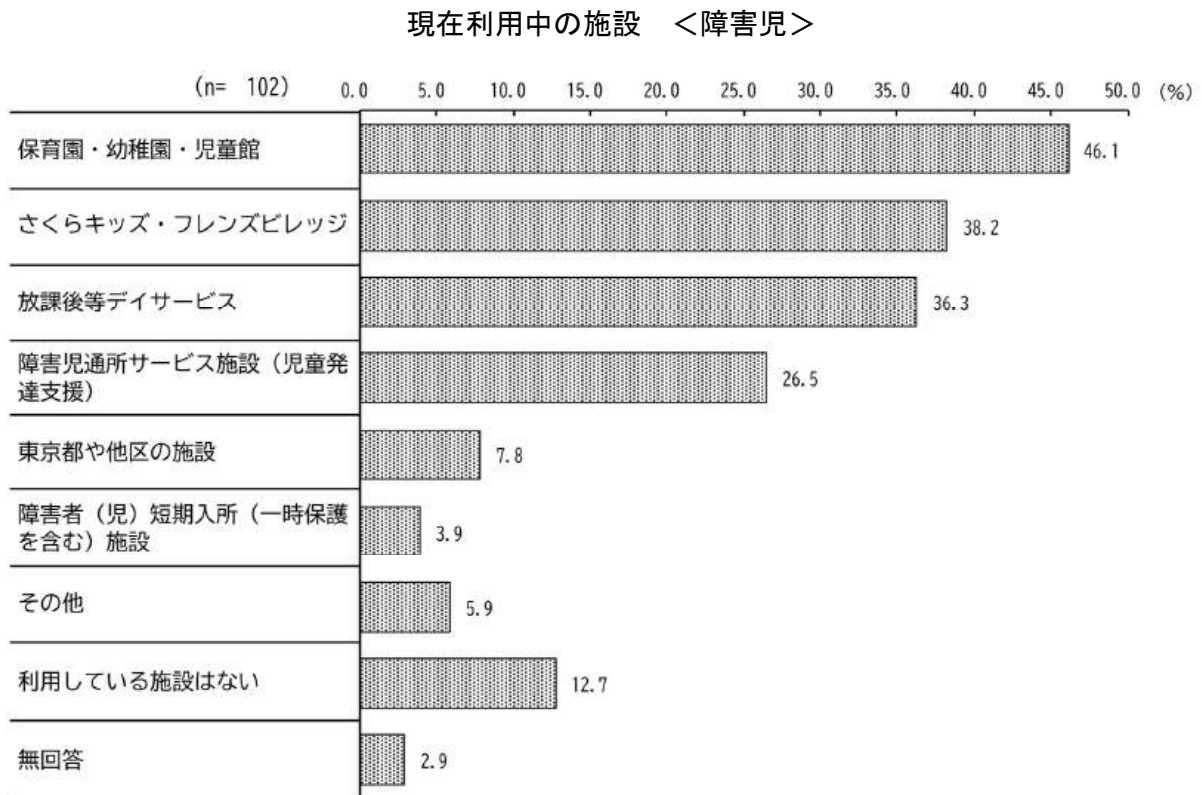
問 現在利用している施設は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

現在利用中の施設について、全体で見ると、「通所施設」が10.6%で最も高く、次いで「就労支援施設」が4.1%、「グループホーム等の居住型施設」が2.7%などとなっている。

調査票種別で見ると、全ての種別で「通所施設」の割合が最も高くなっている。



障害児の現在利用中の施設をみると、「保育園・幼稚園・児童館」が46.1%で最も高く、次いで「さくらキッズ・フレンズビレッジ」が38.2%、「放課後等デイサービス」が36.3%などとなっている。



【経年比較】

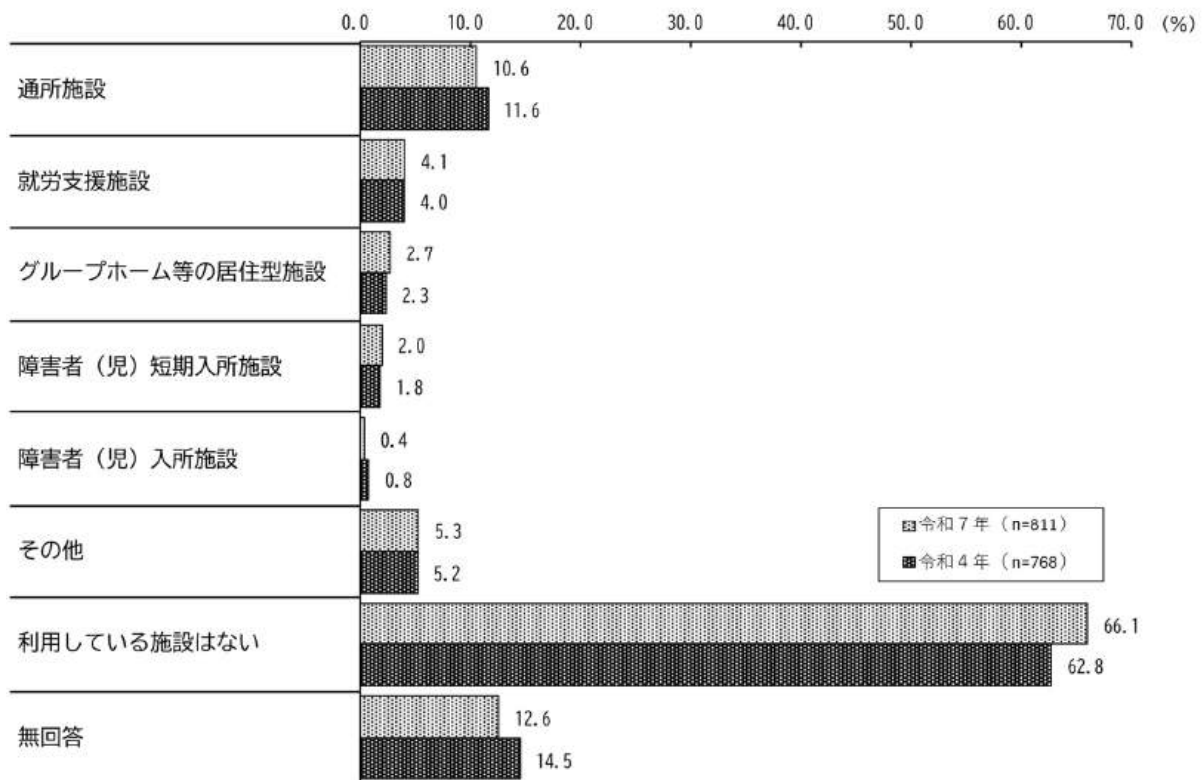
令和4年調査と比較すると、全体では、令和4年に続き「通所施設」、「就労支援施設」、「グループホーム等の居住型施設」の順で高くなっている。

調査票種別でみると、知的で「障害者（児）短期入所施設」が5.2ポイント、「就労支援施設」が5.0ポイントそれぞれ増加し、「通所施設」が8.7ポイント減少している。

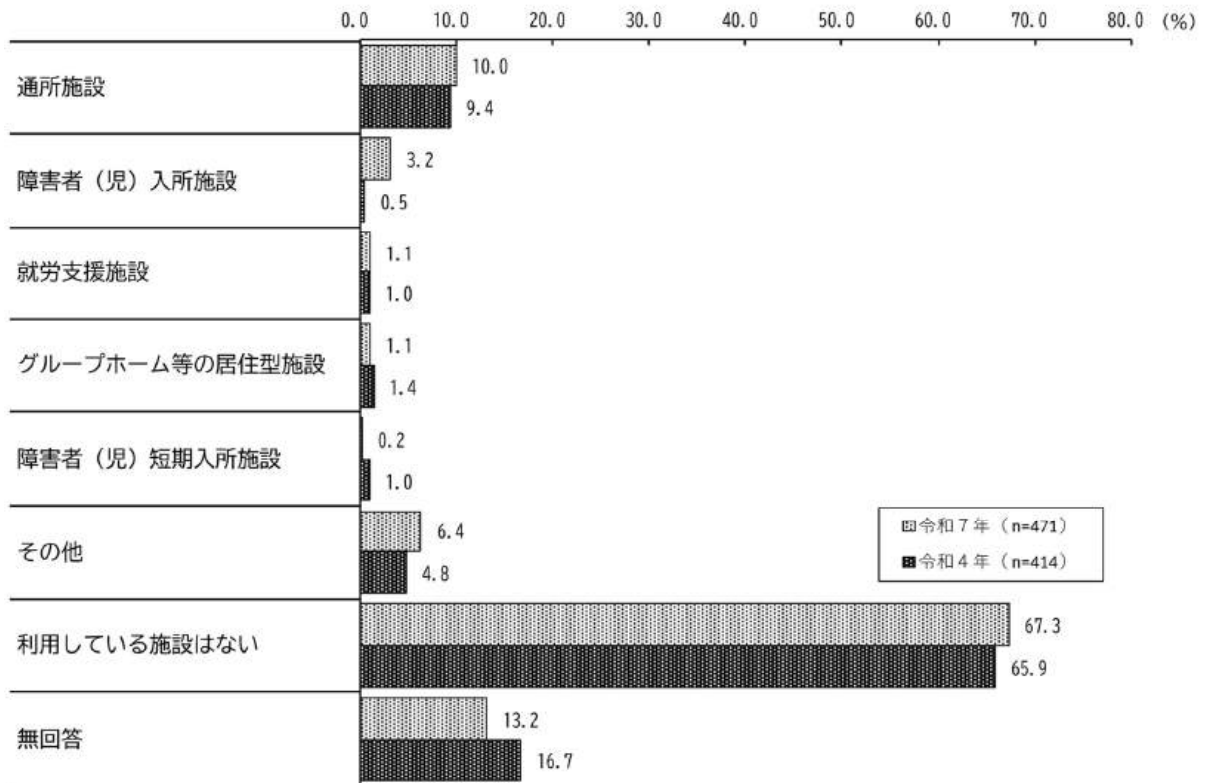
障害児でも令和4年と同傾向が続いており、「障害児通所サービス施設（児童発達支援）」で5.2ポイント増加している。

令和4年調査に引き続き、全体では「通所施設」の利用者が最も多く、障害児では「障害児通所サービス施設（児童発達支援）」が特に増加傾向であることから、今後も高いニーズが維持されると考えられるため、施設の拡充及び人員体制の強化が必要になると考えられる。

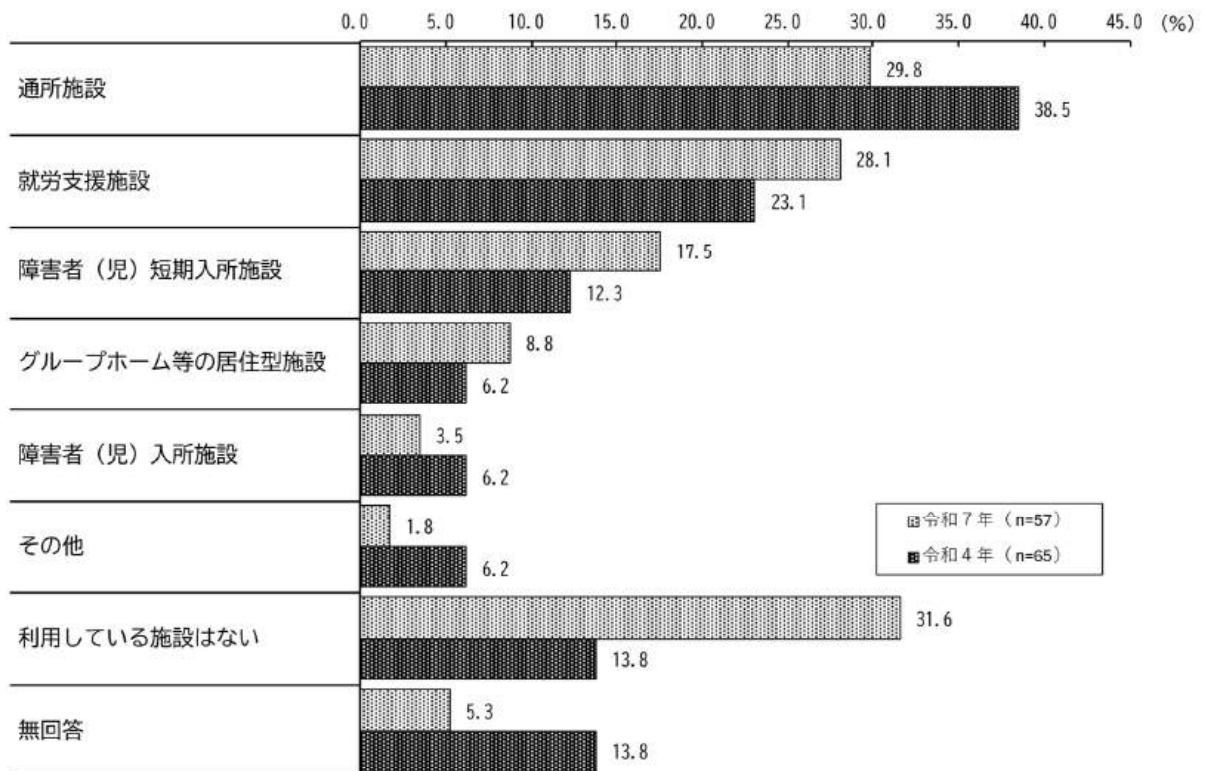
現在利用中の施設（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



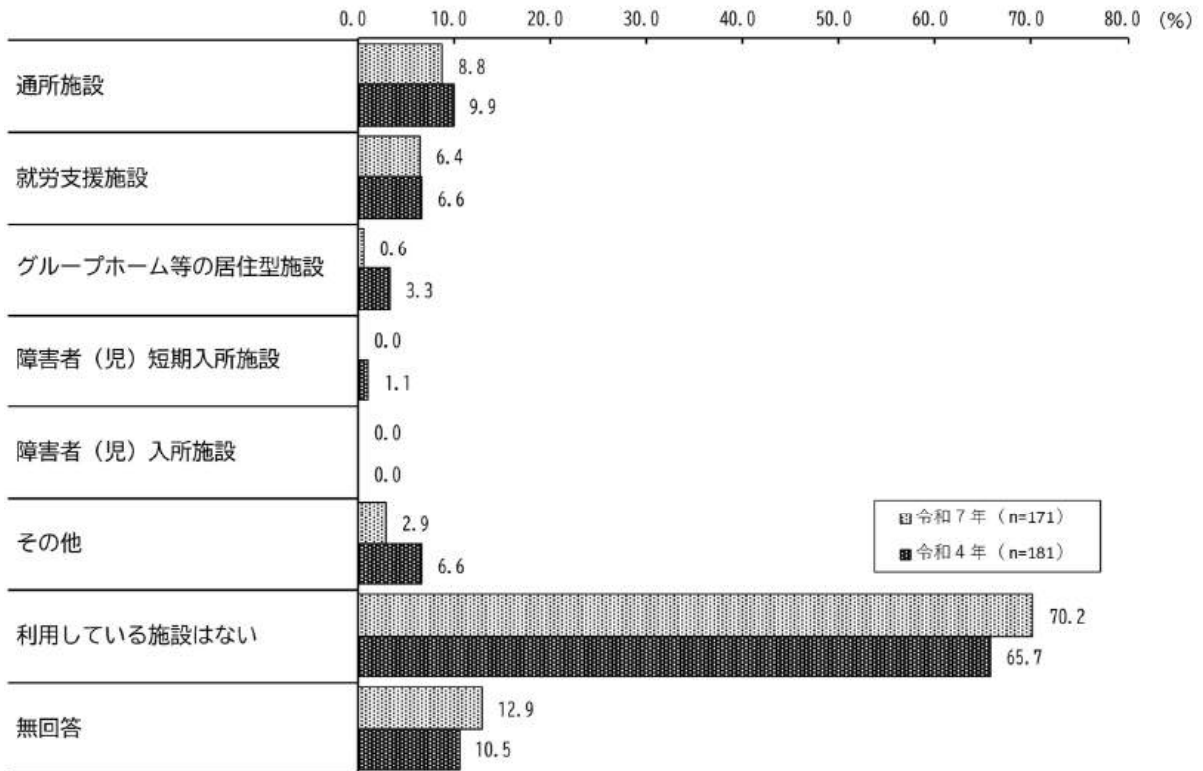
現在利用中の施設（経年比較）＜身体＞



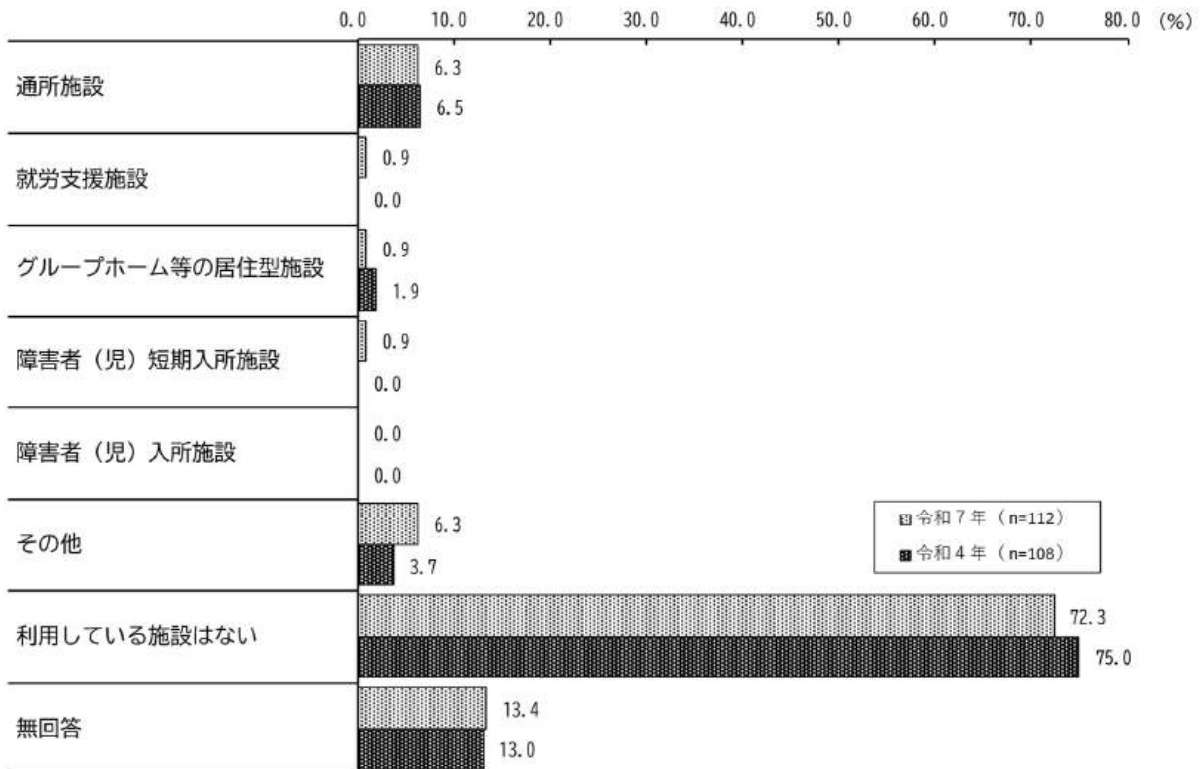
現在利用中の施設（経年比較）＜知的＞



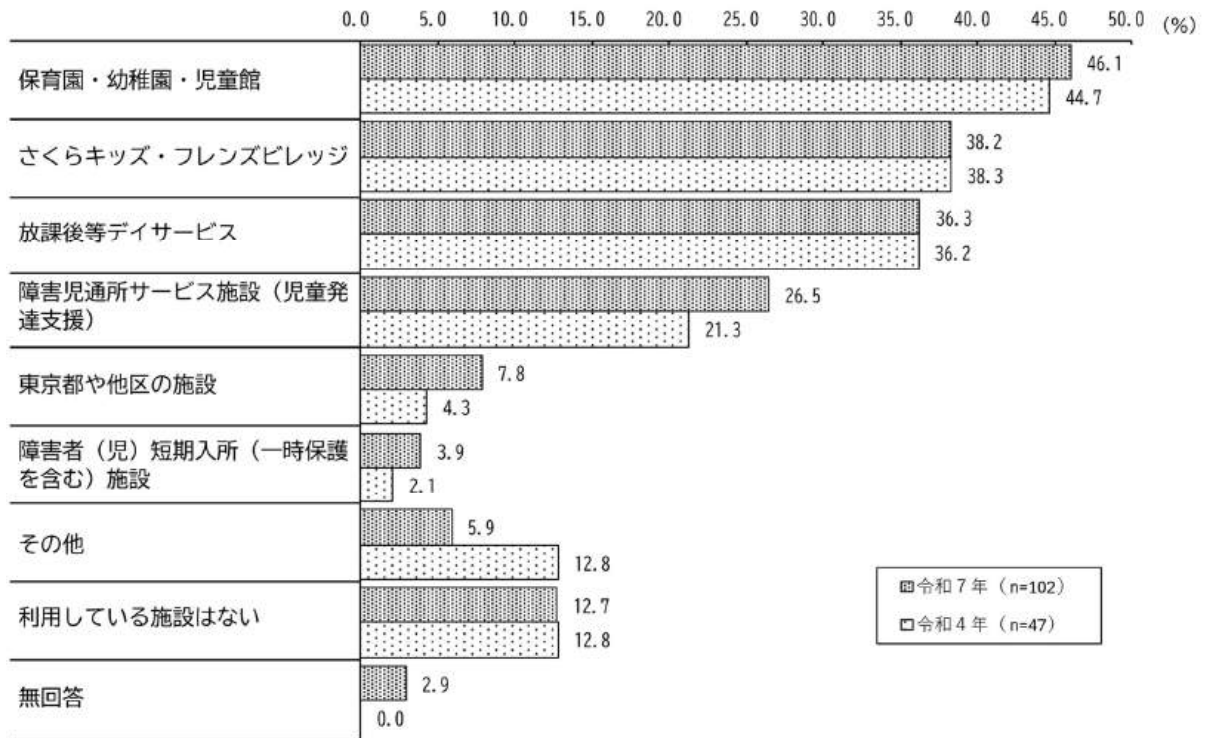
現在利用中の施設（経年比較）＜精神＞



現在利用中の施設（経年比較）＜難病＞



現在利用中の施設（経年比較）＜障害児＞



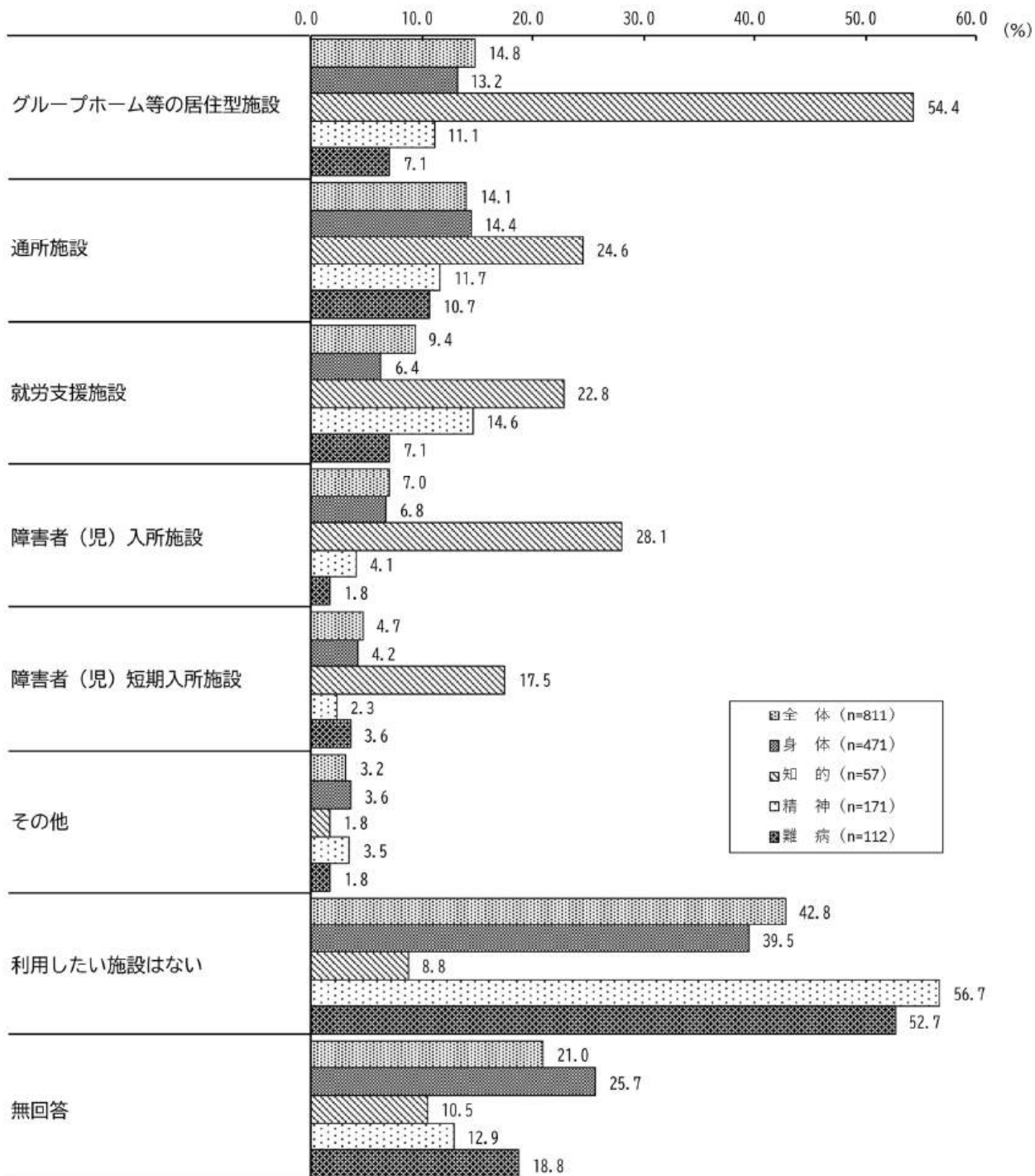
(2) 将来利用したい施設

問 将来利用したい施設は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

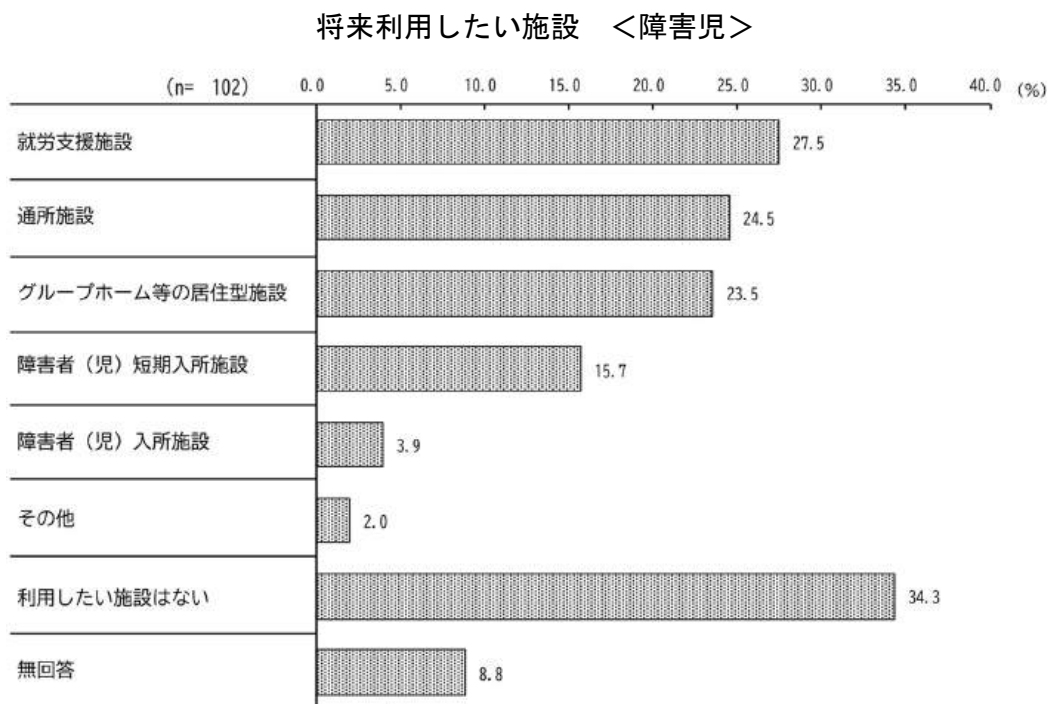
将来利用したい施設について、全体でみると、「グループホーム等の居住型施設」が14.8%で最も高く、次いで「通所施設」が14.1%、「就労支援施設」が9.4%などとなっている。

調査票種別でみると、身体と難病では「通所施設」、知的では「グループホーム等の居住型施設」、精神では「就労支援施設」の割合が最も高くなっている。

将来利用したい施設 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の将来利用したい施設をみると、「就労支援施設」が27.5%で最も高く、次いで「通所施設」が24.5%、「グループホーム等の居住型施設」が23.5%などとなっている。



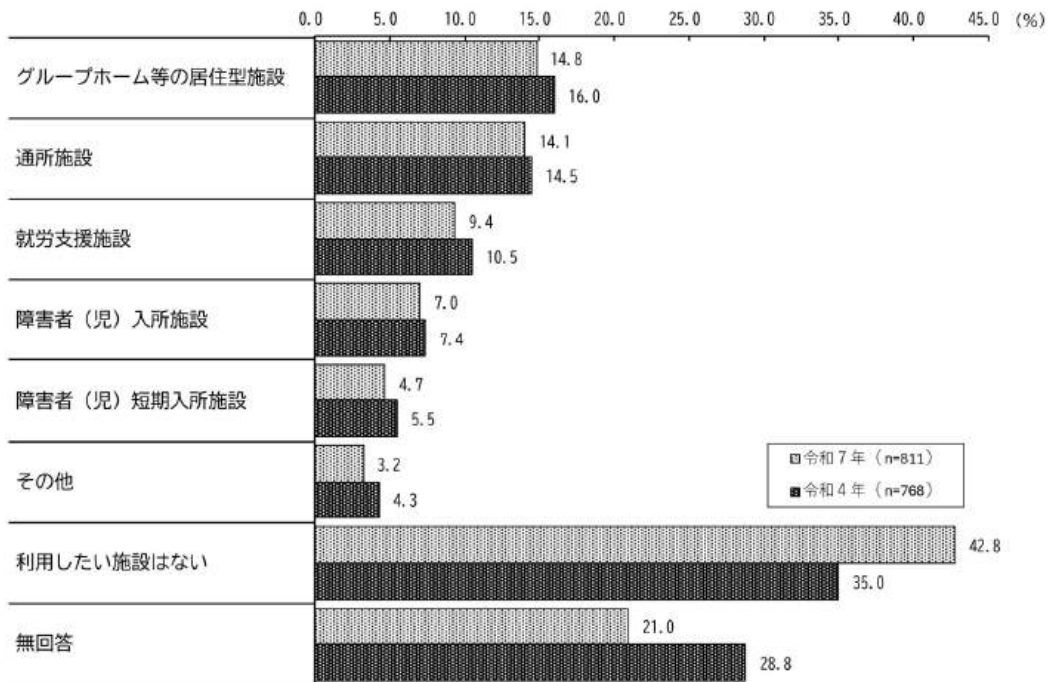
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられないがすべての項目で微減している。

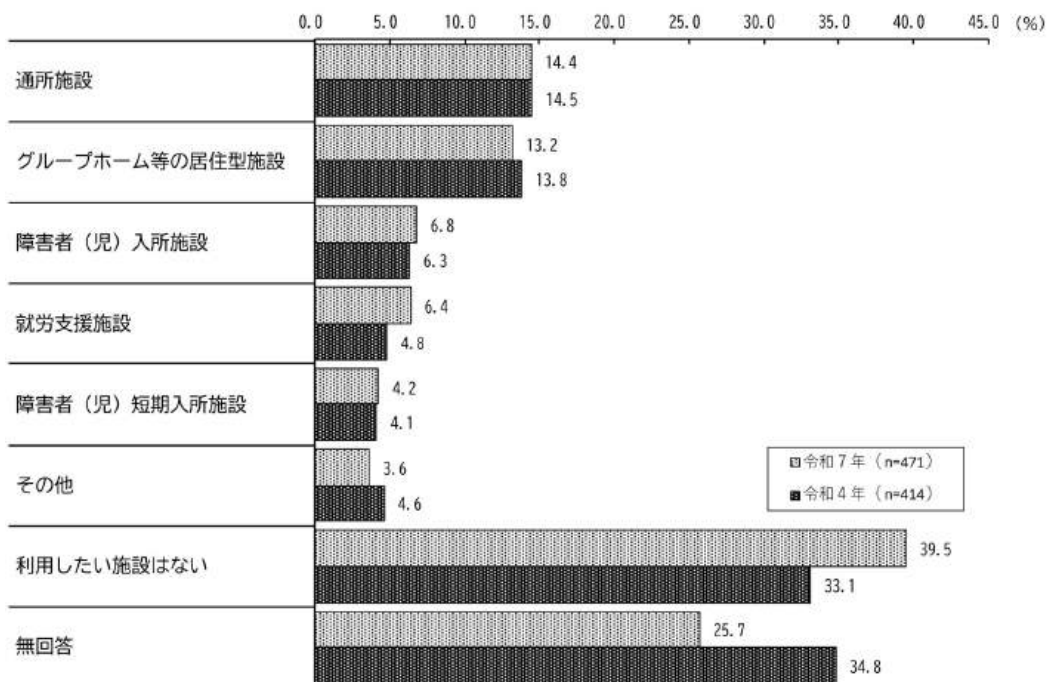
調査票種別でみると、知的で「グループホーム等の居住型施設」が8.2ポイント増加し、「就労支援施設」が21.8ポイント減少している。

障害児では「グループホーム等の居住型施設」が17.1ポイント、「障害者（児）短期入所施設」が13.6ポイントそれぞれ増加している。

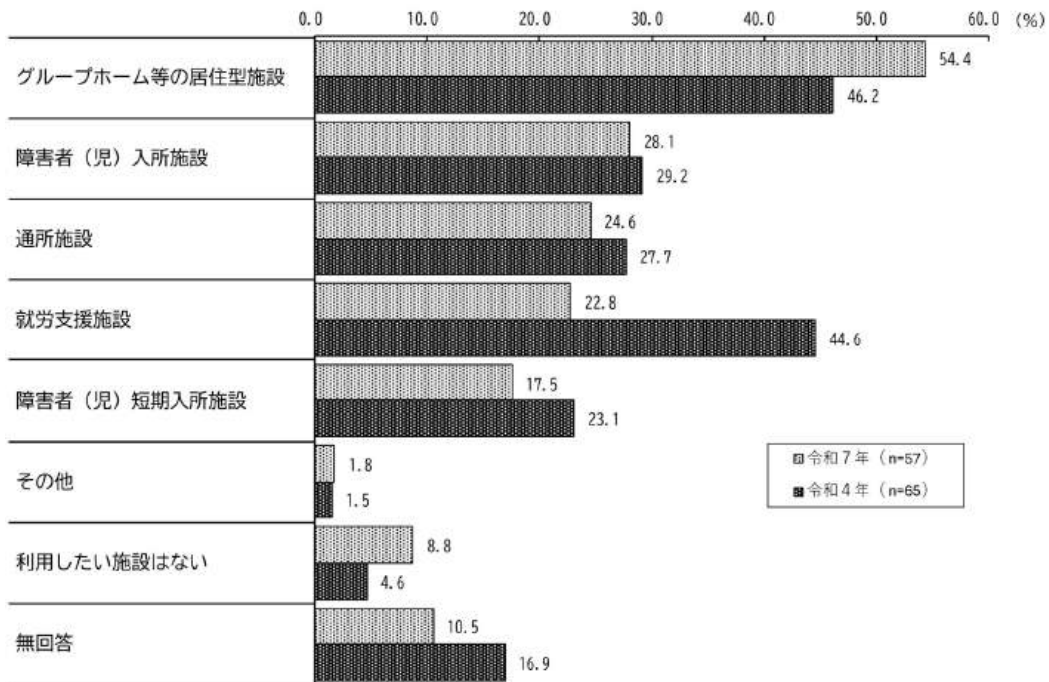
将来利用したい施設（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



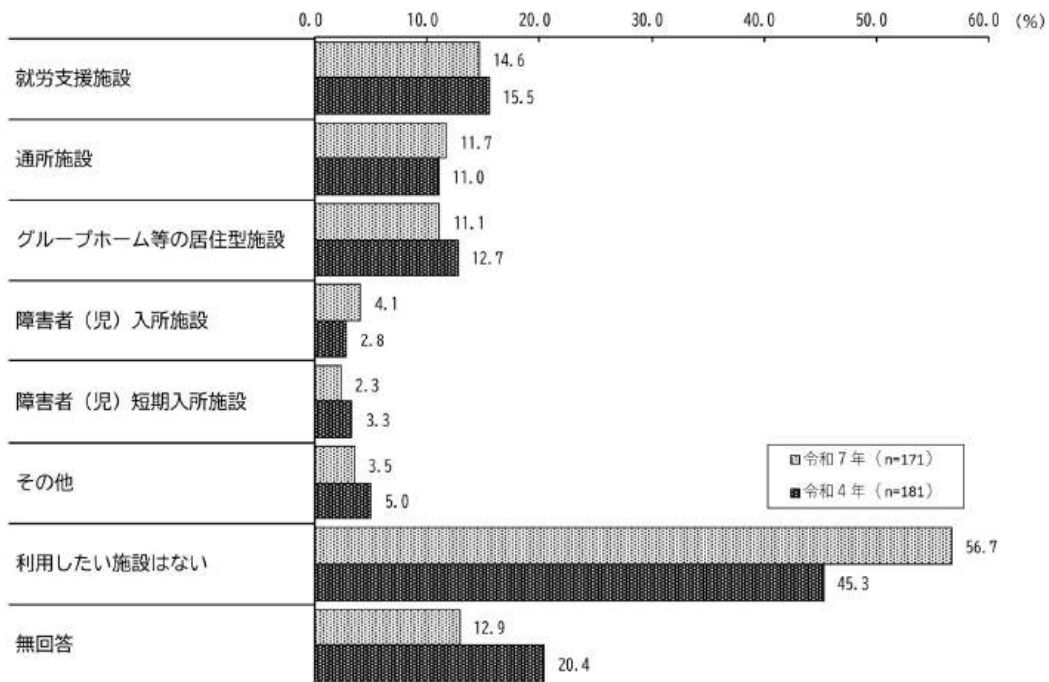
将来利用したい施設（経年比較）＜身体＞



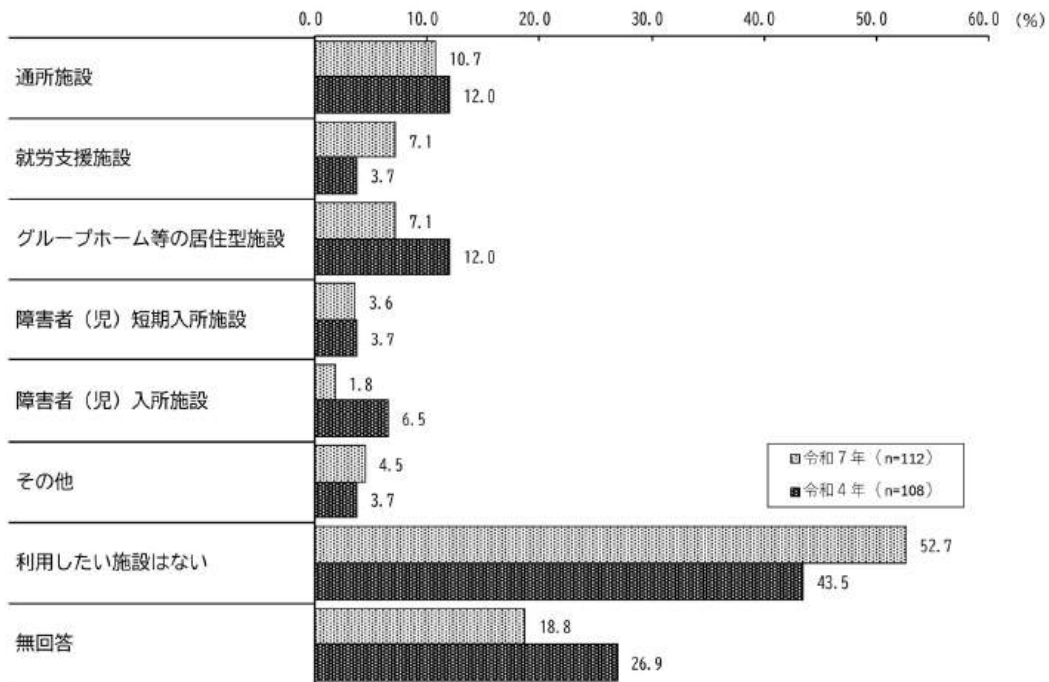
将来利用したい施設（経年比較）＜知的＞



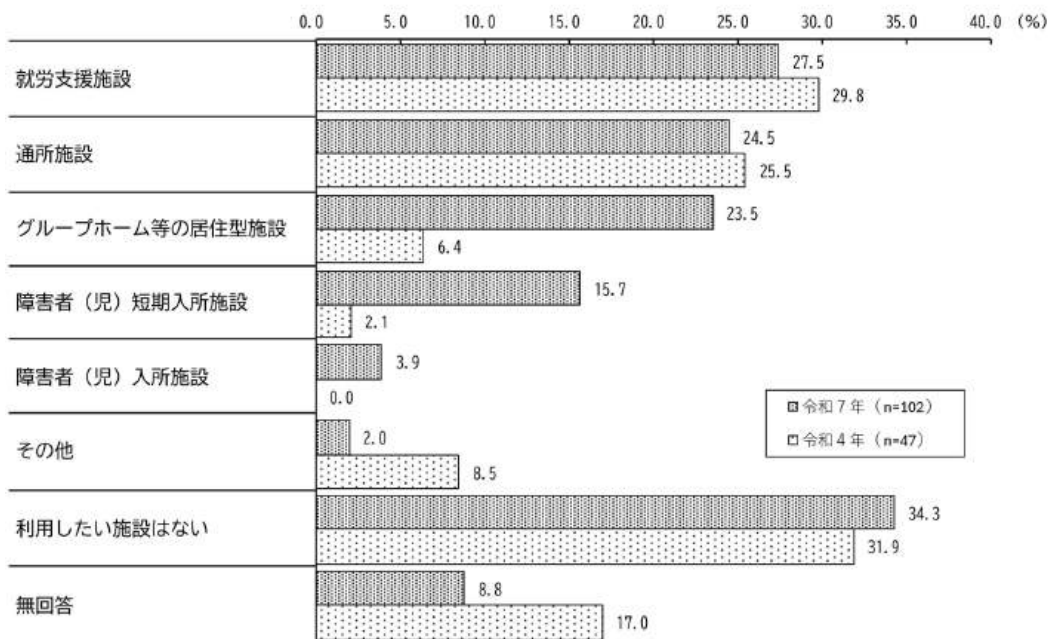
将来利用したい施設（経年比較）＜精神＞



将来利用したい施設（経年比較）＜難病＞



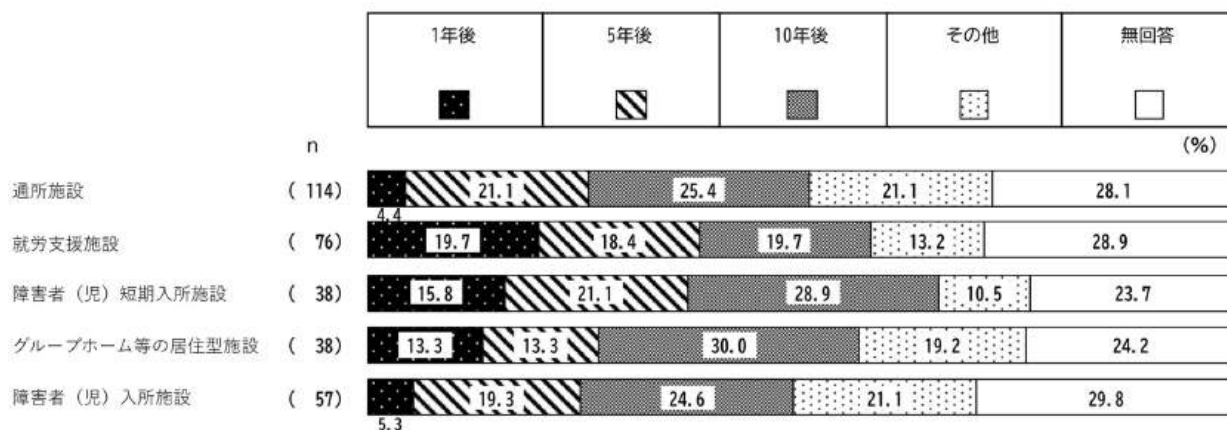
将来利用したい施設（経年比較）＜障害児＞



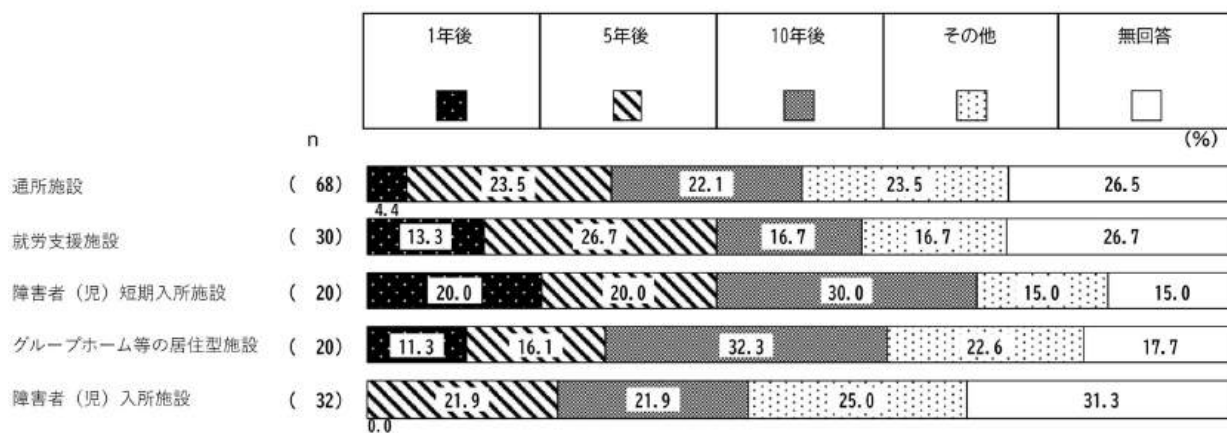
時期ごとの将来利用したい施設について、全体でみると、「1年後」は“就労支援施設”で19.7%、「5年後」は“通所施設”と“障害者（児）短期入所施設”で21.1%、「10年後」は“グループホーム等の居住型施設”で30.0%となっている。

障害児では、「1年後」と「5年後」は“障害者（児）短期入所施設”でそれぞれ31.3%、「10年後」は“就労支援施設”と“障害者（児）入所施設”で75.0%となっている。

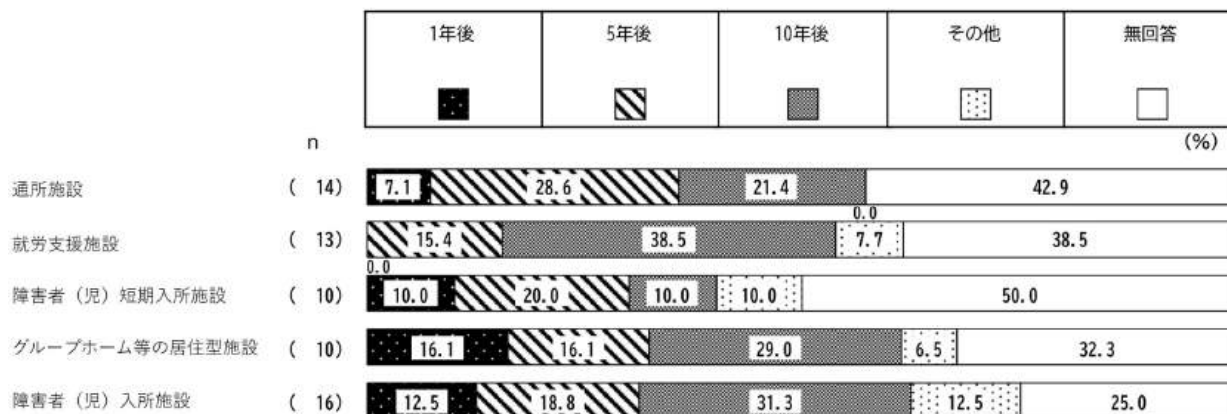
施設を利用したい時期 <全体（身体、知的、精神、難病）>



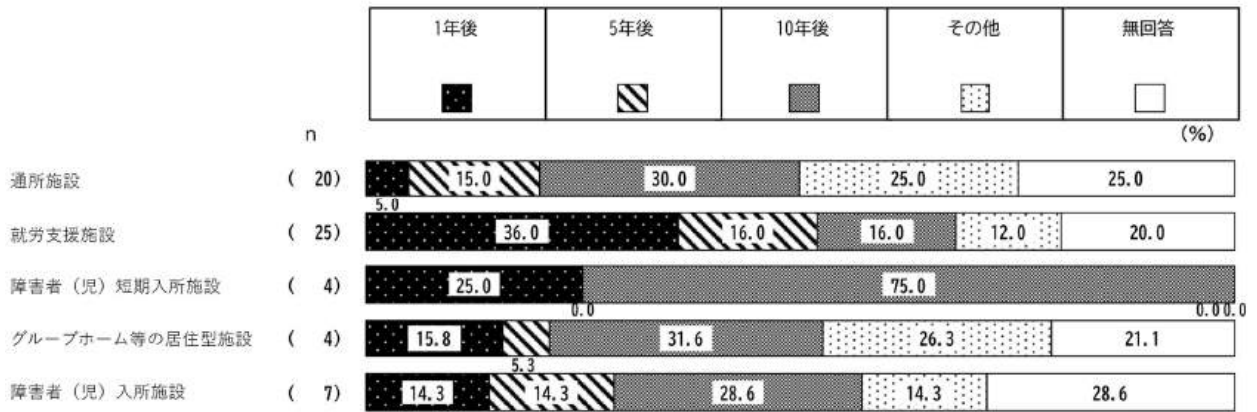
施設を利用したい時期 <身体>



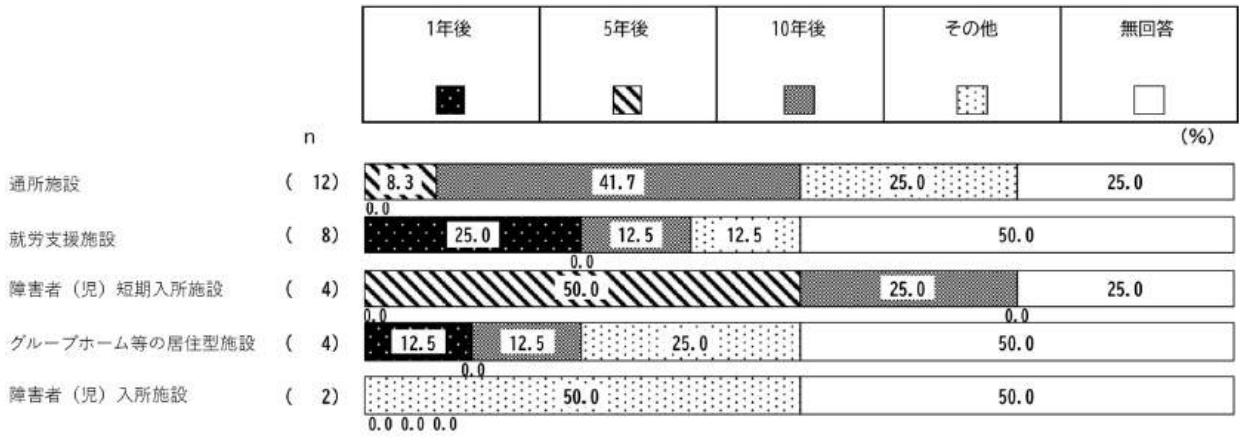
施設を利用したい時期 <知的>



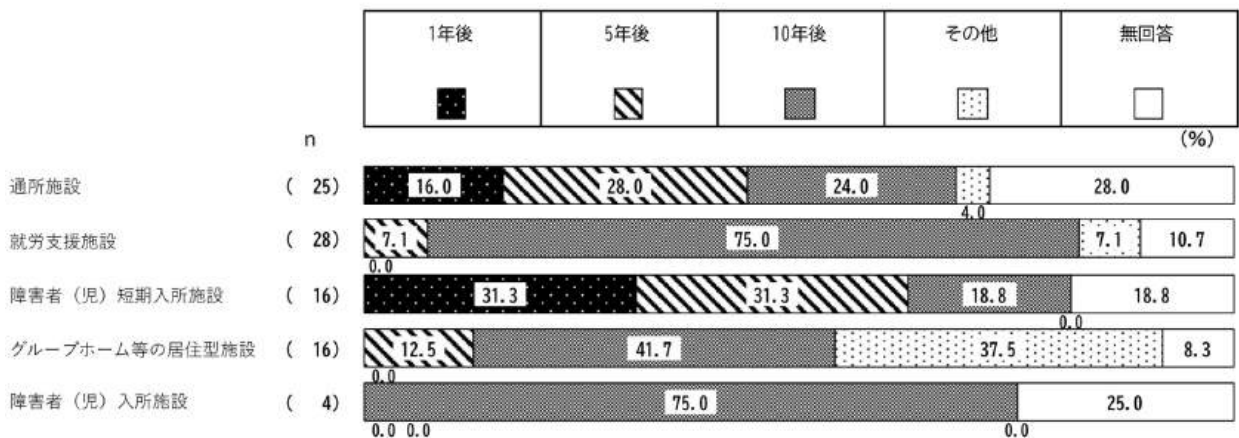
施設を利用したい時期 <精神>



施設を利用したい時期 <難病>



施設を利用したい時期 <障害児>



(3) 障害児について特に力を入れてほしい施策

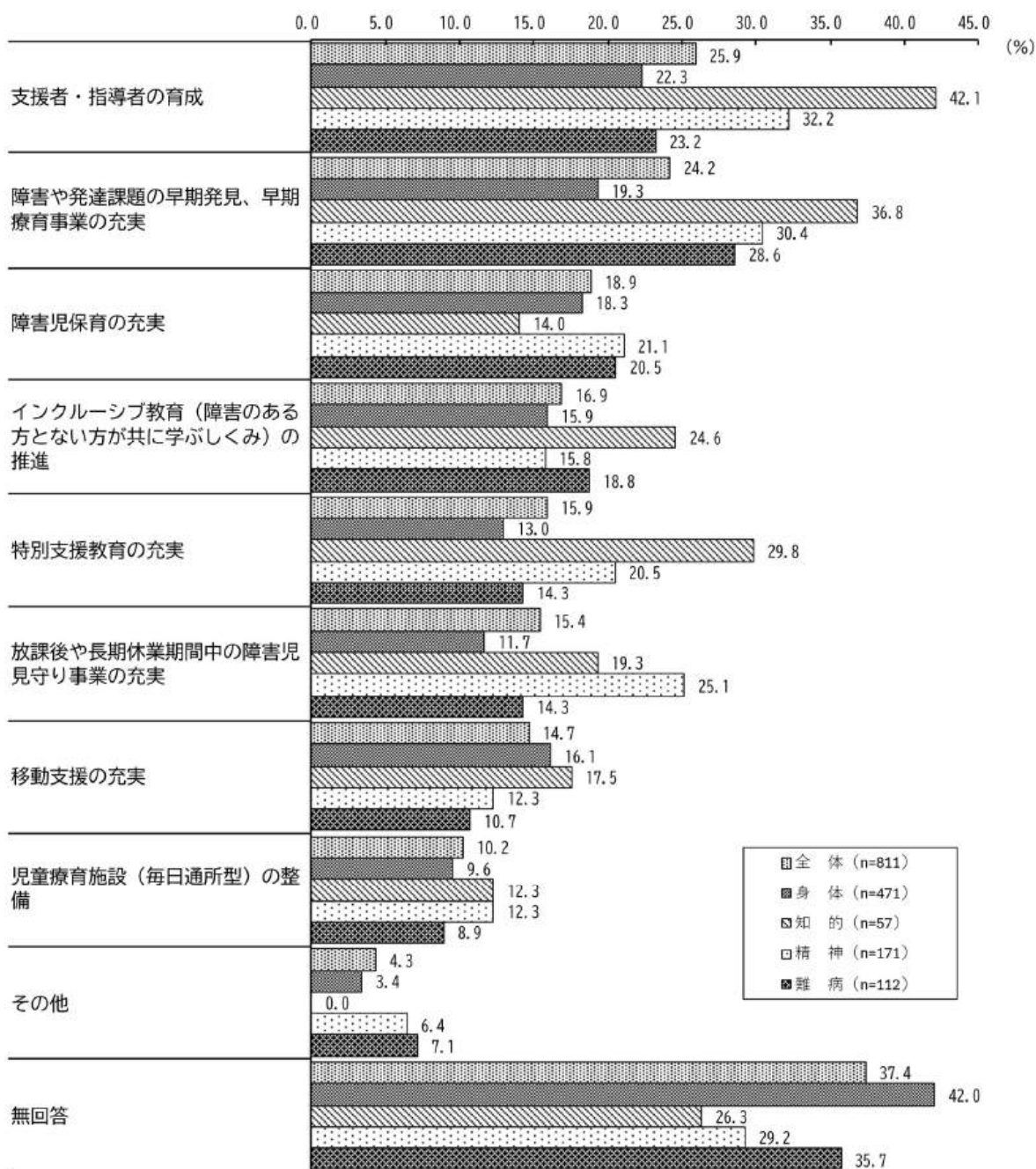
問 千代田区の障害者施策を推進する上で参考にさせていただくため、次の分野ごとのうち特に力を入れてほしい施策についてお答えください。

(1) 障害児について (〇は4つまで)

障害児について特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「支援者・指導者の育成」が25.9%で最も高く、次いで「障害や発達課題の早期発見、早期療育事業の充実」が24.2%、「障害児保育の充実」が18.9%などとなっている。

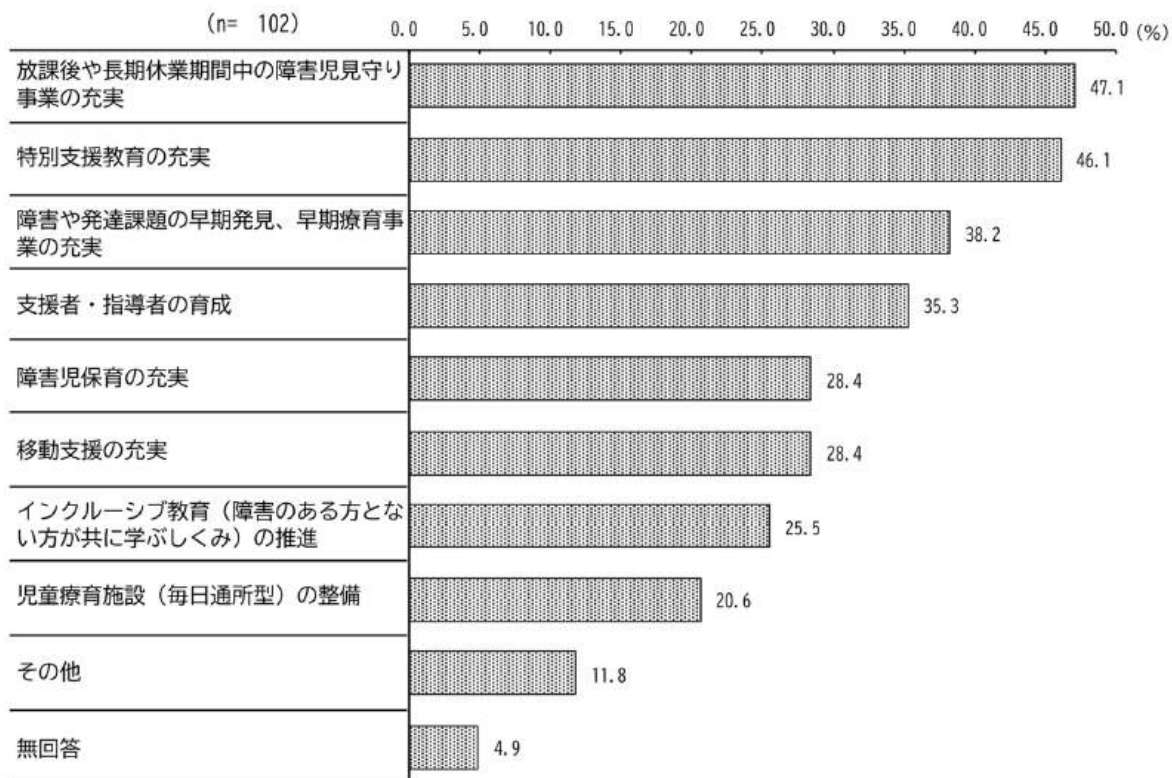
調査票種別で見ると、身体、知的、精神では「支援者・指導者の育成」、難病では「障害や発達課題の早期発見、早期療育事業の充実」の割合が最も高くなっている。

障害児について特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児自身が、障害児について特に力を入れてほしい施策をみると、「放課後や長期休業期間中の障害児見守り事業の充実」が47.1%で最も高く、次いで「特別支援教育の充実」が46.1%、「障害や発達課題の早期発見、早期療育事業の充実」が38.2%などとなっている。

障害児について特に力を入れてほしい施策 <障害児>



【経年比較】

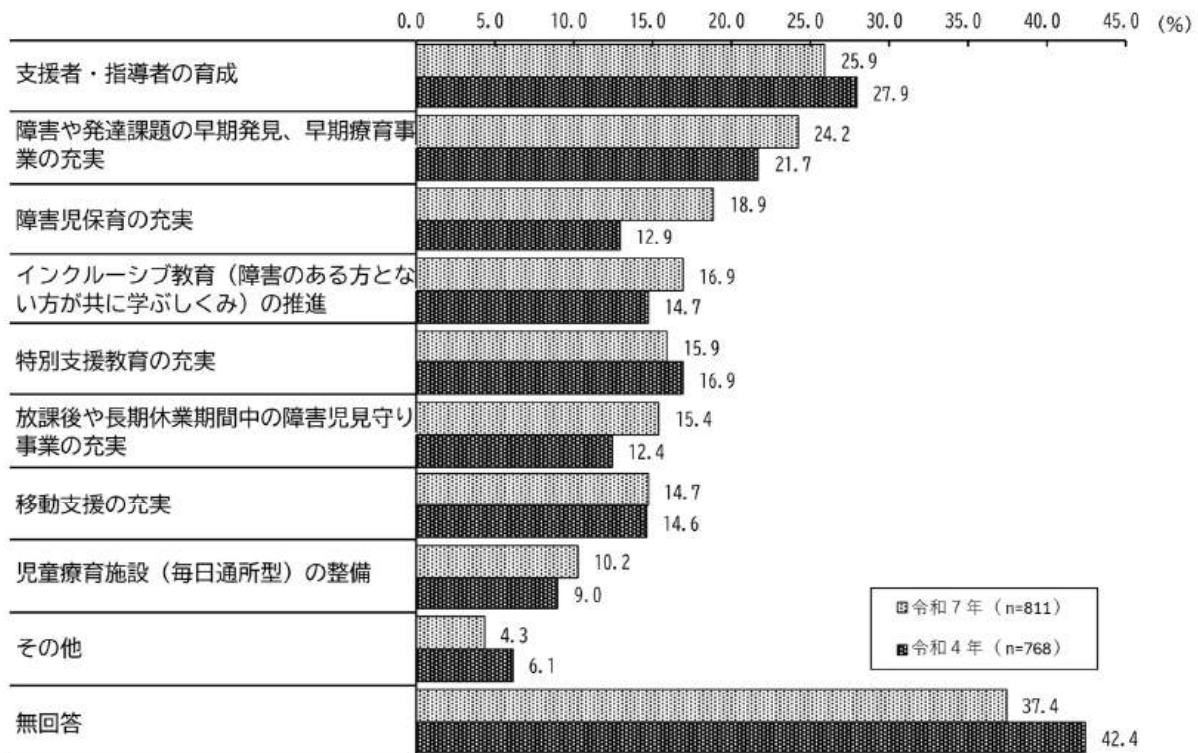
令和4年調査と比較すると、全体では、「障害児保育の充実」が6.0ポイント、「放課後や長期休業期間中の障害児見守り事業の充実」が3.0ポイントそれぞれ増加している。

調査票種別でみると、「放課後や長期休業期間中の障害児見守り事業の充実」は精神で16.8ポイント増加し、知的で14.5ポイント減少している。

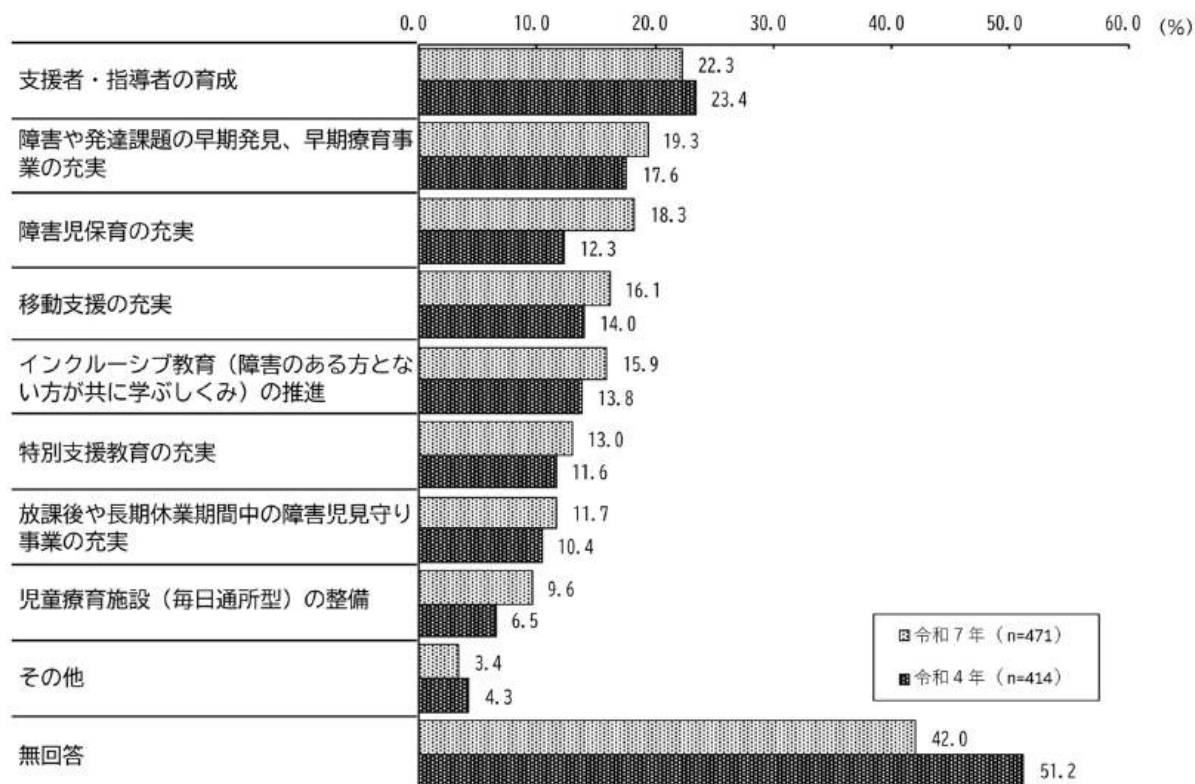
障害児では「移動支援の充実」が17.8ポイント増加し、「支援者・指導者の育成」が17.9ポイント減少している。

全体では令和4年から引き続き「支援者・指導者の育成」が最も望まれていることから、障害者一人ひとりが安心して健康的な生活を送れるよう、支援者・指導者の更なる拡充・質の向上が求められる。障害児では「放課後や長期休業期間中の障害児見守り事業の充実」が最も望まれていることから、介助等における家族の負担軽減及び社会全体で子どもを見守り育てることが必要とされている。

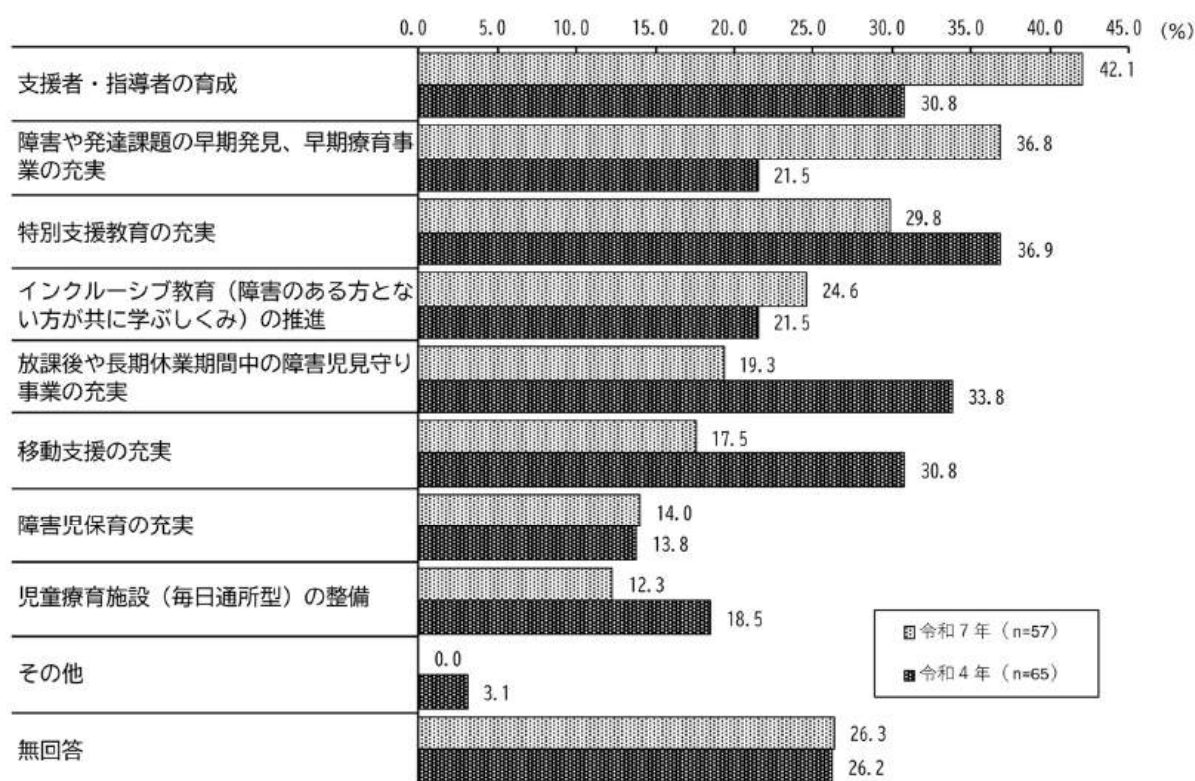
障害児について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



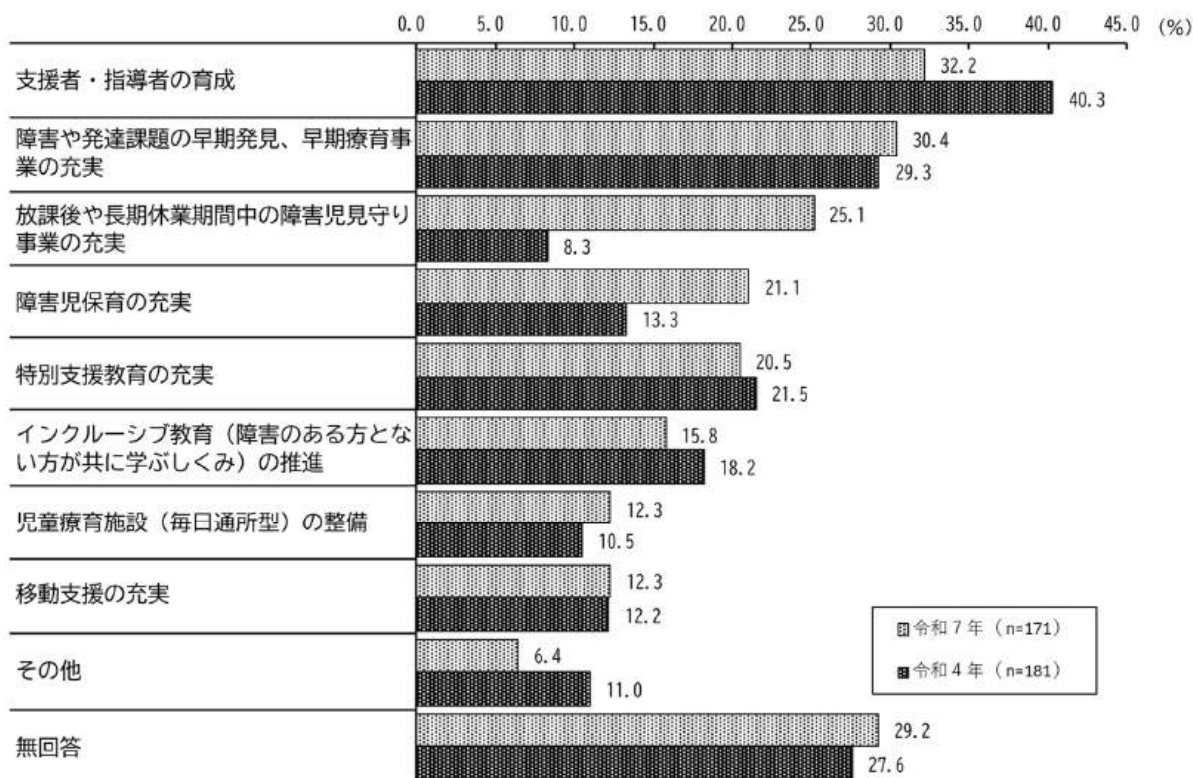
障害児について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜身体＞



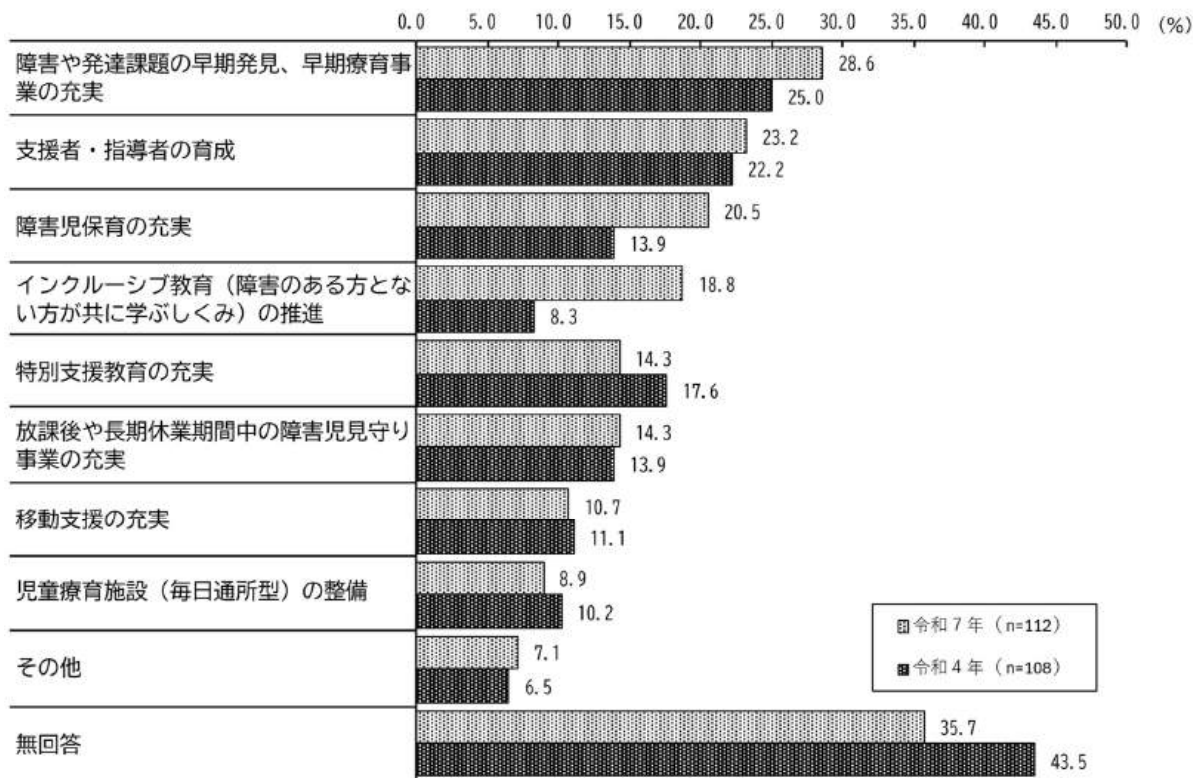
障害児について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜知的＞



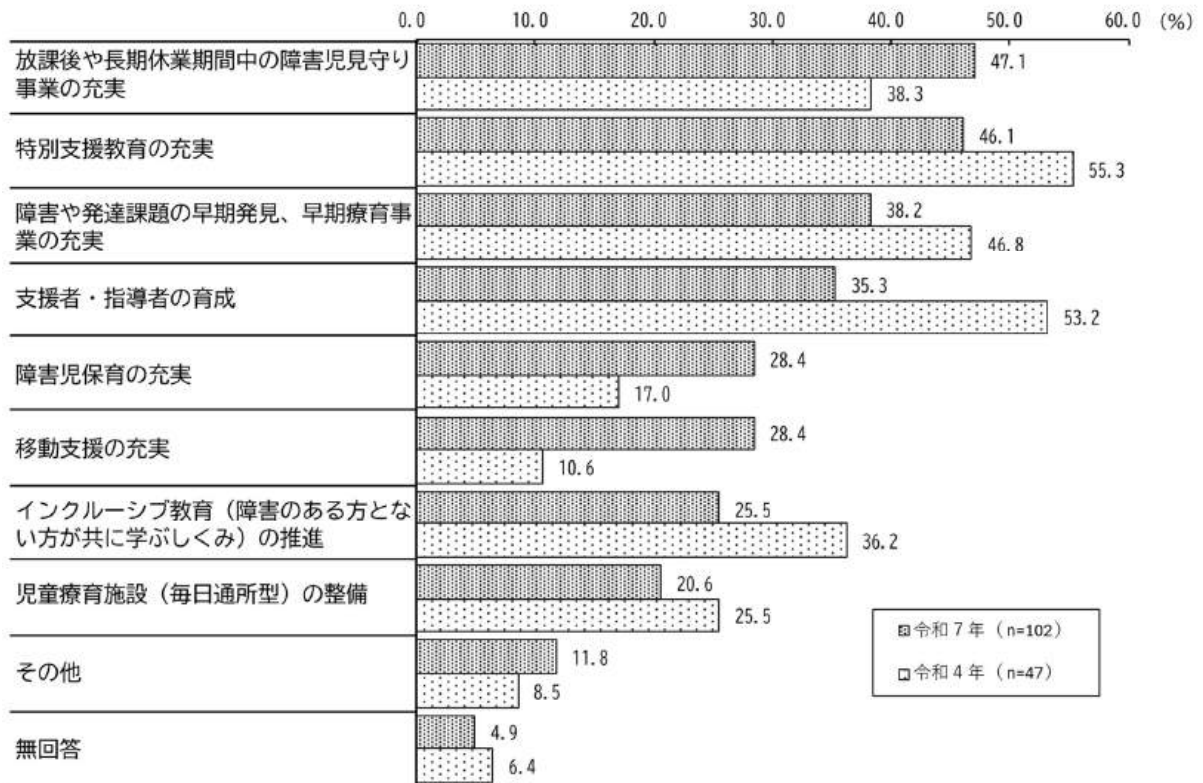
障害児について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜精神＞



障害児について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜難病＞



障害児について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜障害児＞



(4) 住まいについて特に力を入れてほしい施策

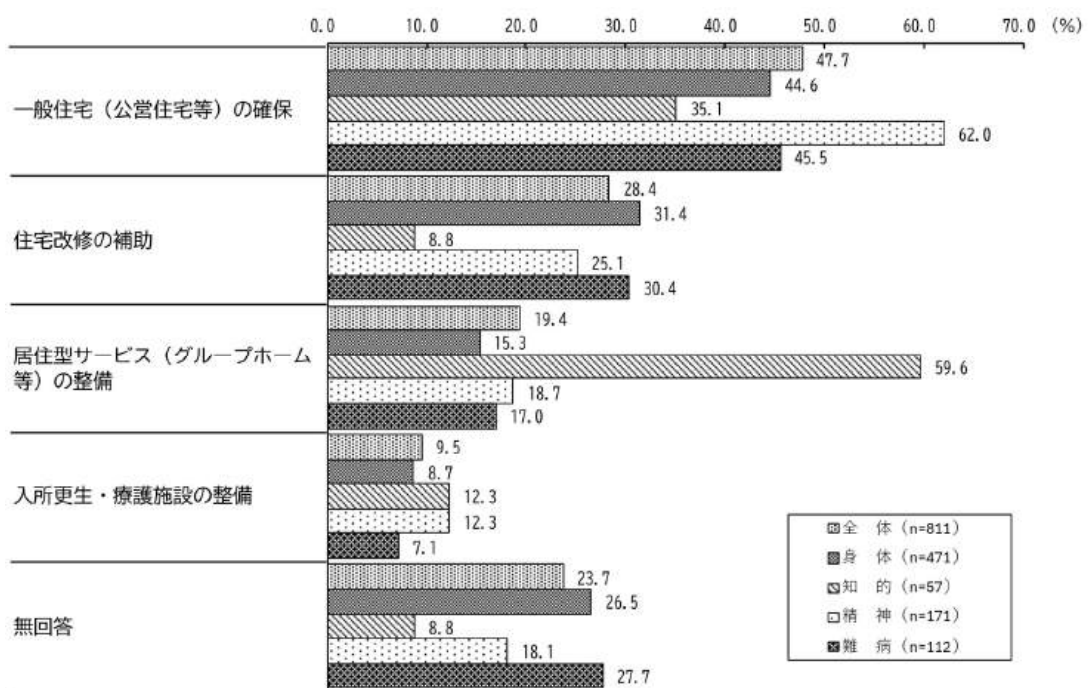
問 千代田区の障害者施策を推進する上で参考にさせていただくため、次の分野ごとのうち特に力を入れてほしい施策についてお答えください。

(2) 住まいについて (〇は2つまで)

住まいについて特に力を入れてほしい施策について、全体でみると、「一般住宅（公営住宅等）の確保」が47.7%で最も高く、次いで「住宅改修の補助」が28.4%、「居住型サービス（グループホーム等）の整備」が19.4%などとなっている。

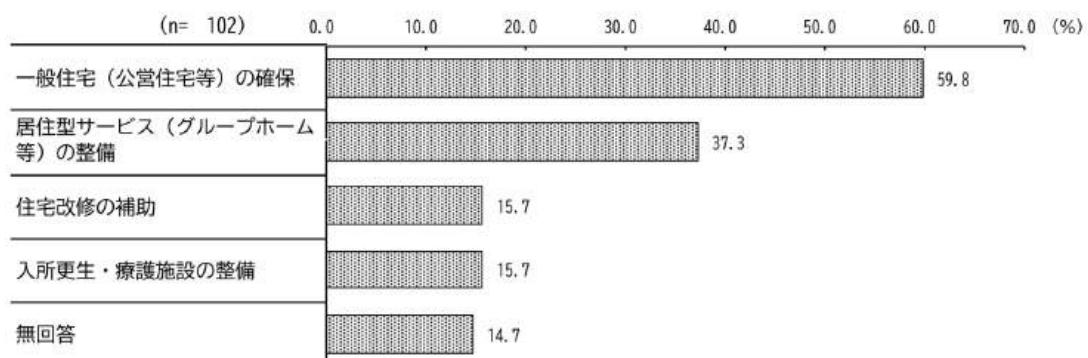
調査票種別でみると、身体、精神、難病では「一般住宅（公営住宅等）の確保」、知的では「居住型サービス（グループホーム等）の整備」の割合が最も高くなっている。

住まいについて特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の住まいについて特に力を入れてほしい施策をみると、「一般住宅（公営住宅等）の確保」が59.8%で最も高く、次いで「居住型サービス（グループホーム等）の整備」が37.3%、「住宅改修の補助」、「入所更生・療護施設の整備」がそれぞれ15.7%などとなっている。

住まいについて特に力を入れてほしい施策 <障害児>



【経年比較】

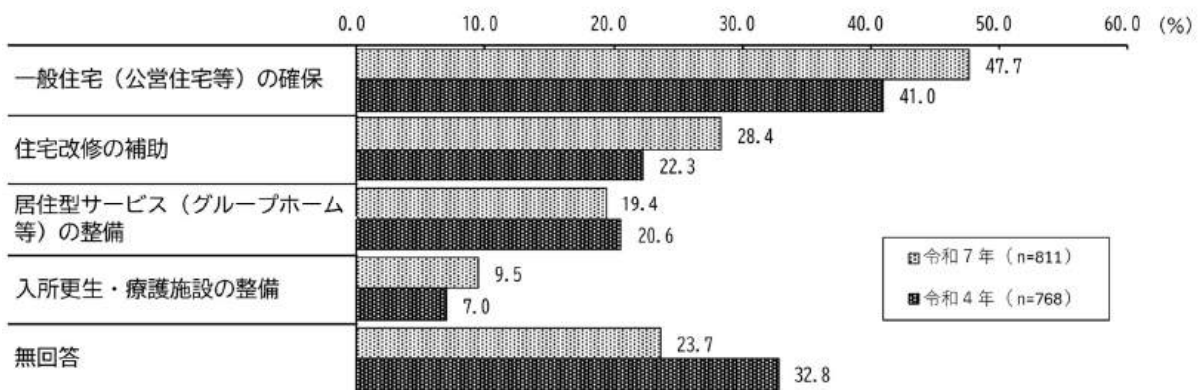
令和4年調査と比較すると、全体では、「一般住宅（公営住宅等）の確保」が6.7ポイント、「住宅改修の補助」が6.1ポイントそれぞれ増加している。

調査票種別でみると、難病で「一般住宅（公営住宅等）の確保」が9.4ポイント増加し、「居住型サービス（グループホーム等）の整備」が3.4ポイント減少している。

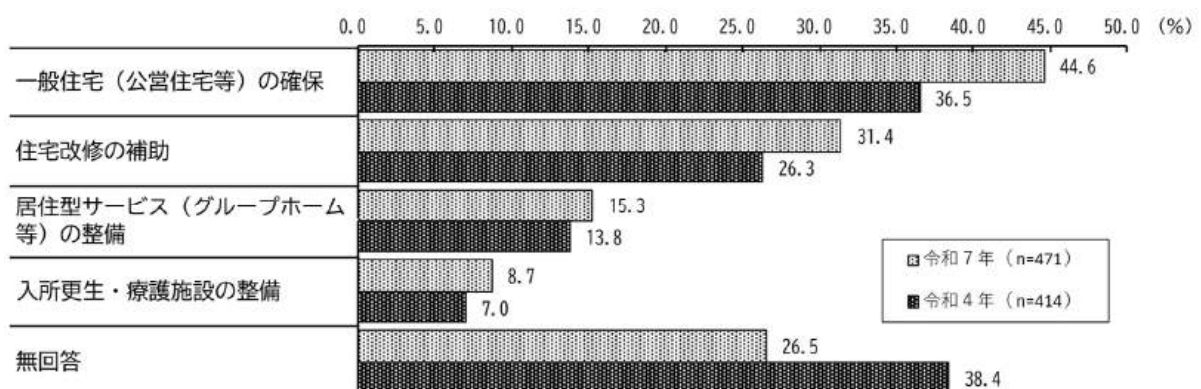
障害児では、「入所更生・療護施設の整備」が13.6ポイント、「居住型サービス（グループホーム等）の整備」が9.6ポイントそれぞれ増加し、「一般住宅（公営住宅等）の確保」が10.4ポイント減少している。

全体・障害児ともに令和4年に引き続き「一般住宅（公営住宅等）の確保」が最も望まれており、かつ全体における「住宅改修の補助」への期待が高まっていることから、環境を変えることなく長く住み続けていきたいというニーズに伴い、在宅での福祉サービスの需要が今後より一層高まることが示唆される。

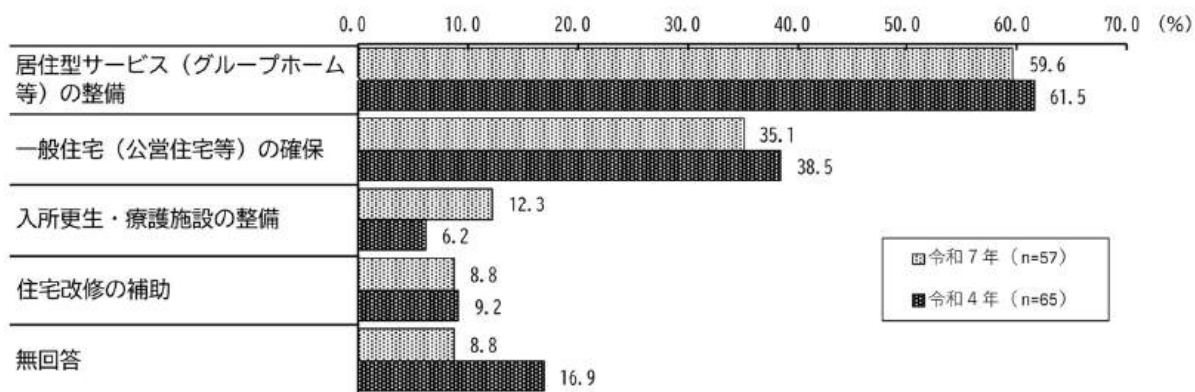
住まいについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



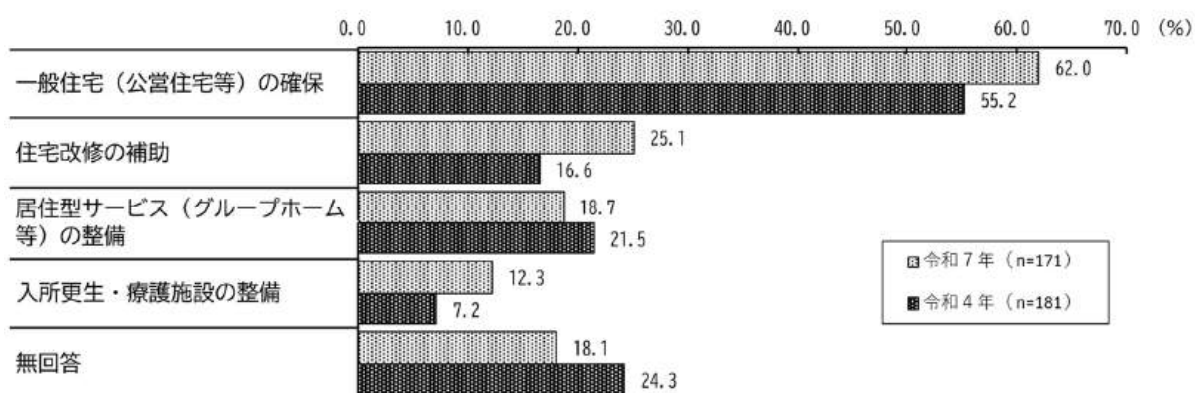
住まいについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜身体＞



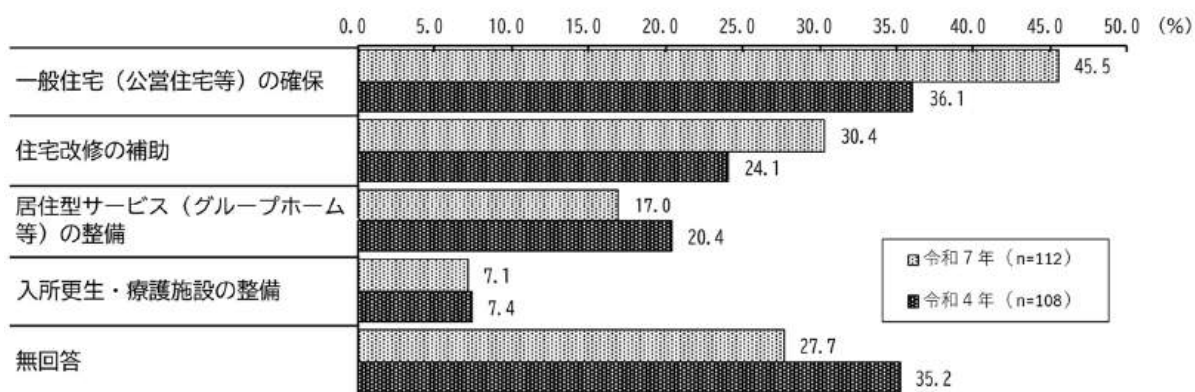
住まいについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜知的＞



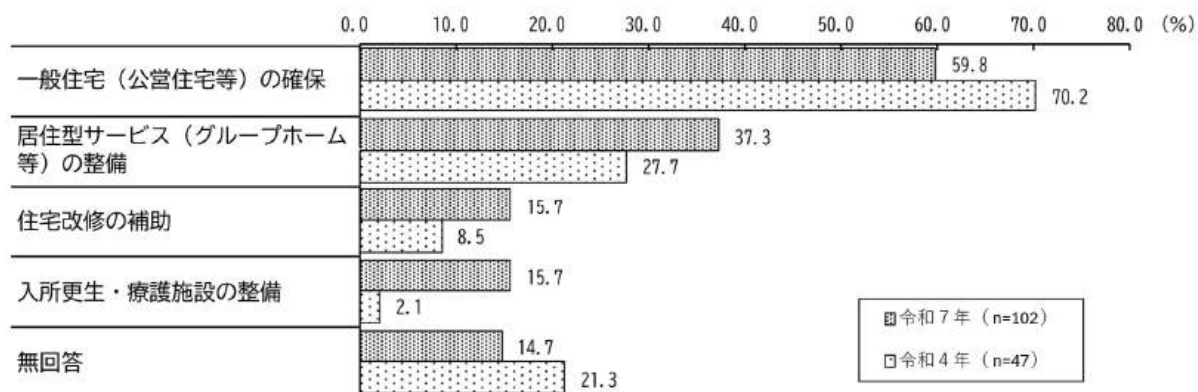
住まいについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜精神＞



住まいについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜難病＞



住まいについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜障害児＞



(5) 就労について特に力を入れてほしい施策

問 千代田区の障害者施策を推進する上で参考にさせていただくため、次の分野ごとのうち特に力を入れてほしい施策についてお答えください。

(3) 就労について (〇は1つだけ)

就労について特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「一般企業への就労促進」が24.0%で最も高く、次いで「職業訓練の充実」が12.0%、「支援者教育の充実」が11.8%などとなっている。

調査票種別で見ると、精神では「一般企業への就労促進」が36.8%、知的では「就労支援施設の充実」が24.6%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

就労について特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の就労について特に力を入れてほしい施策をみると、「一般企業への就労促進」が41.2%で最も高く、次いで「職業訓練の充実」が22.5%、「就労支援施設の充実」が14.7%などとなっている。

就労について特に力を入れてほしい施策 <障害児>



【経年比較】

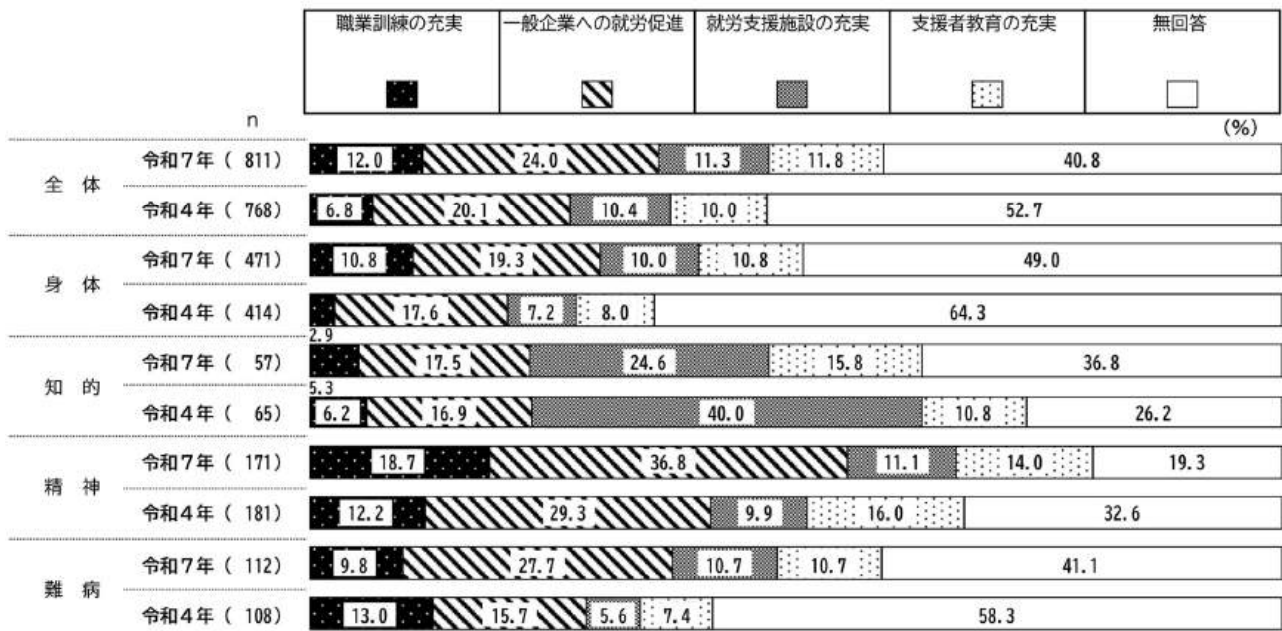
令和4年調査と比較すると、いずれの項目も増加傾向にあり、特に「職業訓練の充実」が5.2ポイント増加している。

調査票種別でみると、難病で「一般企業への就労促進」が12.0ポイント増加し、知的で「就労支援施設の充実」が15.4ポイント減少している。

障害児では「一般企業への就労促進」が11.4ポイント、「就労支援施設の充実」が10.4ポイントそれぞれ増加している。

全体・障害児ともに令和4年から引き続き「一般企業への就労促進」が最も望まれており、一般企業への就労意識が依然として高い傾向にある。また全体では、「職業訓練の充実」が令和4年から最も増加傾向にあることから、環境や体制を整備・強化していくことが求められる。

就労について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



就労について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜障害児＞



(6) 生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策

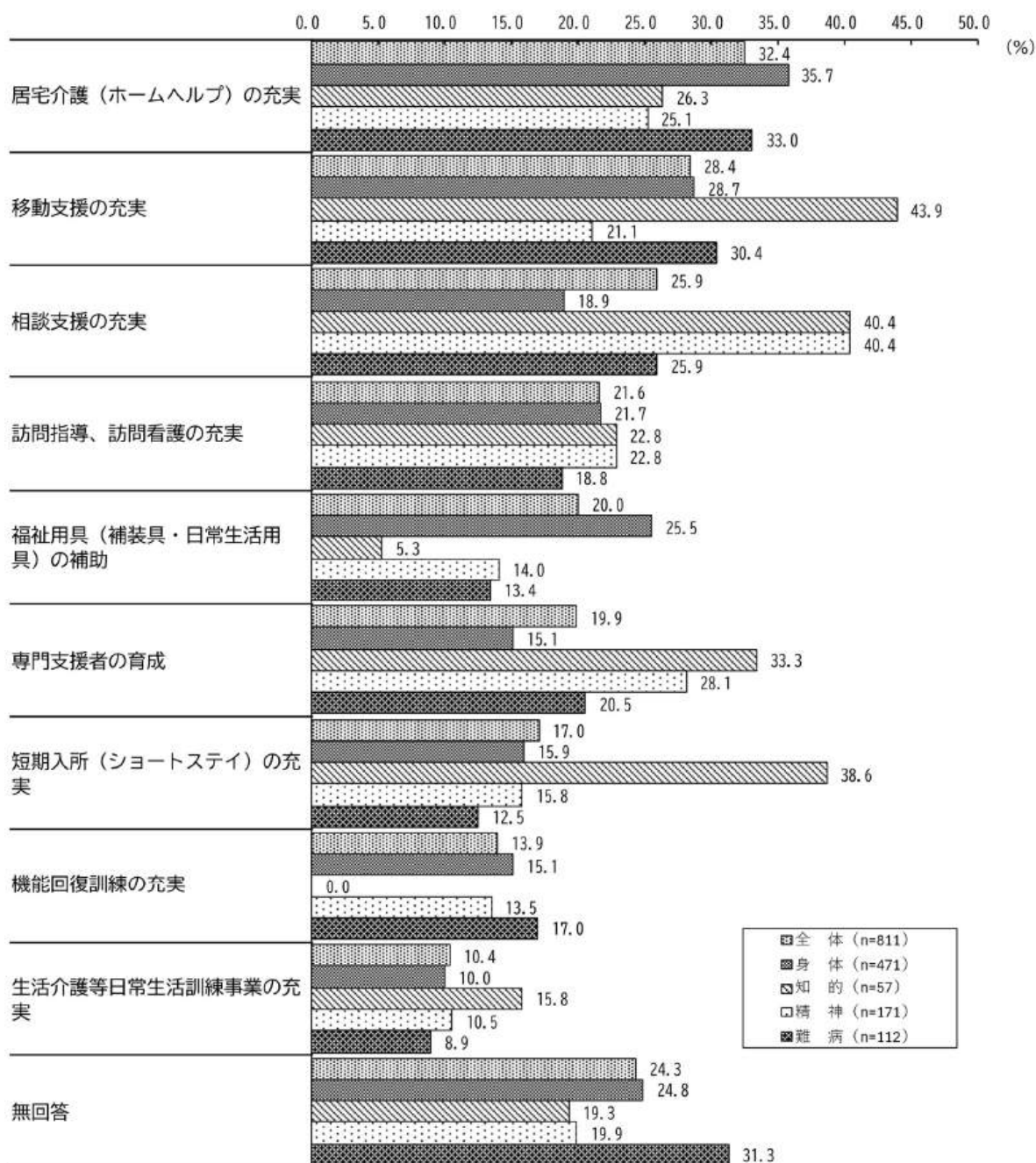
問 千代田区の障害者施策を推進する上で参考にさせていただくため、次の分野ごとのうち特に力を入れてほしい施策についてお答えください。

(4) 生活上のサービスについて (〇は4つまで)

生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「居宅介護（ホームヘルプ）の充実」が32.4%で最も高く、次いで「移動支援の充実」が28.4%、「相談支援の充実」が25.9%などとなっている。

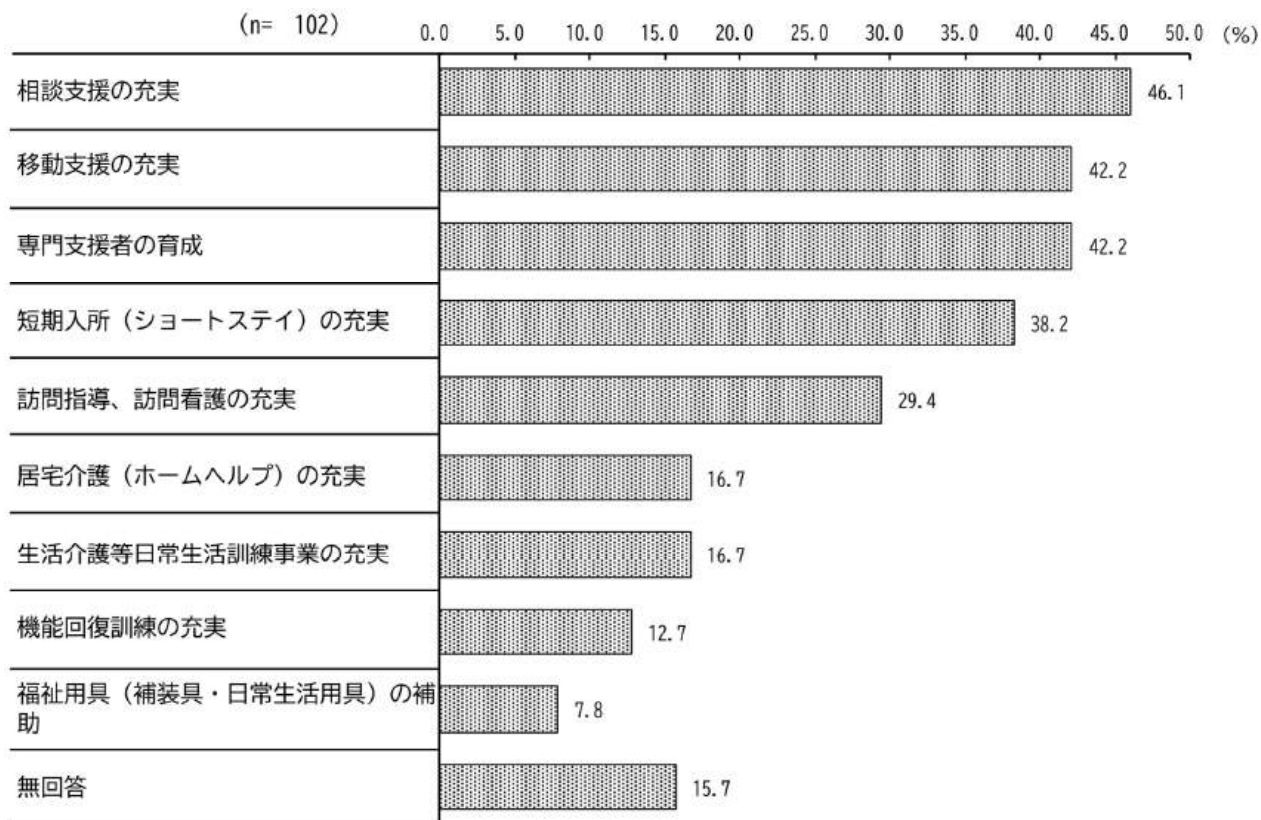
調査票種別で見ると、身体、難病では「居宅介護（ホームヘルプ）の充実」、知的では「移動支援の充実」、精神では「相談支援の充実」の割合が最も高くなっている。

生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策をみると、「相談支援の充実」が46.1%で最も高く、次いで「移動支援の充実」と「専門支援者の育成」がそれぞれ42.2%、「短期入所（ショートステイ）の充実」が38.2%などとなっている。

生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策 <障害児>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、前回同様「居宅介護（ホームヘルプ）の充実」が最も高く、「生活介護等日常生活訓練事業の充実」が3.2ポイント増加しているが、傾向の違いは見られない。

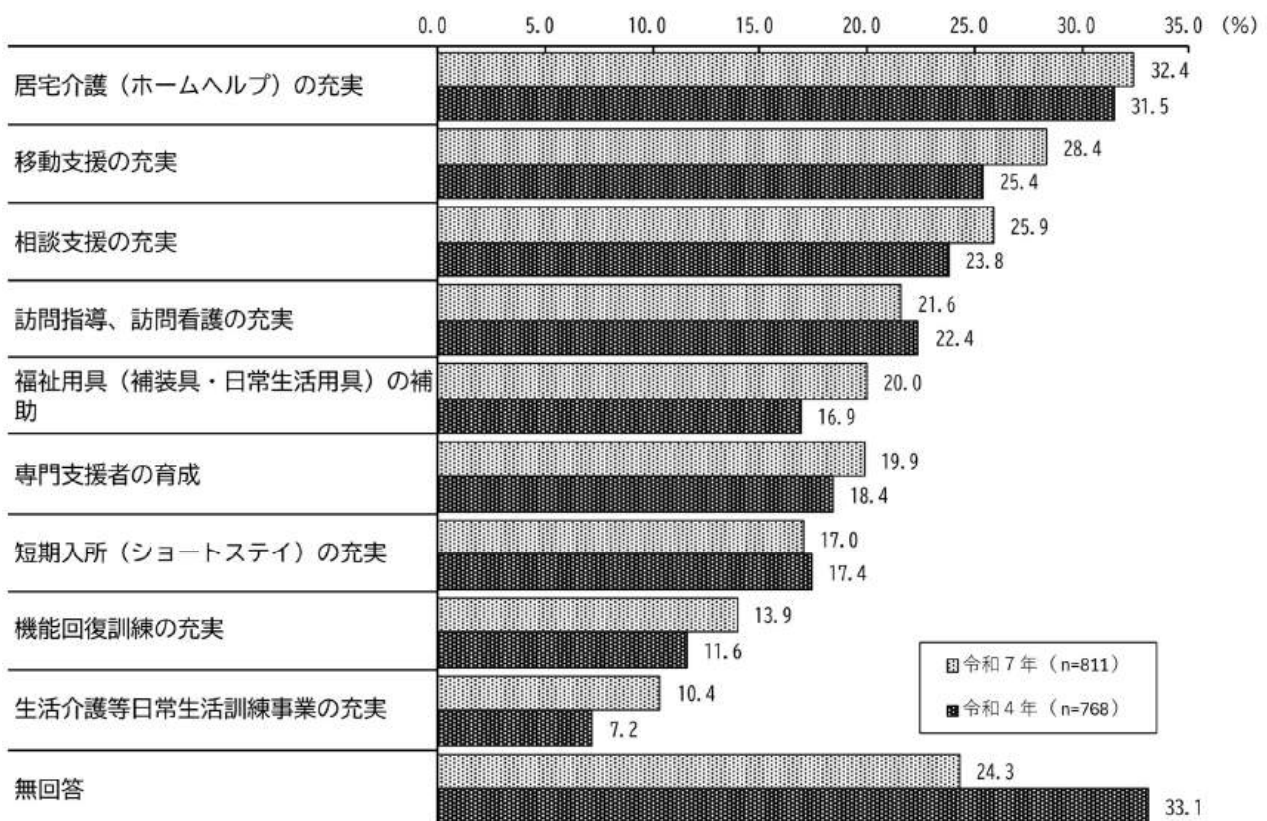
調査票種別でみると、知的では、「訪問指導、訪問看護の充実」が15.1ポイント増加し、「短期入所（ショートステイ）の充実」が10.6ポイント減少している。難病では、「相談支援の充実」が12.0ポイント増加し、「居宅介護（ホームヘルプ）の充実」が8.7ポイント減少している。

障害児では、「短期入所（ショートステイ）の充実」が29.7ポイント、「移動支援の充実」が20.9ポイントそれぞれ増加し、「専門支援者の育成」が11.0ポイント減少している。

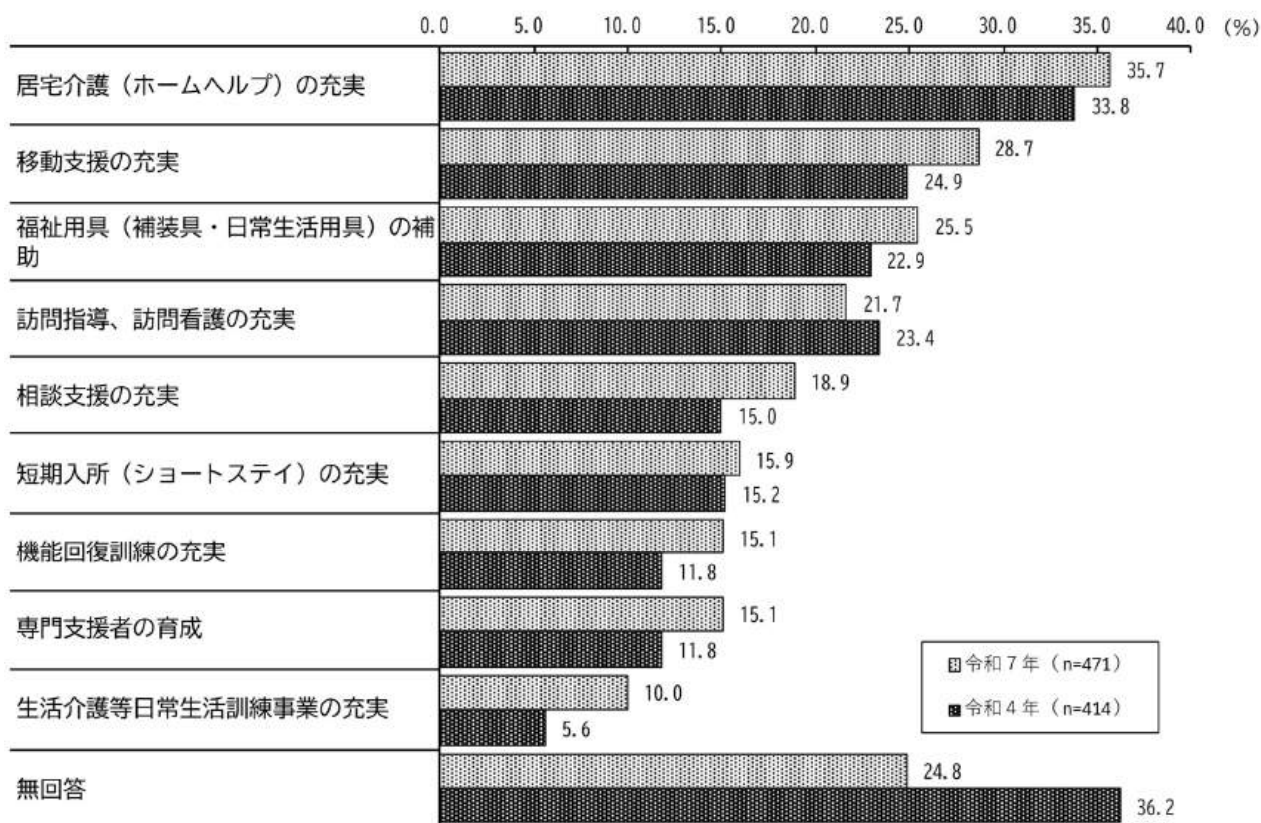
全体では「居宅介護（ホームヘルプ）の充実」が最も望まれているものの、知的では「移動支援の充実」、精神と障害児では「相談支援の充実」、が最も望まれていることから、ニーズに寄り添ったサポートを適切に行い、自立的な日常生活を送ることができる支援を続けていくことや、社会全体で支えていく環境の構築が必要とされる。

生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）

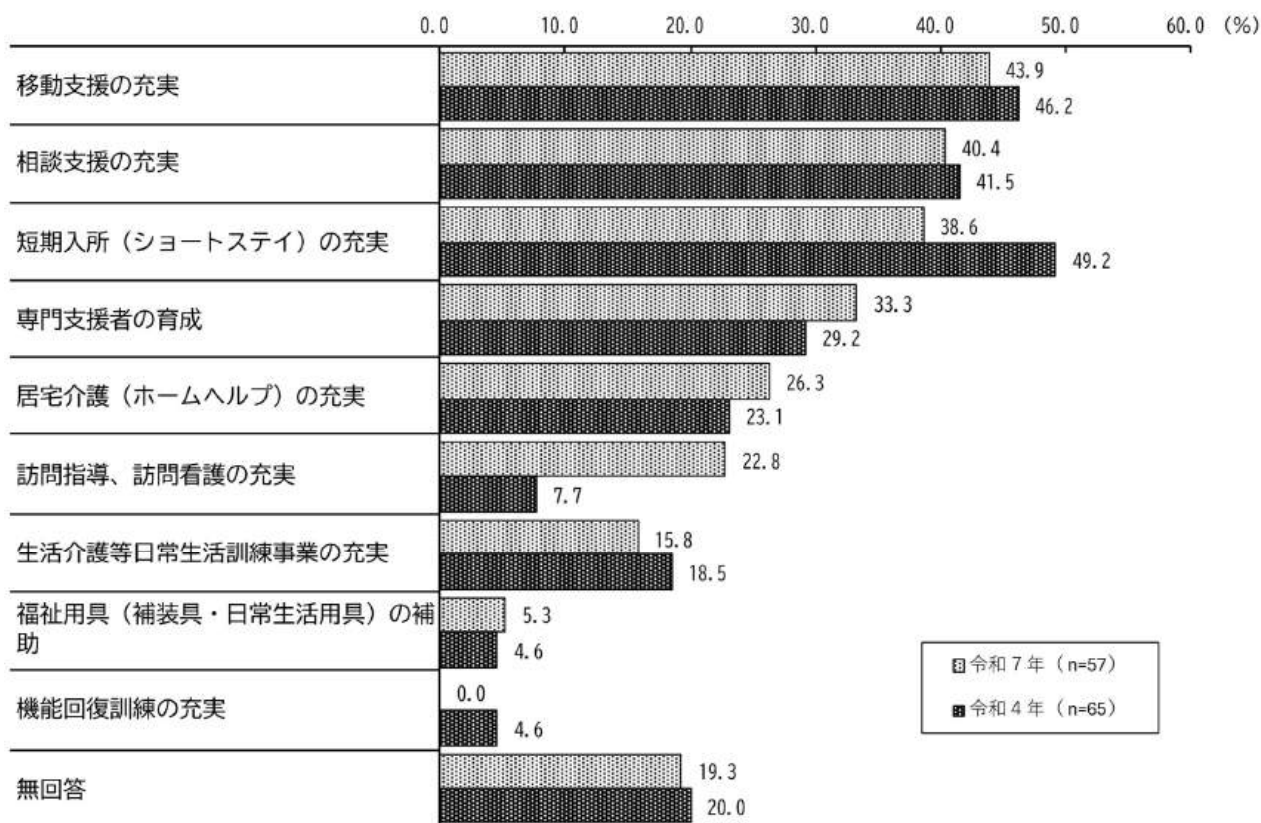
<全体（身体、知的、精神、難病）>



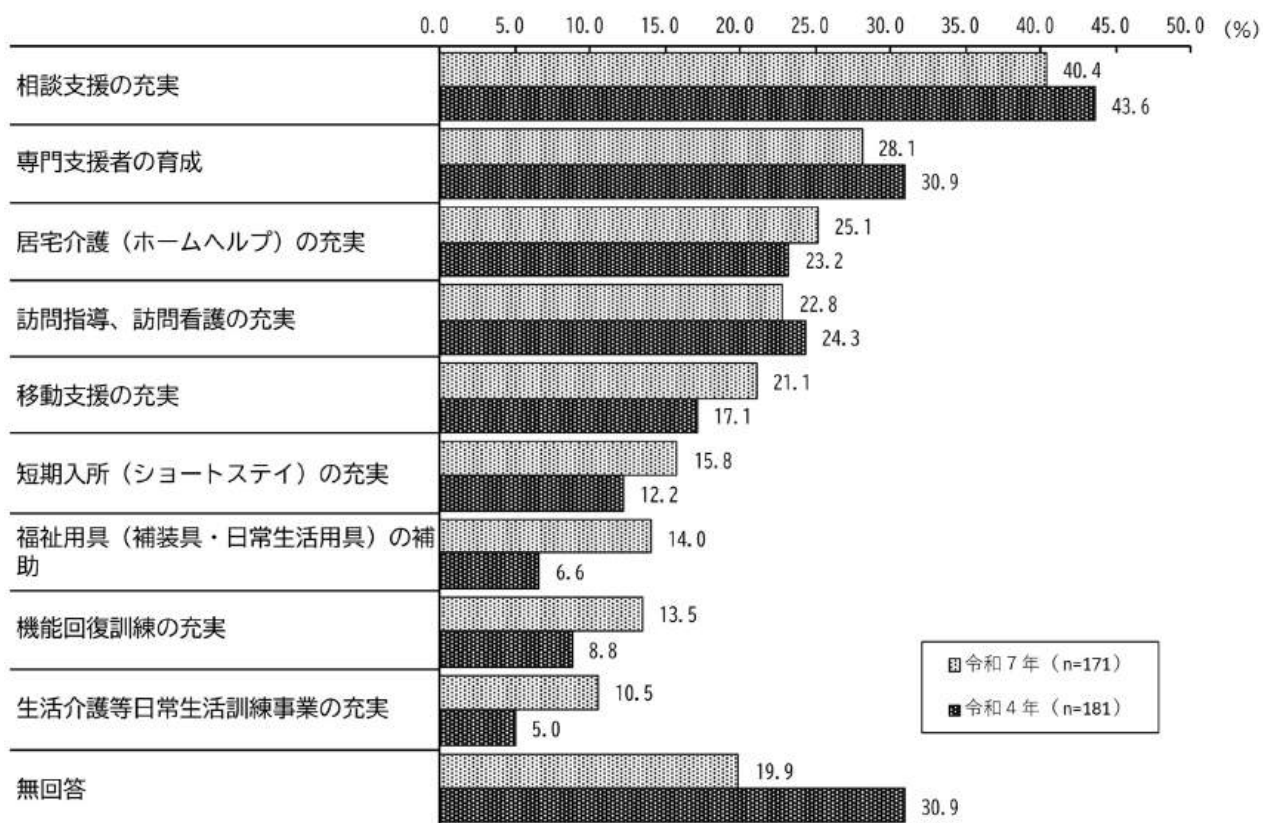
生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜身体＞



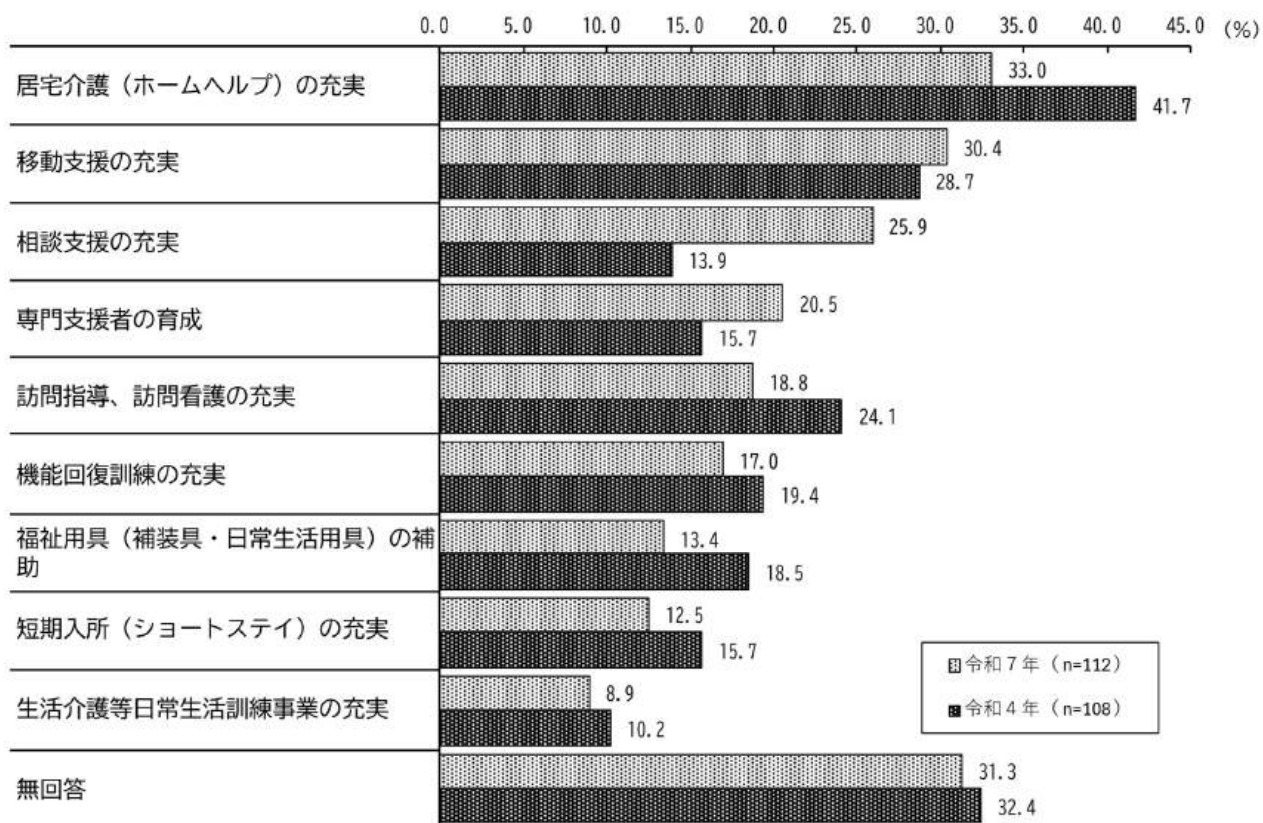
生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜知的＞



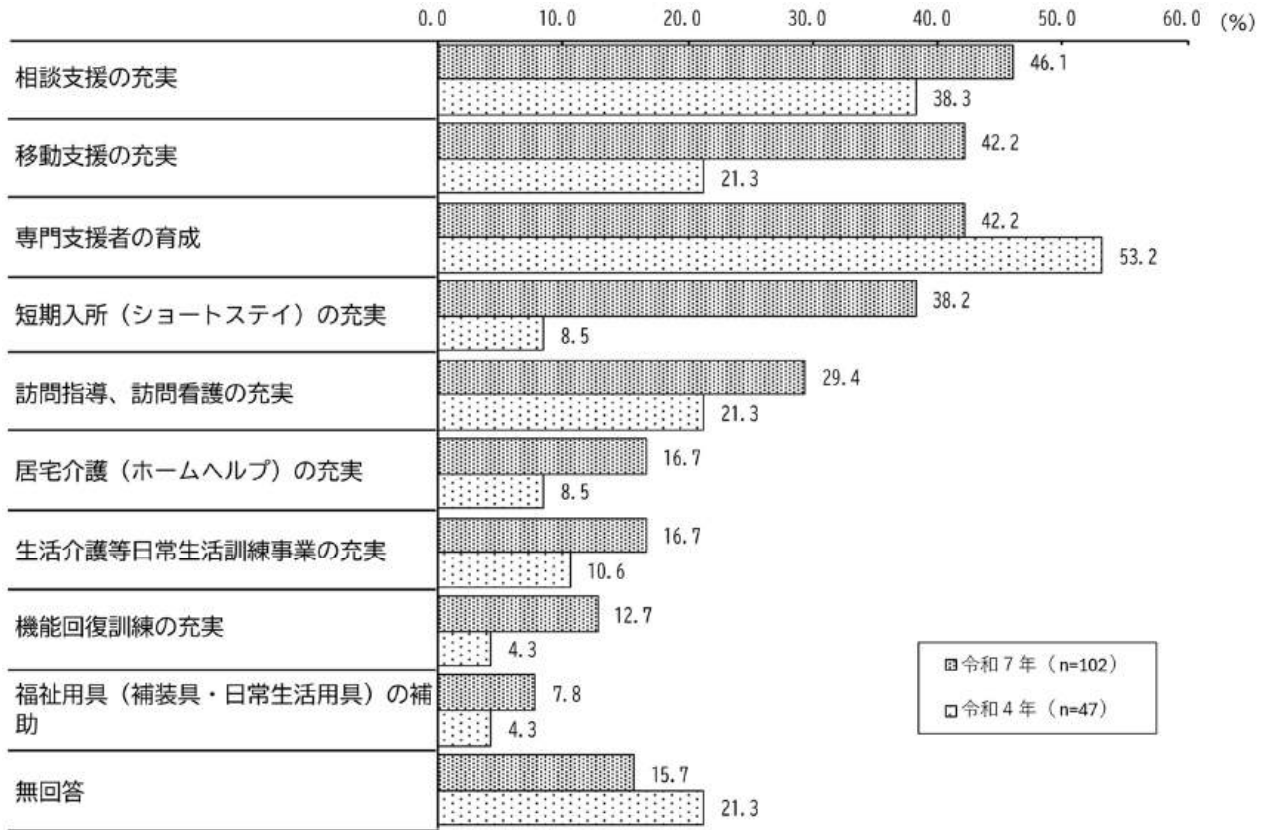
生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜精神＞



生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜難病＞



生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜障害児＞



(7) 余暇活動等について特に力を入れてほしい施策

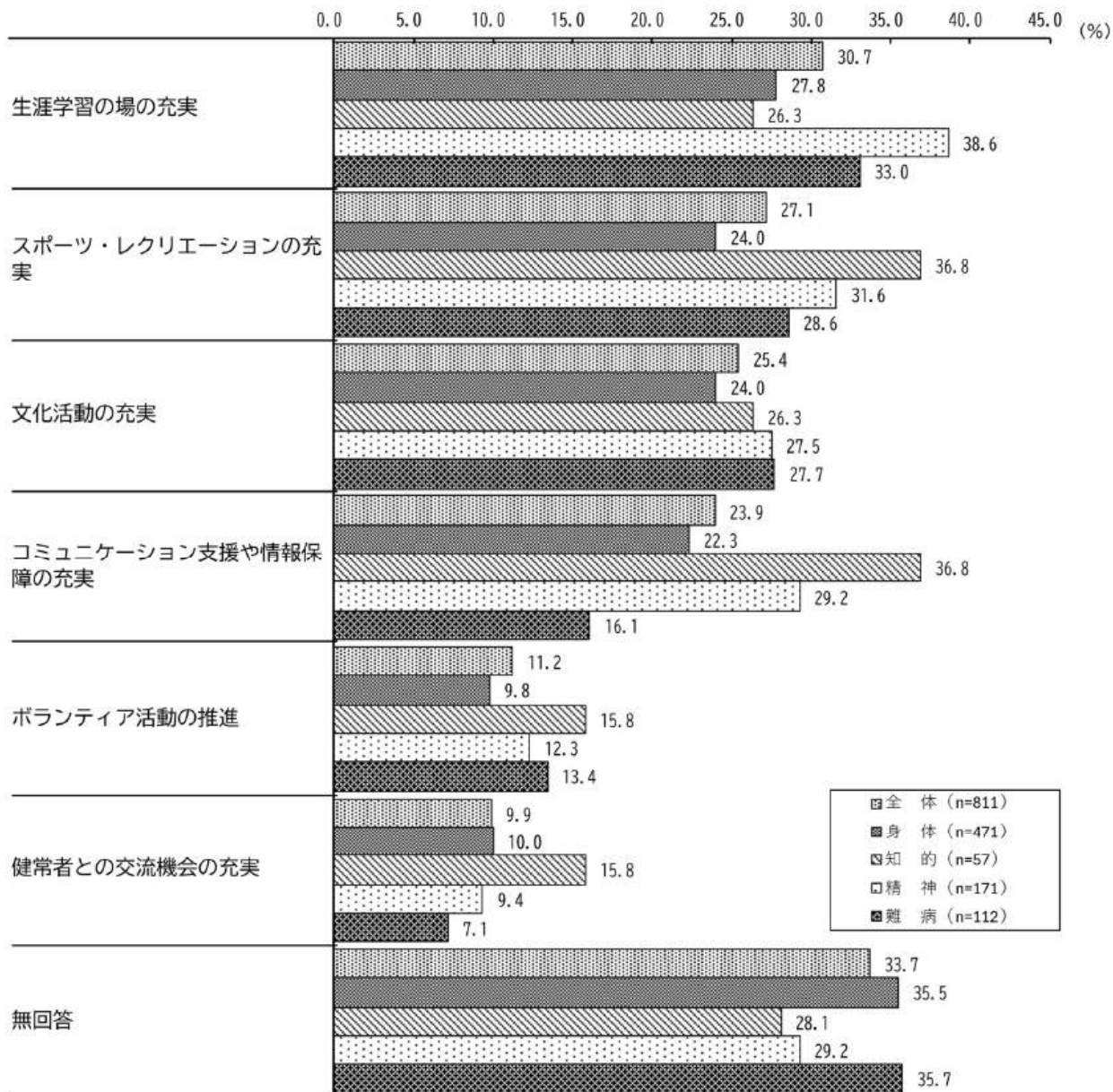
問 千代田区の障害者施策を推進する上で参考にさせていただくため、次の分野ごとのうち特に力を入れてほしい施策についてお答えください。

(5) 余暇活動等について (〇は3つまで)

余暇活動等について特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「生涯学習の場の充実」が30.7%で最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーションの充実」が27.1%、「文化活動の充実」が25.4%などとなっている。

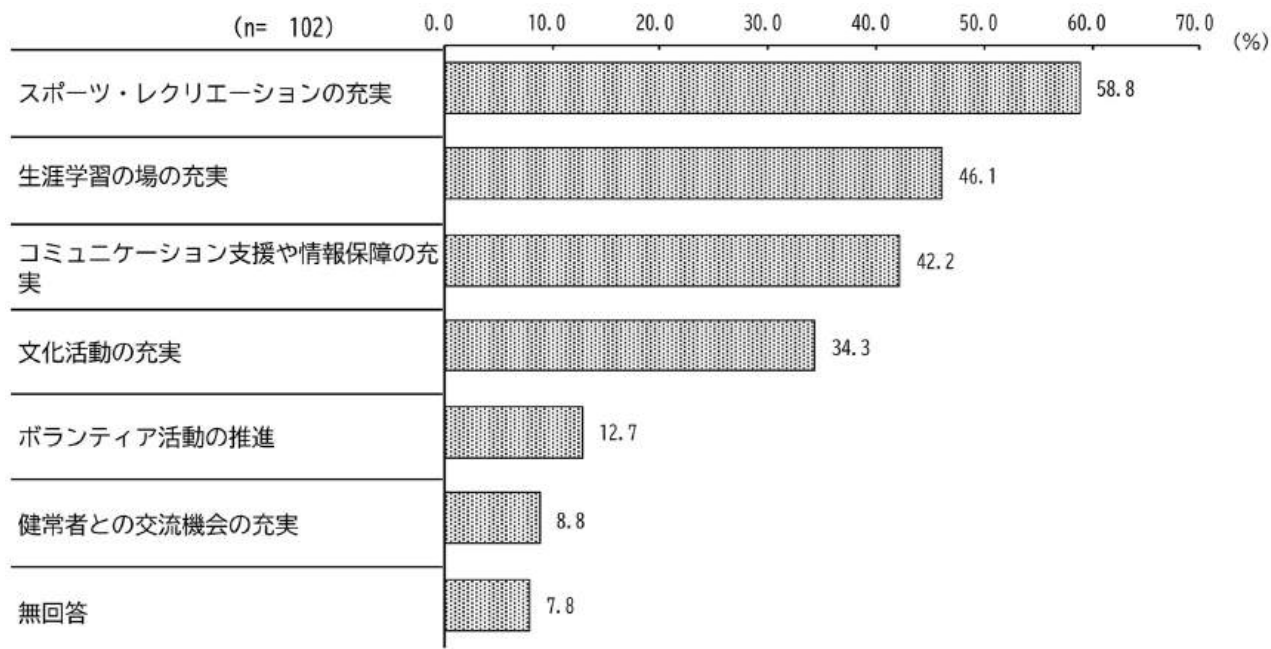
調査票種別で見ると、身体、精神、難病では「生涯学習の場の充実」、知的では「スポーツ・レクリエーションの充実」と「コミュニケーション支援や情報保障の充実」の割合が最も高くなっている。

余暇活動等について特に力を入れてほしい施策 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の余暇活動等について特に力を入れてほしい施策をみると、「スポーツ・レクリエーションの充実」が58.8%で最も高く、次いで「生涯学習の場の充実」が46.1%、「コミュニケーション支援や情報保障の充実」が42.2%などとなっている。

余暇活動等について特に力を入れてほしい施策 <障害児>



【経年比較】

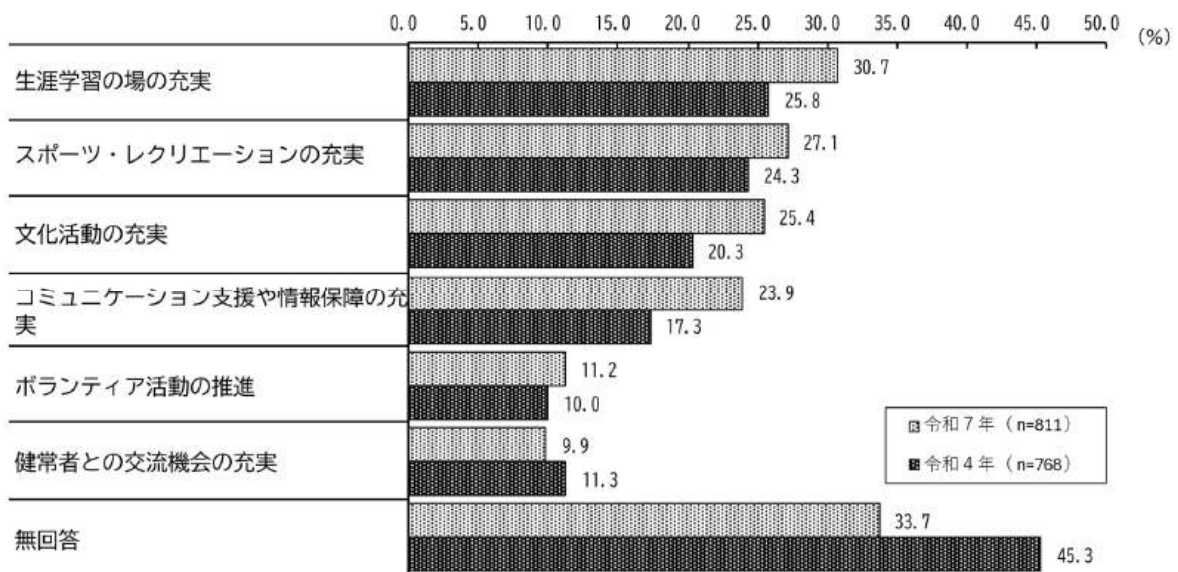
令和4年調査と比較すると、全体では傾向に大きな変化は見られないが、「コミュニケーション支援や情報保障の充実」が6.6ポイント、「文化活動の充実」が5.1ポイントそれぞれ増加している。

調査票種別でみると、難病では「スポーツ・レクリエーションの充実」が11.9ポイント増加している。また、知的では「コミュニケーション支援や情報保障の充実」が10.6ポイント増加し、「生涯学習の場の充実」が16.8ポイント、「健常者との交流機会の充実」が10.4ポイントそれぞれ減少している。

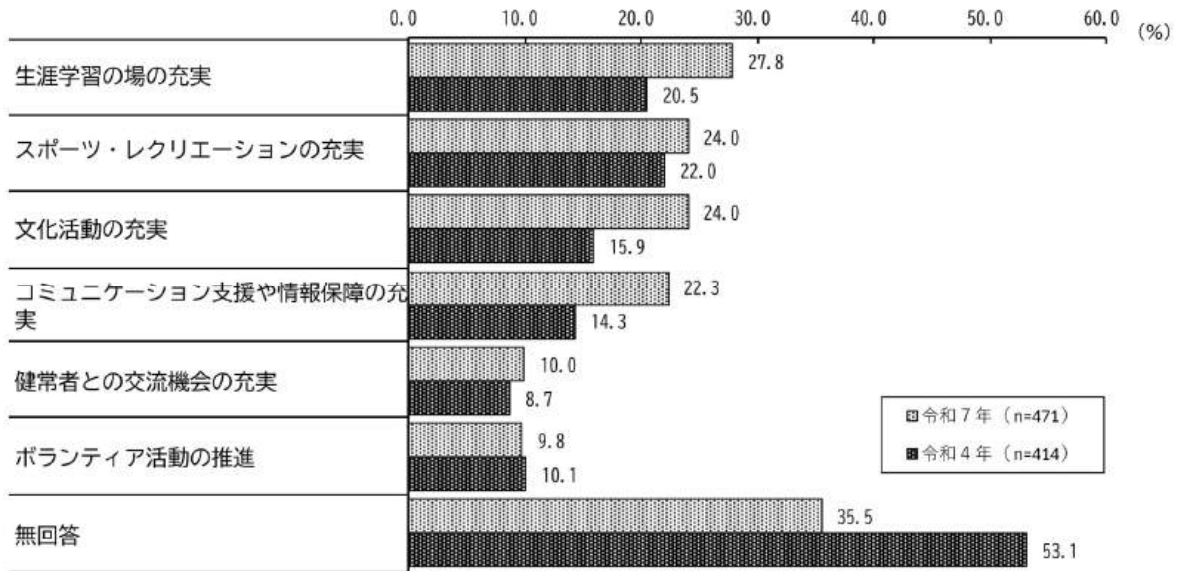
障害児では「生涯学習の場の充実」が12.1ポイント、「スポーツ・レクリエーションの充実」が9.9ポイントそれぞれ増加している。

全体では「生涯学習の場の充実」、障害児では「スポーツ・レクリエーションの充実」が最も望まれている。障害等のある方々の選択肢の幅や可能性を広げ、心身ともに充実した生活を送る手助けとなるべく、多種多様な場所での学習機会の充実及びスポーツ・レクリエーション機会の更なる創出などの取り組みが求められる。

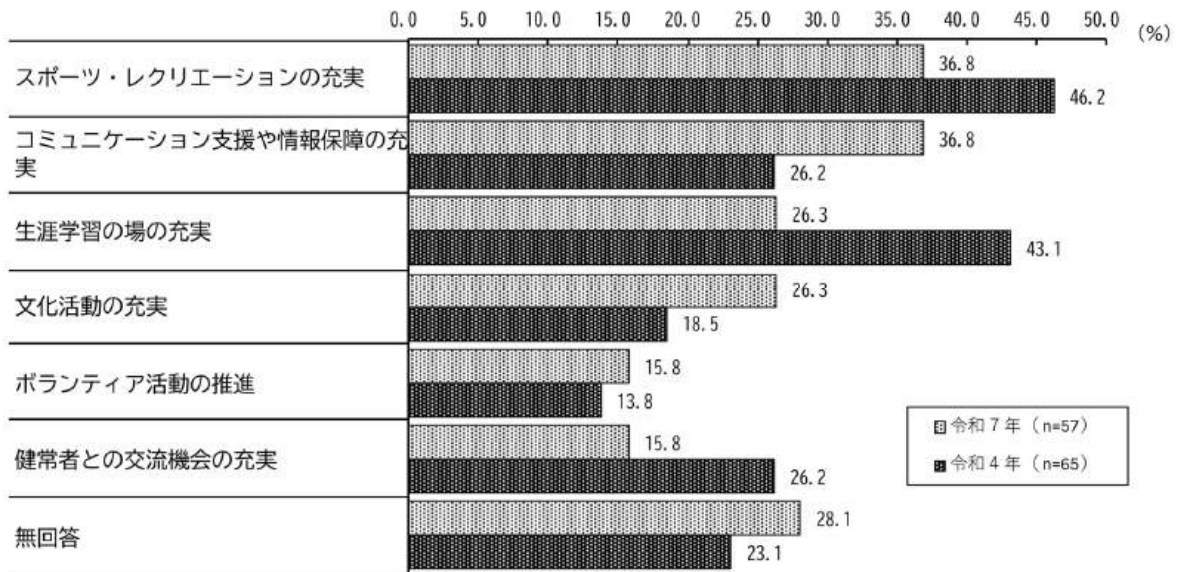
余暇活動等について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



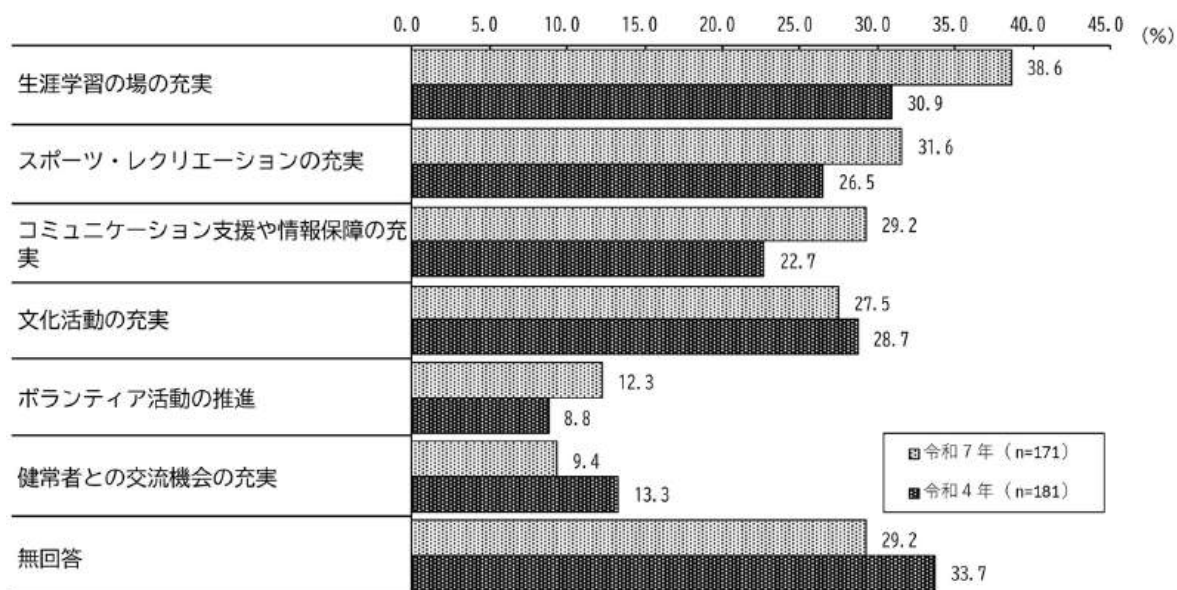
余暇活動等について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜身体＞



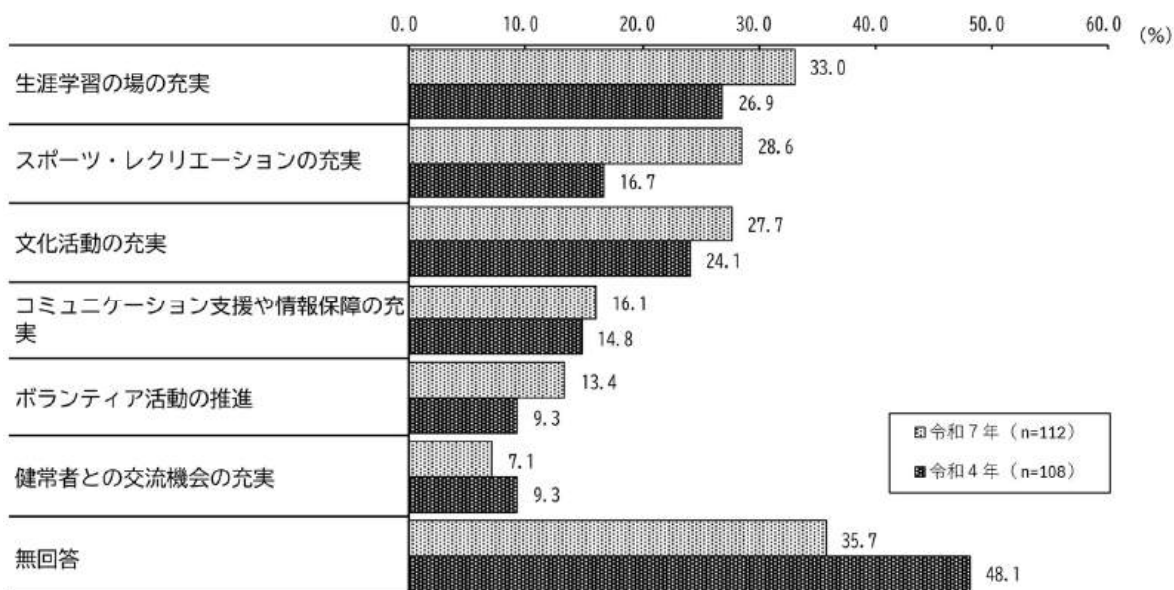
余暇活動等について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜知的＞



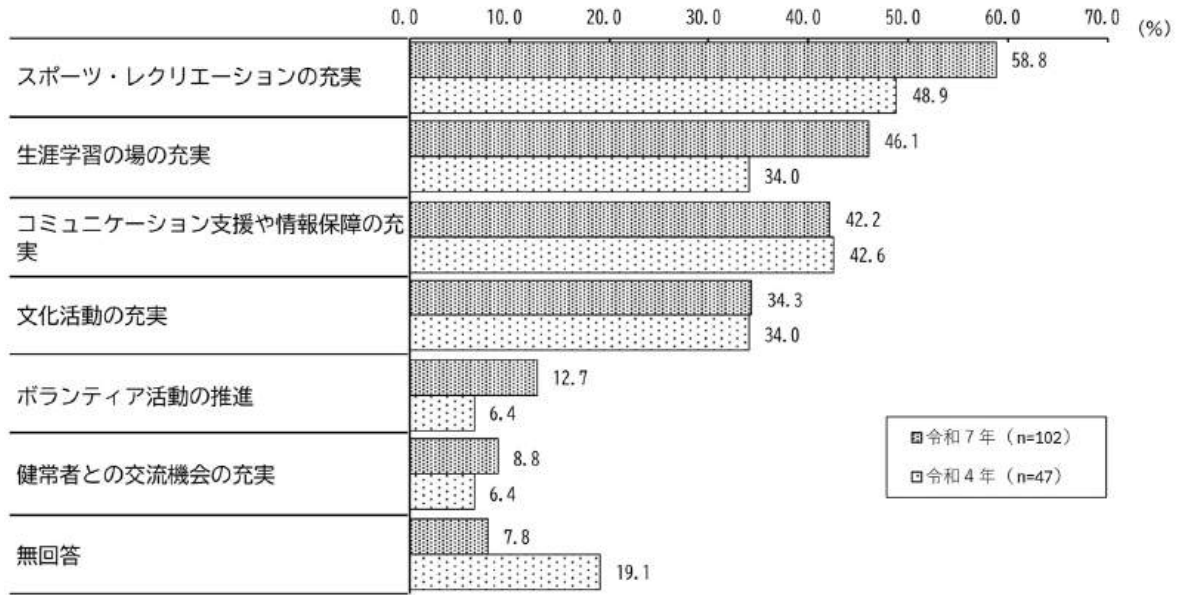
余暇活動等について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜精神＞



余暇活動等について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜難病＞



余暇活動等について特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜障害児＞



(8) その他の特に力を入れてほしい施策

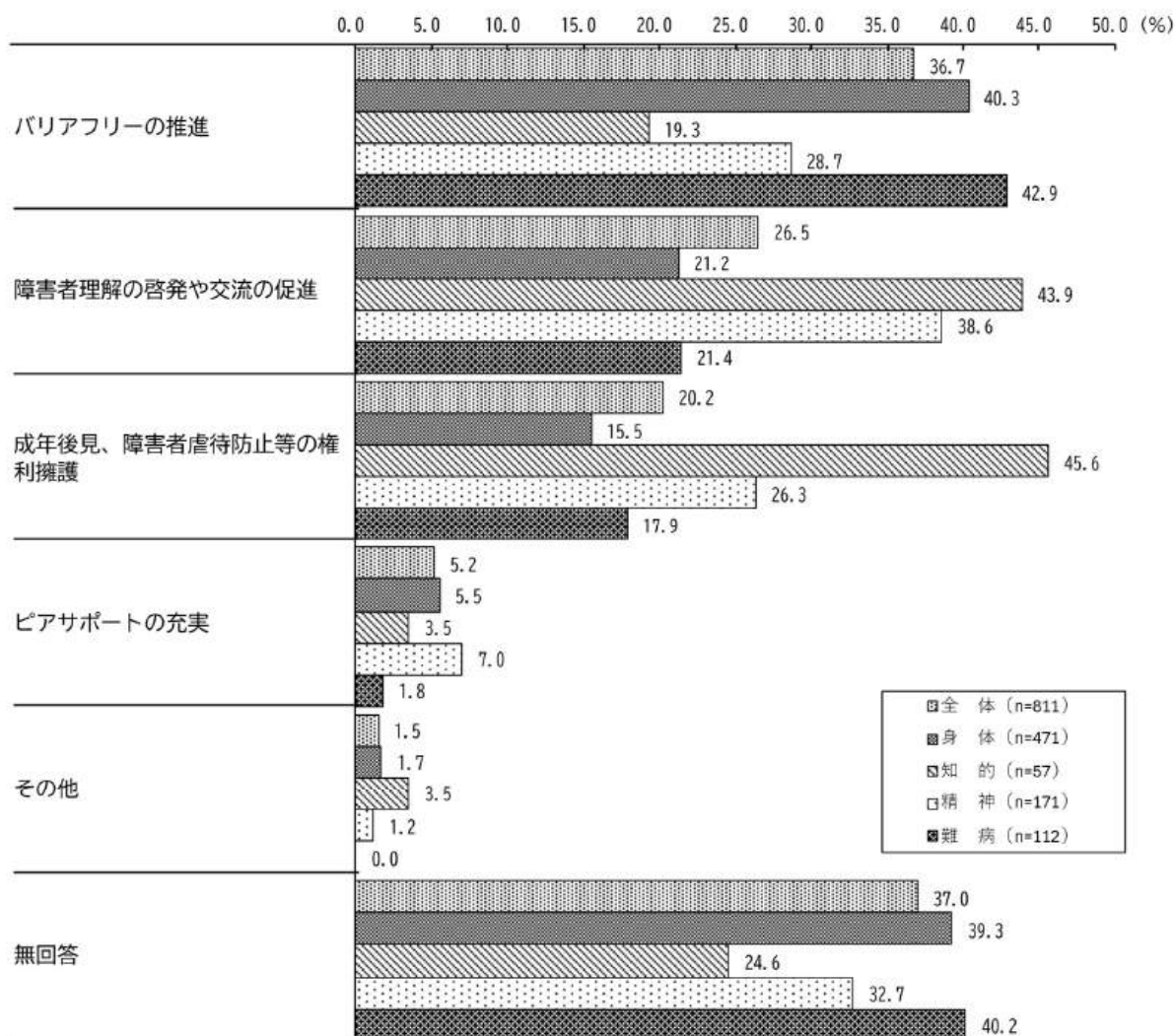
問 千代田区の障害者施策を推進する上で参考にさせていただくため、次の分野ごとのうち特に力を入れてほしい施策についてお答えください。

(6) その他 (〇は2つまで)

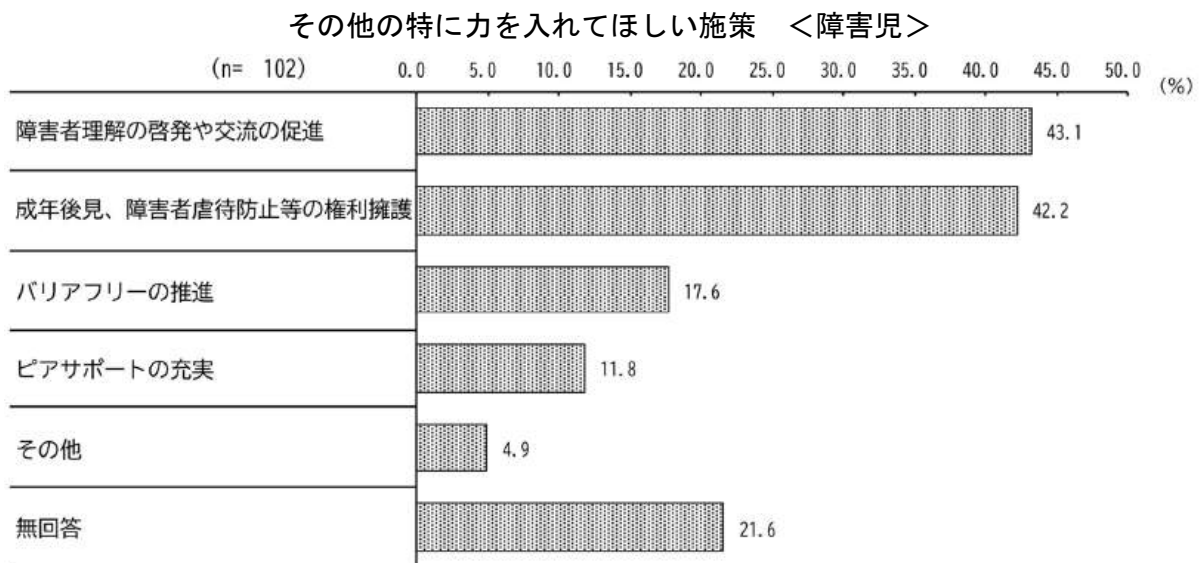
その他の特に力を入れてほしい施策について、全体でみると、「バリアフリーの推進」が36.7%で最も高く、次いで「障害者理解の啓発や交流の促進」が26.5%、「成年後見、障害者虐待防止等の権利擁護」が20.2%となっている。

調査票種別でみると、身体と難病では「バリアフリーの推進」、知的では、「成年後見、障害者虐待防止法等の権利擁護」、精神では「障害者理解の啓発や交流の促進」の割合が最も高くなっている。

その他の特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児のその他の特に力を入れてほしい施策をみると、「障害者理解の啓発や交流の促進」が43.1%で最も高く、次いで「成年後見、障害者虐待防止等の権利擁護」が42.2%、「バリアフリーの推進」が17.6%となっている。



【経年比較】

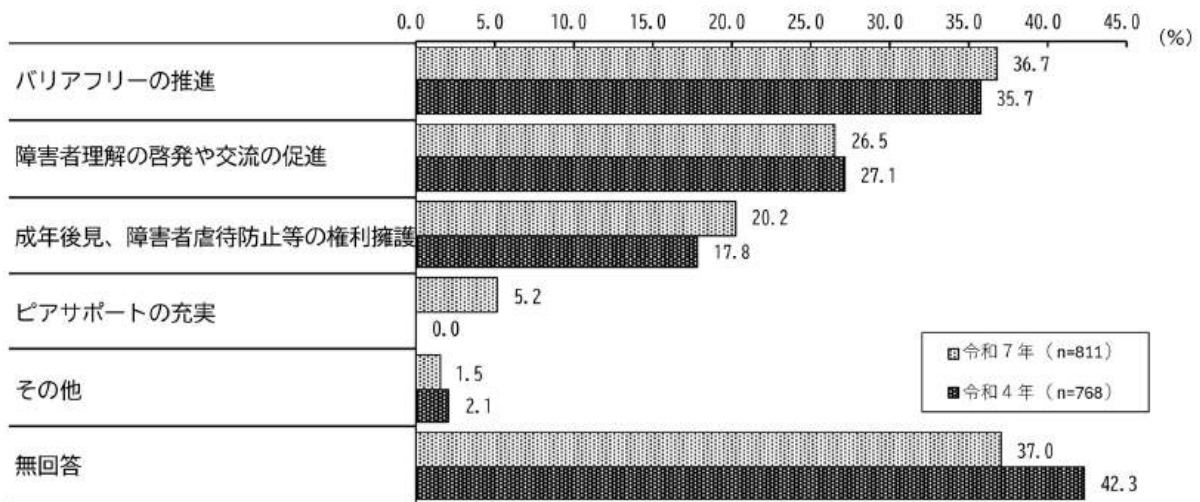
令和4年調査と比較すると、全体では、前回同様に「バリアフリーの推進」、「障害者理解の啓発や交流の促進」、「成年後見、障害者虐待防止等の権利擁護」の順で高くなっており、傾向の違いはみられない。令和7年度から追加された「ピアサポートの充実」は、全体で5.2%、精神では7.0%であった。

調査票種別でみると、知的で「バリアフリーの推進」が7.0ポイント増加し、「障害者理解の啓発や交流の促進」が3.8ポイント減少している。

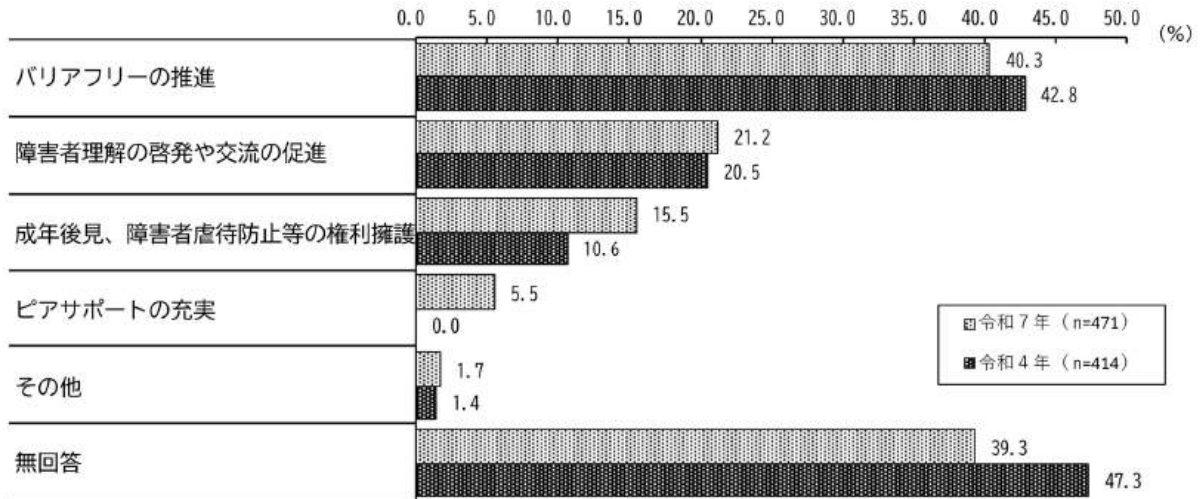
障害児では、前回同様に「障害者理解の啓発や交流の促進」、「成年後見、障害者虐待防止等の権利擁護」、「バリアフリーの推進」の順で高くなっており、傾向の違いはみられない。令和7年度から追加された「ピアサポートの充実」は、11.8%であった。

令和4年調査に引き続き、全体では「バリアフリーの推進」、障害児では「障害者理解の啓発や交流の促進」が最も望まれていることから、等しく利用しやすい公共設備の整備およびインクルーシブ教育や健常者と障害等がある方の交流の場の充実により、健常者と障害者がより等しく生活しやすい社会の基盤整備を継続的に行っていくことが求められる。

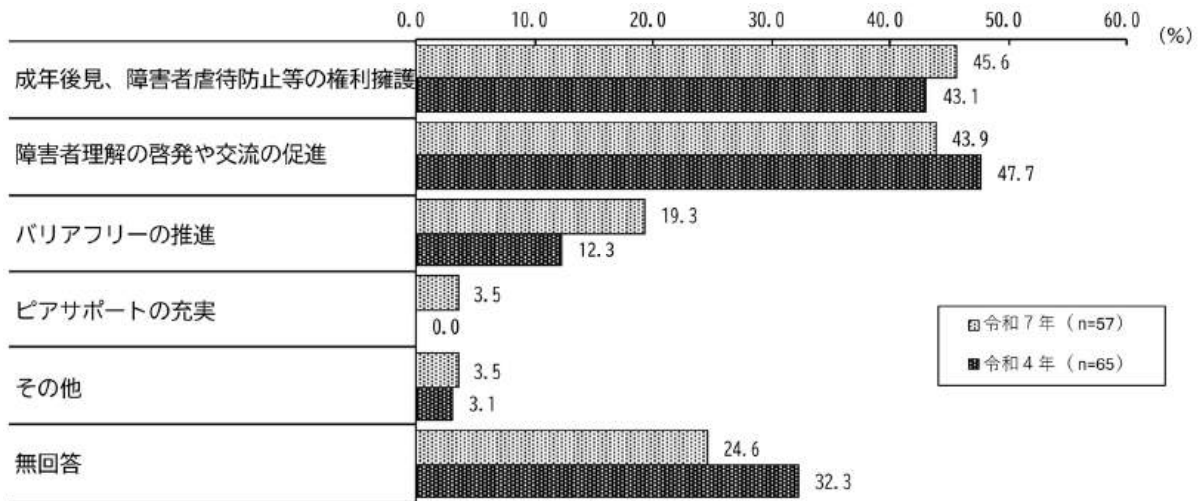
その他の特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



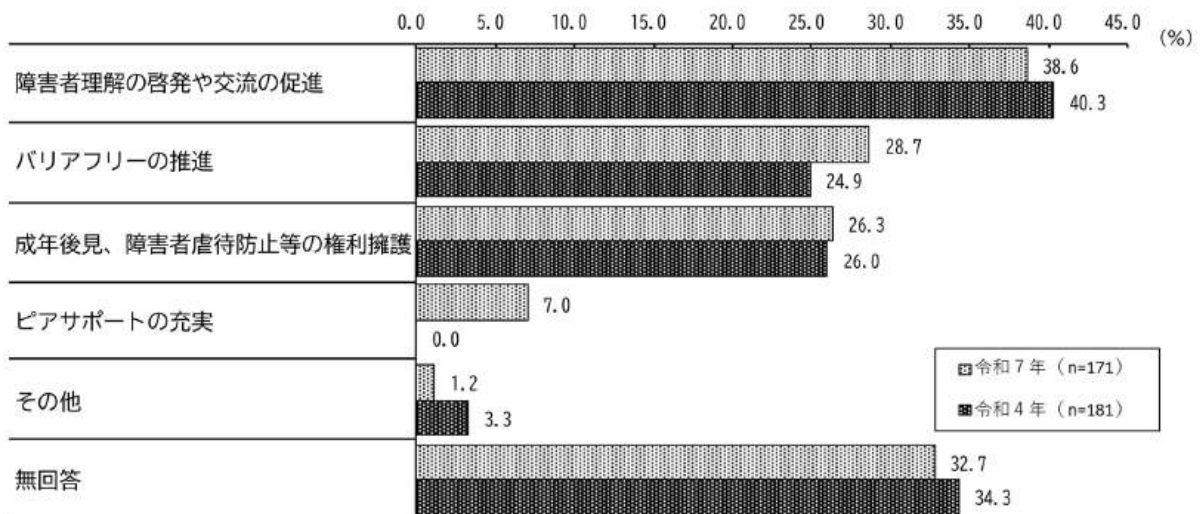
その他の特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜身体＞



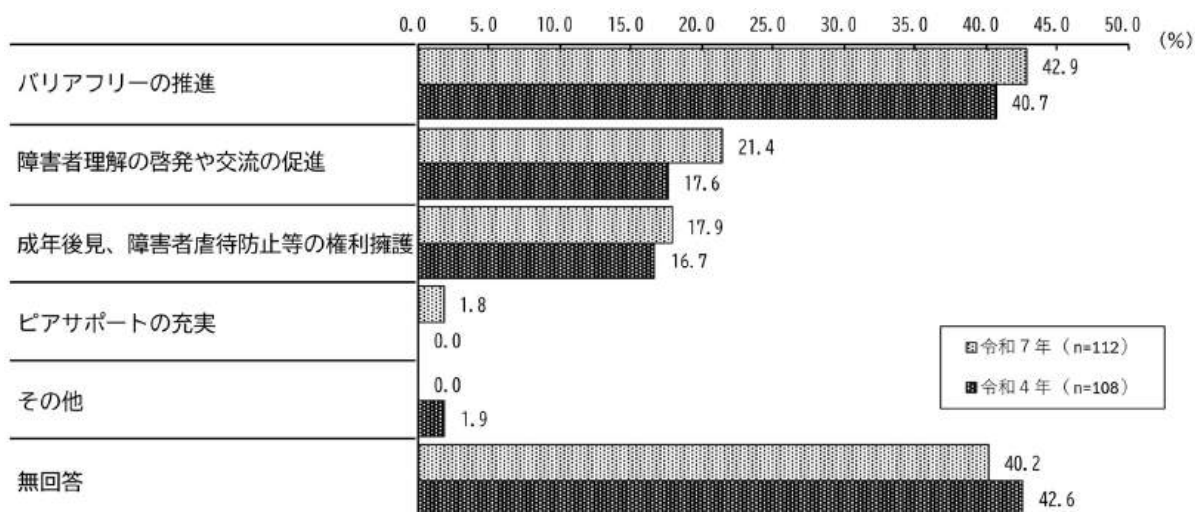
その他の特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜知的＞



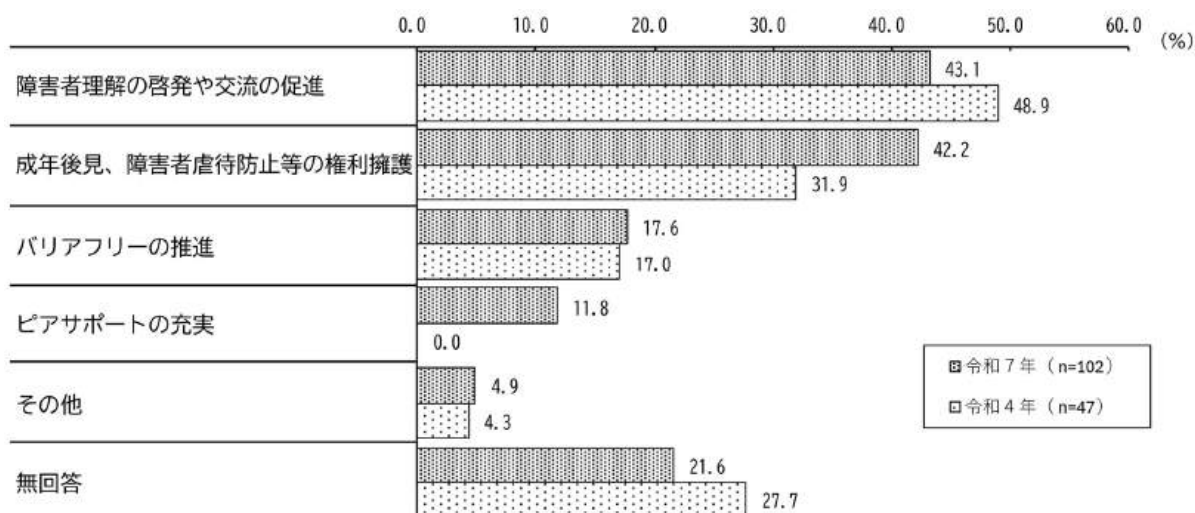
その他の特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜精神＞



その他の特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜難病＞



その他の特に力を入れてほしい施策（経年比較）＜障害児＞



12 特別設問（令和7年新設）

（1）福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態

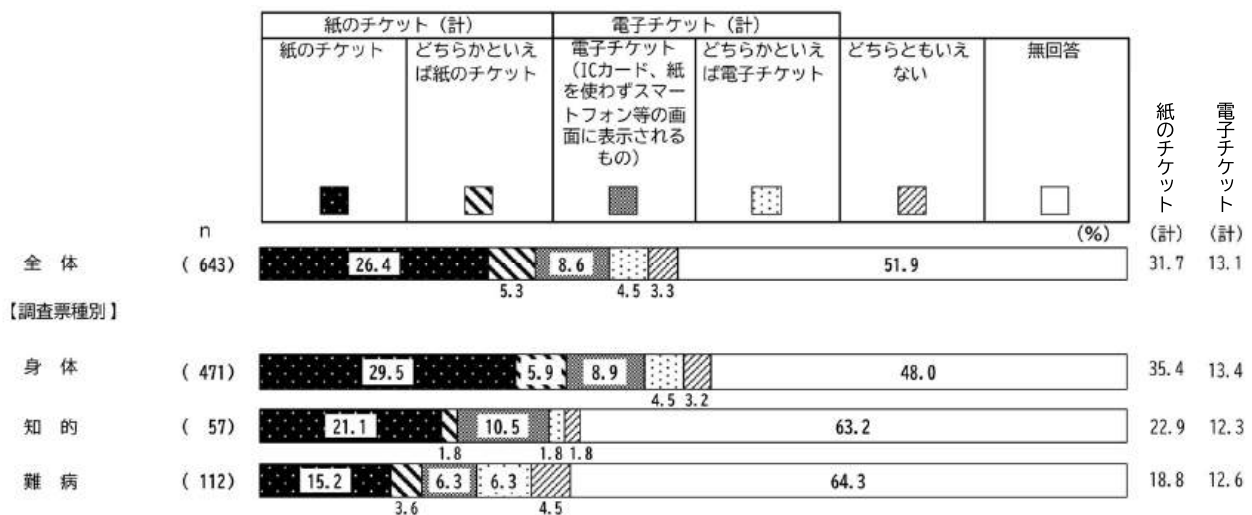
問 福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）をご利用中の方にお聞きします。

福祉タクシー券について、次のうちどの形態が良いと思いますか。（1つだけに○）

好む福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態について、全体でみると「紙のチケット」が26.4%で最も高く、次いで「電子チケット（ICカード、紙を使わずスマートフォン等の画面に表示されるもの）」が8.6%となっており、『紙のチケット（計）』は31.7%、『電子チケット（計）』は13.1%となっている。

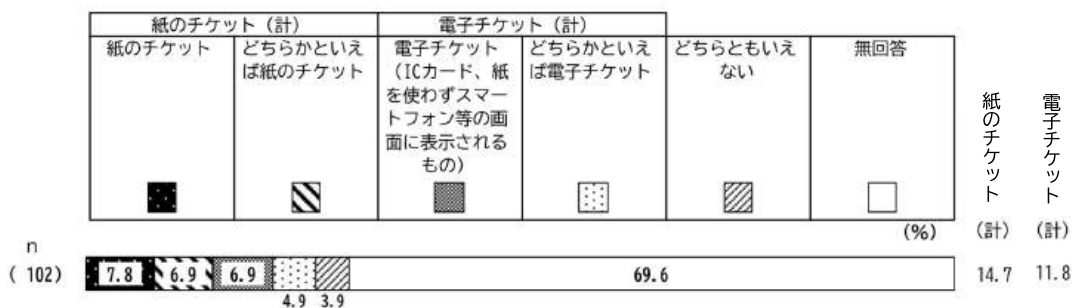
調査票種別でみると、身体で『紙のチケット（計）』が35.4%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態 <全体（身体、知的、難病）>



障害児が好む福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態をみると、「紙のチケット」が7.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えば紙のチケット」と「電子チケット（ICカード、紙を使わずスマートフォン等の画面に表示されるもの）」がそれぞれ6.9%となっており、『紙のチケット（計）』が14.7%、『電子チケット（計）』が11.8%となっている。

福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態 <障害児>



(2) 紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由

（福祉タクシー券の形態について、「紙のチケット」もしくは「どちらかといえば紙のチケット」と答えられた方にお聞きします。）

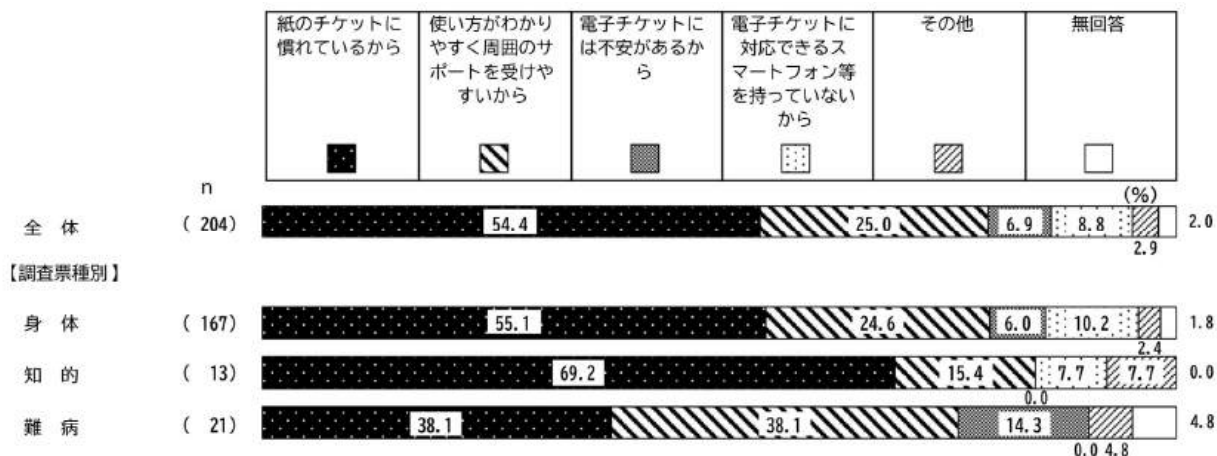
問 福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）をご利用中の方にお聞きします。

当てはまる理由を、次の中からお選びください。（1つだけに○）

紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由について、全体でみると、「紙のチケットに慣れているから」が54.4%と最も高く、次いで「使い方がわかりやすく周囲のサポートを受けやすいから」が25.0%、「電子チケットに対応できるスマートフォン等を持っていないから」が8.8%などとなっている。

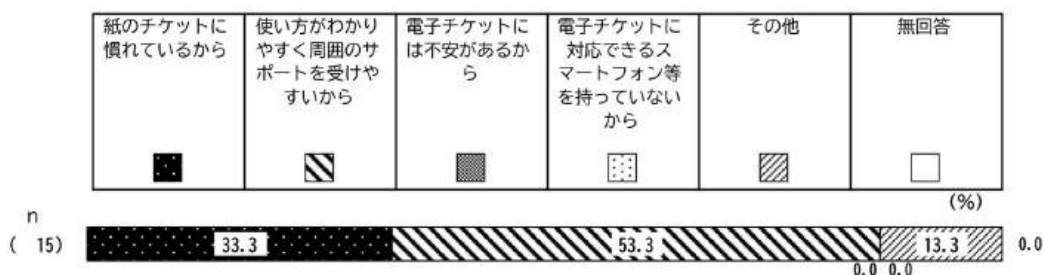
調査票種別でみると、身体、知的では「紙のチケットに慣れているから」、難病では「紙のチケットに慣れているから」と「使い方がわかりやすく周囲のサポートを受けやすいから」の割合が最も高くなっている。

紙の福祉タクシー券を支持する理由 <全体（身体、知的、難病）>



障害児が紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由をみると、「使い方がわかりやすく周囲のサポートを受けやすいから」が53.3%と最も高く、次いで「紙のチケットに慣れているから」が33.3%などとなっている。

紙の福祉タクシー券を支持する理由 <障害児>



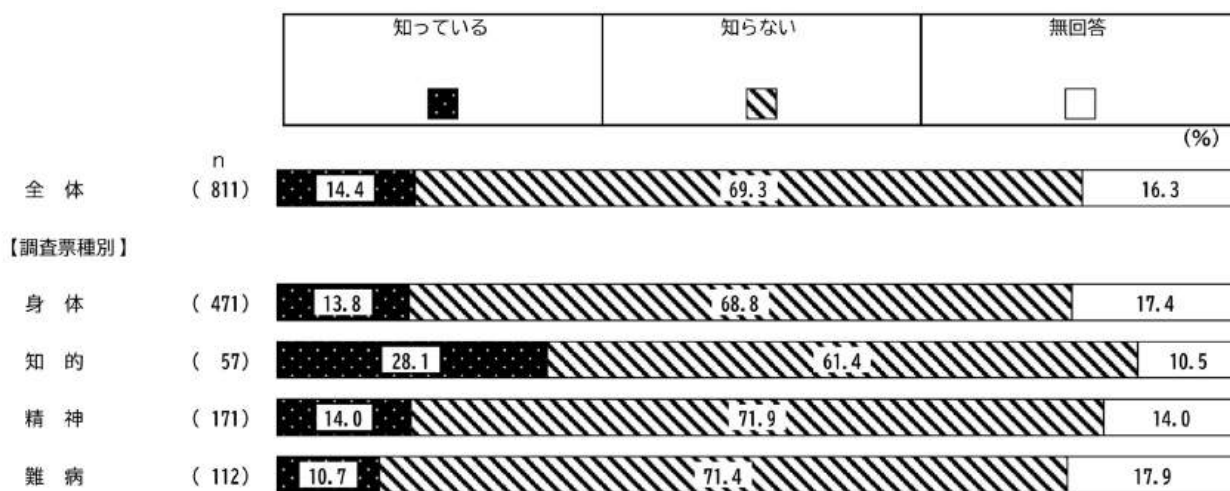
(3) OriHime の認知度

問 区が実証的に活用している分身ロボット「OriHime」についてお聞きます。
分身ロボット「OriHime」をご存じでしょうか。(1つだけに○)

OriHime の認知度について、全体でみると「知らない」が 69.3%、「知っている」が 14.4%となっている。

調査票種別でみると、すべての種別で「知らない」の割合が最も高くなっており、知的では「知っている」が 28.1%と全体より高くなっている。

OriHime の認知度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の OriHime の認知度とみると、「知らない」が 63.7%、「知っている」が 24.5%となっている。

OriHime の認知度 <障害児>



(4) OriHime 活用希望の有無

(OriHime を「知っている」と答えた方にお聞きします。)

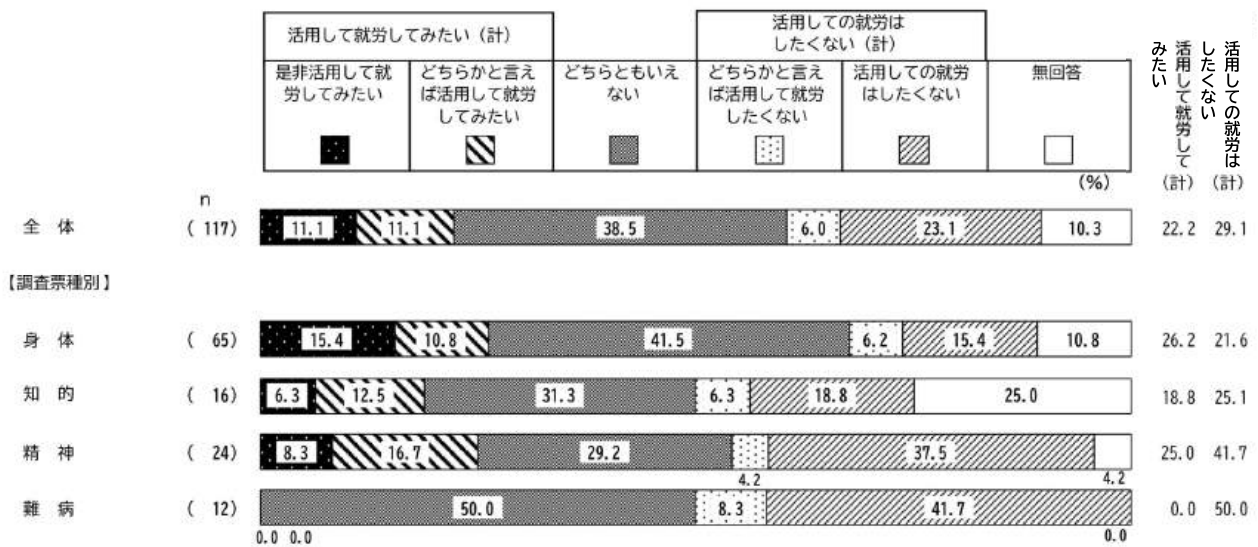
問 区が実証的に活用している分身ロボット「OriHime」についてお聞きします。

OriHime を活用して就労してみたいと思いますか。(1つだけに○)

OriHime 活用希望の有無について、全体でみると「どちらともいえない」が 38.5% で最も高く、次いで「活用しての就労はしたくない」が 23.1%、「是非活用して就労してみたい」と「どちらかと言えば活用して就労してみたい」がそれぞれ 11.1% などとなっている。

調査票種別でみると、身体、知的、難病では「どちらともいえない」、精神では「活用しての就労はしたくない」の割合が最も高くなっている。

OriHime 活用希望の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の OriHime 活用希望の有無をみると、「どちらともいえない」と「活用しての就労はしたくない」がそれぞれ 36.0% で最も高くなっている。

OriHime 活用希望の有無 <障害児>



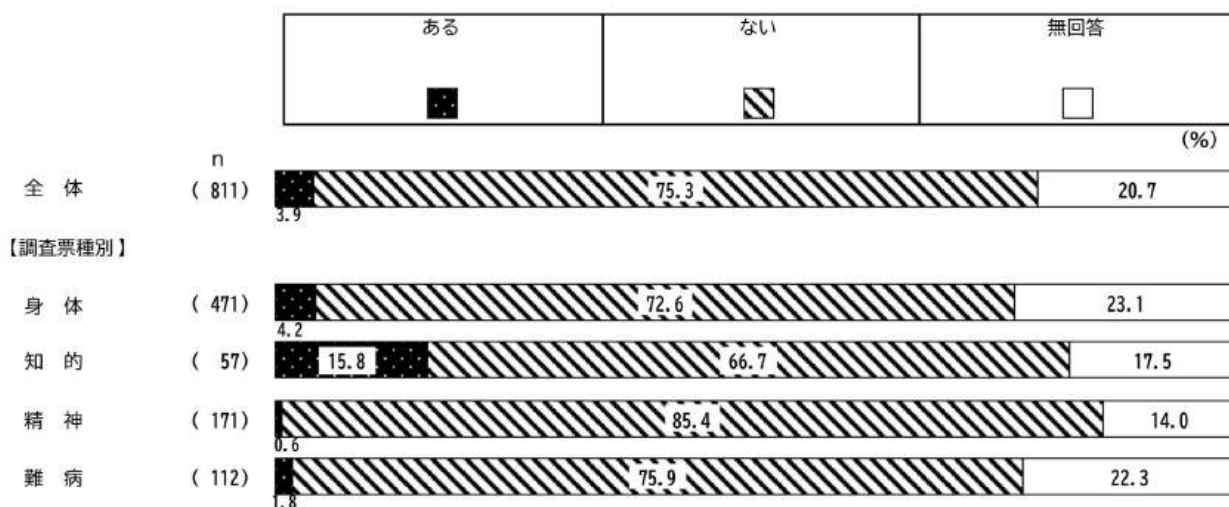
(5) 「良かったこと調査」の参加の有無

問 千代田区ポータルサイトで実施している「良かったこと調査」に参加したことがありますか。(1つだけに○)

「良かったこと調査」の参加の有無について、全体でみると「ない」が75.3%、「ある」が3.9%となっている。

調査票種別でみると、すべての種別で「ない」の割合が最も高く、知的では「ある」が15.8%と他の種別と比べて高くなっている。

「良かったこと調査」の参加の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の「良かったこと調査」の参加の有無をみると、「ない」が85.3%、「ある」は6.9%となっている。

「良かったこと調査」の参加の有無 <障害児>



千代田区第8期障害福祉計画、第4期障害児
福祉計画策定のためのアンケート調査

報 告 書

令和7(2025)年9月

千代田区 保健福祉部 障害者福祉課

〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1
電話：03-3264-2111（代表） F A X：03-3239-8606
U R L：https://www.city.chiyoda.lg.jp